

10 517

35

108

又學士高田早苗著

貨幣新論

東京 東洋館印行

定價金壹圓五拾錢



貨幣新論例言

一紙幣價格ノ下落シテ銀貨相場ノ騰貴スルヤ大ニ世人ヲシテ貨幣ノ原理ヲ講スルノ念ヲ起サシム加フルニ余今現ニ東京専門學校ノ學生ニ授クルニ貨幣ノ原理ヲ以テスルノ要アルニ遇フ故ニ此書ヲ述作シ廣ク之ヲ世ニ問ヒ併セテ學生ニ授クルノ科本トス

一本論ヲ大別シテ硬貨論、紙幣論、手形論ノ三篇トシ凡ソ事項ノ貨幣流通ノ原理ニ關スルモノハ細大共ニ論シテ遺ス所ナシ但本論ノ主旨貨幣流通ノ原理ヲ論スルニ在ルヲ以テ問目ノ實際ニ涉ルモノハ大抵省テ之ヲ載セス讀者能ク其原理ヲ玩味シ之ヲ實際ニ應用セハ則チ可ナリ

(一)

一本論ハ米人ウチナルカア著貨幣論(原名モニ)英人セボンズ著貨幣論

(二)

(原名モニー、エンド、メカニズム、ナフ、エキスチエンジ)ノ二書ニ據リ立
 論ノ大体ヲ定ムト雖亦旁ラリカルド、マルサス、ミル、ケヤ子ス、コオ
 セイユ、セニオル、ウチロウスキー、プライイス、マクレオツド、及ビサムナ
 ル等ノ著書ヲ涉獵シ其說ヲ以テ之ヲ補足スルモノ多シ
 一泰西ノ貨幣論ヲ述作スルモノ多ク自家ノ所信ニ僻シ頗ル後學ニ便
 ナラズ是ヲ以テ余ハ勉メテ一方ニ偏セス周ク諸家ノ議論ヲ參酌シ
 以テ此書ヲ編シ其公平ニシテ私ナキヲ期ス

明治十七年一月

高田早苗識

貨幣新論目錄

上卷 硬貨論

第一章 物々貿易ヲ論ス

人生ノ始メ分業ノコト無シ、分業起テ社會始メテ進歩ス、經濟
 學者動々モスレハ分業ノ小利ヲ擧ケテ其大利ヲ遺ル、分業起テ
 交換始マル、交換ノ何者タルヲ論ス、用ト價值トハ物質ノ固有
 ニ非ラス、交換ハ物々ノ貿易ニ基スル事、物々貿易ト賣買トノ
 區別、物々貿易ノ大不便、

第二章 貨幣ノ作用ヲ論ス

貨幣一タヒ出テ、物々貿易ノ不便消滅ス、貨幣ノ四大作用、貨
 幣ハ價值ノ尺度ニアラス、貨幣ヲ價值ノ本位ナリト謂フ弊、貨

貨幣新論目錄

(一)

(二)

貨幣新論目錄

- 幣ハ必ラス四大作用ヲ兼子サルヘカラスト謂フノ理ナシ、
- 第三章 貨幣ノ歴史ヲ叙ス
 - 貨幣必ラスシモ金銀ナラス、佃獵種族ノ貨幣、收畜種族ノ貨幣、修飾品ヲ貨幣トナシタル例、耕作國ノ貨幣、雜品ヲ貨幣トナシタル例、
- 第四章 貨幣ノ物質ヲ論ス
 - 物質ハ其作用ノ何如ニ依テ定メサルヘカラズ、貨幣物質ノ七大要項、金屬ヲ貨幣トナスノ得失、金銀ノ最モ貨幣ニ適スル理由
- 第五章 貨幣ノ鑄造ヲ論ス
 - 貨幣鑄造ノ起原、鑄造貨幣ノ釋義、貨幣鑄造ノ注意、貨幣鑄造ハ人民ノ自由ニ任スベカラス、
- 第六章 貨幣流通ノ原理ヲ論ス

(三)

貨幣新論目錄

- 價值ノ一位、流通貨幣、勘定名稱ノ釋義及其關係、標準貨幣、割引貨幣ノ二別、物質價值及名目價值ノ解、依法貨幣ノ釋義、クレシヤム發見ノ通規、
- 第七章 貨幣鑄造ノ手數料ヲ賦課スヘキ得失ヲ論ス
 - 鑄造手數料ヲ賦課スヘシトスルノ議、鑄造手數料ノ賦課ヲ非難スルノ議、第二ノ議論ノ其當ヲ得タル所以、鑄造手數料ノ第二種及其利害、鑄造手數料ト價銀トノ關係、
- 第八章 貨幣ノ制度ヲ論ス
 - 貨幣制度ノ五別及其釋義、重量通貨法ノ得失、不限通貨法ノ弊、單獨法貨通用法ノ不便、重複法貨通用法ノ不便、組成法貨通用法ノ利便、組成法貨通用法ハ職人工夫ヲ害セス、補助貨幣ノ過多ナルニ起因スル弊害

第九章 單複本位ノ得失ヲ論ス(上)
 單本位論者ノ所説 英米ノ實例、金銀本位ノ得失、貨幣價銀ノ解、金銀價值ノ始末、單複本位ノ現況

第十章 單複本位ノ得失ヲ論ス(下)
 單複本位論ハ政治經濟混合ノ問題ナリ、價值ハ物品ノ多寡ニ依ラス、一般ノ價值特ニ金銀ノ價值ハ生産入費ニ依ルモノニアラス、金銀價值ノ變動ハ需用供給ノ理ニ基ク、金銀ハ相濟相互ノ用ニ供セラルヘシ、十三世紀金價騰貴ノ理由、賠償作用ノ功能、複本位ノ極度ニ賠償作用行ハルヘカラス、單本位ノ制度ハ貨幣ノ額ヲ減ス 單複本位得失總論

第十一章 各社會ノ要スヘキ貨幣ノ額ヲ論ス
 尙金貿易ノ非、貨幣分配ノ理論、リカアドオノ説、マルサスノ

説、ソオントンノ説、貨幣供給ト價銀トノ關係、各社會ノ需用スル貨幣ノ額、彌兒ノ説、貨幣ハ物品ノ需用者タリ、貨幣流通ノ度數、信用制度ノ貨幣ヲ省畧スル所以、外國ト通商セサル國土ノ貨幣、不換紙幣流用ノ國ハ天然分配ノ範圍外ニ在リ、

第十二章 貨幣ノ供給ヲ増加スル利害ヲ論ス
 リカルドオ及ビケヤ子スノ説、アリソンノ説、ヒユムノ説、マク
 クロツクノ説、アリソンノ説ヲ駁ス、ヒユムノ説ヲ駁ス、マク
 ロツクノ説ヲ駁ス、リカルドオ及ビケヤ子スノ説ヲ贊ス、貨幣
 ノ増額ハ金利ヲ低落セス、貨幣輸出ノ二原因及其關係、

第十三章 萬國普通貨幣ノ利害ヲ論ス
 普通貨幣ノ便、普通貨幣ノ不便ノ行ハレサル所以、フランクヲ以テ普通貨幣ノ基礎トス可シ、日耳曼幣制ノ弊、小貨幣ノ制、

○ 中卷 紙幣論

第十四章 紙幣流通ノ原理ヲ論ス

交換器具ノ進歩、紙幣ノ四大利便、紙幣ノ歴史、紙幣流通ノ原理

第十五章 紙幣流通ノ原理ヲ論ス

不換紙幣ハ必ズシモ交換紙幣ノ墮落セルモノニアラス、再ヒ價値尺度ノ必用ナラザルヲ論ス、紙幣金銀ニ憑ラズシテ通貨タルヲ得ル所以、紙幣硬貨ニ優レリト云フノ説

第十六章 各國不換紙幣發行ノ始末ヲ叙ス

佛國不換紙幣始末、英國不換紙幣始末、米國植民時代不換紙幣始末、米國革命時代不換紙幣始末、南北戰爭不換紙幣始末

第十七章 不換紙幣ノ利害ヲ論ス

不換紙幣ノ三利、不換紙幣ノ五害

第十八章 兌換紙幣ヲ論ス

兌換紙幣ノ便、伸縮力ノ利害、伸縮力ノ有無、銀行主義及通貨主義ノ得失、小紙幣發行ノ利害

第十九章 兌換紙幣發行ノ始末ヲ論ス

英國兌換紙幣始末

第二十章 紙幣發行制限ノ方法ヲ論ス

準備制限法ノ種類及ヒ其得失、發行制限法ノ種類及其得失、不換紙幣發行制限法ノ種類及ヒ其得失

○

下卷 手形論

貨幣新論目錄

(八)

第二十一章 信用狀ヲ論ス

信用ノ性質、信用ノ種類、振出手形ノ性質、爲替手形ノ性質、利
附手形、無利足手形ノ別

第二十二章 帳簿記入及手形交換法ヲ論ス

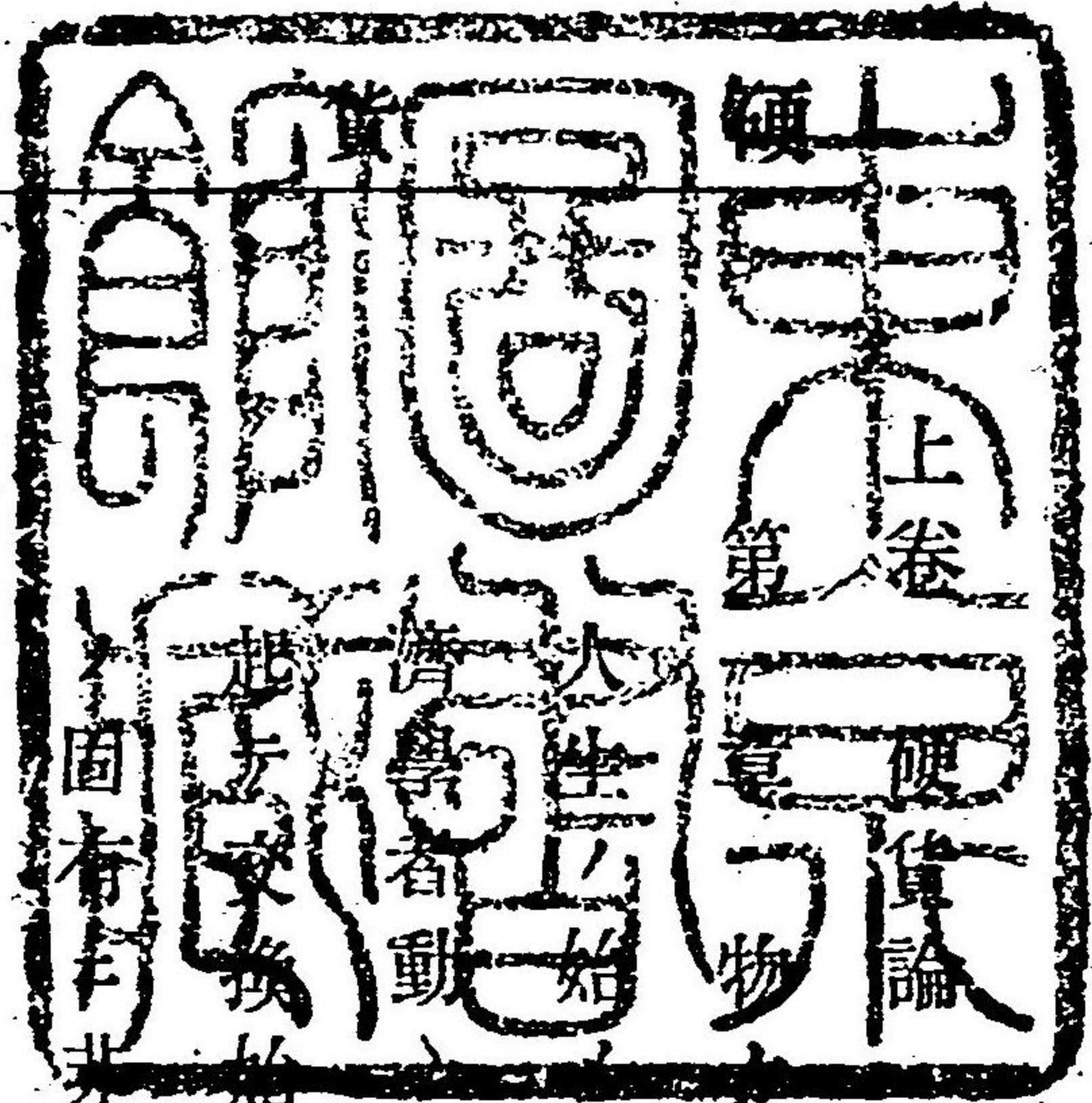
手形ノ貨幣ヲ節畧スル所以、手形交換法ノ圖解、倫敦交換所ノ
情況

第二十三章 外國爲替手形ヲ論ス

貨幣新論目錄畢

貨幣新論

文學士 高田早苗 著



論

貿易ヲ論ス
分業ノコト無シ、分業起テ社會始メテ進歩ス、經
モスレハ分業ノ小利ヲ舉ケテ其大利ヲ遺ル、分業
起テ交換始マル、交換ノ何者タルヲ論ス、用ト價值トハ物質
固有ナルヲ
賣買トノ區別、物々貿易ノ大不便、

(一) 日月星辰象ヲ上ニ現ハシ山川草木形ヲ下ニ成ス覆載ノ間跋行喙息動
物已ニ多シト雖トモ是レ鳥ノミ是レ獸ノミ又何ソ高尚ノコトアラン
ヤ唯人ハ否ラス夫レ生人ノ初メハ邈タリ之ヲ推知スヘカラス然レト

(二)

硬 貨 論

モ人爪牙ナシ搏噬シテ以テ自ラ生スル能ハス亦タ羽毛ナシ坐シテ以テ自ラ奉シ自カラ衛ルコト能ハス自カラ生シ自カラ奉シ自カラ衛ル能ハサルモノハ必ラス物ニ假テ用ヲ爲ス故ニ布帛ヲ織テ之ヲ衣ニシ五穀ヲ耕シテ之ヲ食ニス然レトモ渾沌野蠻ノ世ニ在テハ人々未タ經濟ノ何者タルヲ知ラス四民混同シテ而シテ士農工商ノ別ナシ是ヲ以テ其生存ノ術タル自カラ單一ニシテ複雑セス人々各自ラ己レノ衣ヲ織リ己レノ食ヲ耕シ數千萬ノ人アツテ而シテ數千萬ノ事ヲ爲ス能ハス僅ニ耕織一二ノ事ヲ爲シ自カラ足レリトスルノミ是ヲ以テ夫ノ事

○物發達ノ大源タル分業ノ術ニ至テハ絶テ無クシテ未タ其萌芽ヲタモ生スルアラサルナリ然リト雖モ單ヨリ複ニ入り粗ヨリ密ニ進ムハ事物進化ノ大道ナリ人類何ソ此大道ニ由ルコトナキヲ得ンヤ須臾ニシテ農アリ商アリ工アリ士アリ四民ノ稱依テ起リ爾來日ヲ逐ヒ月ヲ重

硬 貨 論 (三)

子其別愈々大ニシテ愈々密ニ遂ニ今日ノ如キ複雑緻密ノ一大社會ヲ大成スルニ至レリ嗚呼分業ハ猶ホ社會ノ血液ノ如シ身體ハ血液ノ循環ニ依テ生育シ社會ハ分業ノ發達ニ依テ進歩ス是ヲ以テ分業ノ未タ密ナラサルヤ人々終日其活度ニ暇アラス夫ノ大利ヲ永遠ニ全フスルカ如キ壯大ノ事業ニ至テハ遂ニ之ヲ企ツル能ハス從テ工業モ其精妙ヲ極ムルヲ得ス從テ社會モ其進歩ヲ見サルナリ

一千七百七十六年ノ頃ニ當テ亞當斯美須富國論ヲ著ハシテヨリ以來世間漸ク分業ノ功ヲ承認セシカ如シ然レトモ氏ノ所謂ル分業論ナル者ハ實ニ其一斑ノ小利ヲ擧グルニ止テ未タ其全豹ノ効力ヲ說破シ去ラス隨テ後世分業ノ利益ヲ稱道スル者ト雖モ皆曰ク時間ヲ省畧ス發明ヲ勸ム熟鍊ヲ致ス所長ノ事業ニ專就スト唯斯ノ如キノミ顧フニ若シ分業ノ利益ヲシテ果シテ此瑣々タル數事ニ止マラシメハ吾人何ソ

(四)

硬

貨

論

之ヲ稱揚スルヲ爲ンヤ然レトモ是レ然ラス分業ノ利益豈ニコノ瑣々タル數事ニ止マランヤ夫ノ社會ヲ進歩セシムルモノ一ニ分業アルノミ噫分業アラスンハ則チ何チ以テカ今日社會ノ盛大ナルヲ見ルヲ得ンヤ顧フニ吾人カ巢棲穴居ノ蠻域ヲ蟬脫シ暖衣飽食毅然トシテ而シテ禽獸ヲ蔑視スル所以ノモノ一ニ皆ナ分業ノ賜ニ因ル然レトモ分業ノ術ハ獨歩シテ功アルモノニアラス故ニ分業ノ法ニ依テ製作セル品物ハ之ヲ交換シ以テ人々相互ノ利益ヲ謀ラサルヘカラス是レ交換ノ由テ起ル所以ナリ故ニ交換ハ分業ノ結果ナリト謂フヘシ抑モ分業ニシテ既ニ其端ヲ發スレハ人々其利ニ由リテ事業ノ進歩ヲ促スコトアリ然レトモ自カラ作爲セル一定同種ノ者ノミチ以テ咸ク自家ノ需用ヲ充タスコト能ハス必ラスヤ其作爲セル品物ノ餘裕ヲ以テ他人ノ製作セル品物ノ餘裕アツテ已レ之ヲ需用スルモノニ換ヘ

硬

貨

論

(五)

以テ互ニ有餘不足ヲ通シ共ニ需用供給ヲ濟マサ、ルヘカラス是レ實ニ理勢ノ覩易キ者ニシテ交換ノ起因スル所全ク此ニ在リ是故ニ交換ハ各箇ノ物品ニ就テ人類ノ需用限リテ起ルモノナルヲ知ルヘシ今例ヲ舉ゲテ之ヲ示サンニ人アリ每一日一升ノ糧食ヲ收穫シ而シテ其口腹ヲ慰スルニ其一半ヲ費ストセハ即チ每一日五合ノ餘裕アリ是ヲ以テ若シ其人ニシテ衣服ニ欠クアラハ之ヲ以テ衣服ニ換フヘク一時ノ快樂ヲ求メント欲セハ鮮肉美酒ニ換フヘシ而シテ其他ノ衣服ニ餘リアリ鮮肉美酒ニ富ムモノニシテ糧食ヲ欲セハ彼レ必ラス欣然ニ之ニ應シ交換ノ事始メテ成ル故ニ曰ク交換ハ餘剩ノモノヲ以テ必用物ニ換フルニ在リト又曰ク交換ハ他物ニ比較シテ其用尠キ自己ノ所有ト他物ニ比較シテ其用多キ他人ノ所有トヲ換フルヲ謂フナリト説テ此ニ至レハ勢ヒ用ナル字義ヲ辨明セサルヲ得ス蓋シ用ノ字義ニ

(六)

論 貨 硬

シテ課マルアラハ終ニ併セテ交換ノ釋義ヲ誤マリ爲メニ無量ノ困擾
ヲ致スモノナレハナリ
用トハ何ソヤ人ノ需用ヲ充タスヘキ物品ノ資格ヲ云フナリ夫ノ戰場
ニ在テ之ヲ驗セヨ一掬ノ水能ク戰士ヲシテ甦生セシムルコトアリ此
時ニ當テ水ノ貴キ蓋シ幾千ソヤ平時數升ノ水ハ以テ割烹ニ供スヘク
以テ濯濯ニ充ツヘシ此ノ時ニ當テ水固トヨリ貴シ然レトモ其貴キヤ
之ヲ戰場一掬ノ水ニ比スレハ必ラス大ナル差異アラシク然ルノミ
ナラス彼ノ洪水氾濫家屋ヲ浸シ人蓄ヲ流スノ慘狀ヲ致スニ至テハ吾
人唯其害アルヲ覩テ未タ其用アルヲ見サルナリ由是觀之彼ノ用ナル
モノハ物ニ固着スル性質ニ非ラスシテ人ノ需用ヲ充タスヘキ時機ニ
遇ヒ始メテ物體ニ加ハル所ノ資格ナルヲ知ル
用ノ釋義此ノ如シ而シテ價值ノ義又少シク之ヲ茲ニ言ハサルヲ得ス

硬

貨

論

(七)

其レ物ノ用ヲ爲スニ當リ價值ノ之ニ從フハ自然ノ理ナリ然レトモ物
唯單一ニシテ他ニ比較スヘキモノナク亦タ交換スヘキモノナカラシ
メハ其物ノ價值決シテ生セサルナリ然ラハ則チ價值ハ何ノ時ニ在テ
之ヲ生スルヤ曰ク二人以上ノモノ交換ヲ爲スニ當テ各々其用ヲ比較
スル時ニ於テ始メテ之ヲ生ス故ニ價值ハ交換ノ比例ニシテ其原因ハ
用ニ在リ是ニ於テ即チ曰ク價值モ亦タ物品ニ固着スルモノニアラサ
ルナリト蓋シ因タル用ニシテ物品固有ノ資格ニ非ラサシメハ其果
タル價值ハ固ヨリ其固有タルヘキ理由アラサレハナリ
分業ノ起ル洵ニ彼ノ如ク交換ノ起ル實ニ此ノ如シ然リト雖モ社會ノ
未タ鴻荒ヲ脱セサルニ當テハ世間未タ貨幣ナルモノアラス是ヲ以テ
其貿易ハ直接ニ物ト物トヲ交換スルニ止マリ未タ活潑ナル動作アル
ヲ見サルナリ抑モ直接ニ物ト物トヲ交換スルノ風ハ特リ大古ニ行ハ

(八)

論 貨 硬

レシノミナラズ今時ト雖モ尙ホ且ツ之ヲ行フモノアリ近時佛國ノ歌者ゼリ一ナルモノアリ其技ヲ練磨スルノ意ヲ以テ宇内ヲ周游スルニ際シ會々太平洋中ソサイチー島ニ至リ一曲ヲ奏セシコトアリ當時島人ハ厚ク之ヲ謝シ酬ユルニ豚三頭百露鳥二十三羽鷄雞十四羽并ニコ、ナット「バナ」黎檬及ヒ許多ノ菓實ヲ以テシ其價值凡ソ四千フランクヲ餘セリ然レトモ此島ノ貿易タル一ニ皆ナ物々ノ交換ニ出テ之ヲ賣却スルヲ得ス爲メニゼリーナシテ貨幣ヲ得ルニ由ナカラシメ徒ニ其菓實ヲ以テ雞豚ヲ飼養セシニ過キサリシト又動物博士ウチレスハ篤志ノ人ナリ屢々山河ヲ跋渉シテ實地ノ經驗ヲ爲セシコトアリ嘗テ馬來半島ニ至ルヤ物々交換ノ不便ニ遭遇シ異常ノ艱難ヲ極メシコトアリ蓋シ氏ノ一行ハ金錢ノ欠乏アリシニアラス但タ其島人ヤ未ダ貨幣ノ用ヲ知ラス是ヲ以テ金錢ニ換フルニ食物ヲ以テスルヲ欲セス爲

(九)

論 貨 硬

メニ食ヲ得ルノ道ナク已ムヲ得スシテ斷食數日ニ涉リ饑渴ニ瀕セシコト屢次ナリト以上所述ノ二例ニ依テ之ヲ觀レハ現今ノ世猶ホ物々貿易ヲ事トスルノ社會アリ其不便ナル得テ名狀スヘカラサルカ如シ夫レ物々ノ貿易ハ單純ノ交換ニシテ唯我レノ必需トセサル所ノモノヲ以テ其必需トスル所ノモノニ換フルニ外ナラス之ヲ以テ貿易ナキノ時ニ比スレハ其便之ニ優ル萬々ナリト雖トモ之ヲ以テ之ヲ賣買ノ便且ツ利ナルモノニ比較スレハ其及ハサル啻ニ霄壤トノミナラサルナリ

夫レ賣買ハ一度ヒ交換シタルモノヲ再用シテ復タ他物ト交換シ更ニ之ヲ轉販シテ三用四用シ以テ其用ヲ盡サシメソカ爲メニ起ルモノナリ今皮相ノ見ヲ以テ之ヲ見レハ金錢ノ如キ直接ノ用ヲ爲サル物ヲ使用スルトキハ徒ラニ授受ノ頻繁ヲ増スニ似タリト雖モ少シク思想

ヲ用ユルアラハ容易ニ其然ラサル所以ヲ看破スルニ足ラン何トナレハ若シ社會ニシテ貨幣アラスンハ事々物々皆ナ艸造ニ屬シ今日ノ如キ緻密ノ狀ヲ表ハシ今日ノ如キ改進ノ運ニ達スルヲ得サレハナリ余ハ今賣買ノ利便ヲ説キ貨幣ノ功用ヲ論スルノ前ニ於テ豫メ物々貿易ノ不便ナル所以ヲ列叙シ以テ之ヲ説クノ地歩ヲ爲サハルヘカラス物々貿易ニ三大不便アリ

論 貨 硬

第一 需用供給一致セス

第二 價位ノ通標ナシ

第三 截斷ノ手段ナシ

第一需用供給ノ容易ニ一致セサルハ物々貿易第一ノ通弊ナリ今夫レ或ル物品ノ需用者アリ物々貿易ニ依テ其希望ヲ遂ケント欲セハ預シメ先ツ多ク我ニ要スル所ノ物品ヲ製作シ以テ其餘裕ヲ生シ而シテ后

硬

貨

論

于他ノ我カ希望ヲ滿タスヘキ物品ノ餘裕ヲ所持シ而シテ我餘裕ノ物品ヲ得ント欲スルモノニ邂逅セサルヲ得ス嗚呼世間ノ廣キ天下ノ大ナル物品ノ需用者孰レノ所ニカナカラサラン亦之ヲ供給セントスルモノ何レノ處ニカナカラサラン然ルニ此二人ノ轍ク相遇フテ容易ニ邂逅スルハ古今實ニ絶無希有ノ事ニシテ需用供給二者ノ一致ハ屢々遭遇ス可キモノニアラス今一例ヲ舉ケテ其意ヲ敷演センニ茲ニ獵夫アリ山野ニ獵シテ所獲アリ自カラ肉ヲ食シテ餘マス所多シ然レトモ會々必須ノ米穀ヲ欠ク是ニ於テ餘マス所ノ鮮肉ヲ以テ需ムル所ノ米穀ニ換ヘント欲ス此時ニ當テ他人アリ獵夫ノ鮮肉ヲ望ミ之ニ換フルニ米麥ヲ以テスルヲ得ハ則チ可ナリ然レトモ不幸ニシテ此人ナクンハ獵夫タルモノハ如何カ米麥ヲ得ル曠日彌久其人ニ邂逅スルヲ俟タシカ將タ遠ク他方ニ赴テ其人ヲ求メンカ共ニ目前ノ急ヲ救フニ足ラ

硬 貨 論

ス鮮肉ハ爛レテ腐敗シ去ランノミ音ニ然ルノミナラス若シ夫ノ獵夫ニシテ彈丸火藥ヲ消盡シ再之ヲ得ント欲スルニ當テ人ノ彈丸火藥ノ餘裕アリテ獵夫ノ鮮肉ヲ需ムルモノアルニ非ラスンハ獵夫タルモノ遂ニ其業ヲ廢セサルヘカヲサルナリ唯リ是ノ蠻域ノ民ノミ物々貿易ノ不便ヲ感スルノミナランヤ夫ノ事物周備ノ文明社會ト雖モ單ニ物々ノ貿易ヲ行フアラハ必ラス同一ノ不便ヲ免レサルヘシ是ヲ以テ一棟ノ家屋ヲ有スルモノニシテ之ニ住居スルヲ厭ヒ他ニ移轉セント欲スルニ當テ我カ欲スル所ノ厦屋ニ換ヘンコトヲ望ムノ人ヲ索メ而シテ之ト交換スルトセハ其不便果シテ如何ソヤ吾人ハ貨幣ヲ授受シテ之ヲ賣買スルノ至便ナルヲ知ルナリ加旃物々貿易ノ行ハル、時ニ在テハ最必用物ヲ所有スルモノ常ニ大利ヲ博シ之ヲ所有セサルモノ日々ニ窮窘スルノ實アリ例ヘハ我レ今米麥等ノ如キ我カ生命ニ關スル

硬 貨 論 (三一)

最必用物ヲ所有センニ或人書籍ヲ以テ之ニ換ヘンコトヲ請フアリ此時ニ當テ我レ若シ彼レノ死ニ瀕スルヲ奇貨トスルノ惡念アラハ必ラス異常ノ高價ヲ以テ之ニ應スルナラン然レトモ彼レ既ニ餓死セントスルノ勢アリ寧ロ高價ヲ厭フニ違マアラス已ムヲ得スシテ其米麥ヲ求ムルナラン此レ豈ニ人生ノ宜シキヲ得ルモノナランヤ
 需要供給ノ不一致ヨリ生スル所ノ不便此ノ如ク夫レ大ナリ故ニ此不便ヲ避却セント欲セハ勢ヒ萬衆ノ齊シク欲望シテ凡百ノ物品ト交換シ易キ一物ヲ定メ物々交換ノ間ニ立タシメサルヲ得ス今之ヲ稱シテ貿易ノ媒介ト云フナリ
 第二物々ノ貿易ヲ爲スニ當テ貿易ノ割合即チ價值ナルモノヲ定ムルハ果シテ何ニ由ル乎願フニ人々豫メ之ヲ識ル能ハサルカ故ニ一交換アル毎ニ一一之ヲ定メサルヘカラス故ニ一々之ヲ他ノ物品ニ照算セ

論 貨 硬

サルヘカテサルナリ假令ハ米穀ノ價值ヲ知ラント欲セハ之ヲ酒肉ト比較セサルヲ得ス之ヲ絹布ト比較セサルヲ得ス之ヲ爾他百般ノ物品ト比較セサルヲ得サルカ如キ是ナリ今之ヲ再言スレハ一物ノ價值ヲ定ムルニ當テ或ハ數回ノ比較ヲ要シ或ハ數十回ノ比較ヲ要シ其不便得テ名狀スヘカテサルナリ之ニ反シ若シ一種ノ物品ヲ特定シテ價值ノ通標ト爲スアラハ上來ノ困苦ハ容易ニ之ヲ避却スルヲ得ム試ミニ今白銀ヲ以テ價值ノ通標ト爲スト假定セヨ則チ容易ニ米一石ハ銀何奴肉一斤ハ銀何奴ト識得スルヲ得ム而シテ夫ノ米ト肉トノ比準ノ如キモ自カラ其間ニ表ハレ一目瞭然タル可キナリ是レ價值通標ノ欠クヘカテサル所以ニシテ以幣賣買ノ利大ニ物々貿易ニ超越スル所以ナリ

第三夫ノ米麥絹帛ノ類ノ如キハ其索ムル所ノ多寡ニ應シ隨意ニ之ヲ

論 貨 硬

分截スルヲ得ルト雖トモ物品中間々容易ニ分截シ得サルモノ多シ假令ハ裁縫セル衣服ノ如キ是レナリ茲ニ一ノ裁縫師アリ米麥ノ資ヲ欠ク是ヲ以テ其裁縫セル衣服ヲ出シ之ヲ必需ノ米麥ニ換ヘンコトヲ希ヘリ然ルニ若シ其衣服ハ當時需ムル所ノ米麥ニ比シテ高價ナリトセハ夫ノ裁縫師タルモノ勢ヒ其衣服ヲ裁斷シ之ヲ以テ之ニ換ヘサルヲ得ス否ラスンハ其損失ナルヲ知テ咸ク之ヲ之ニ交換セサルヘカテス然リト雖モ衣服素ヨリ截斷スヘカテス裁斷セル衣服ハ既ニ衣服ノ用ヲ爲サス然ルモ自カラ損失ヲ知テ之ヲ之ニ交換スルハ裁縫師ノ忍ヒサル所ニシテ其不便固ヨリ尠カラザルナリ然リト雖モ是レ尙ホ弊ノ少ナキモノナリ若シ駿馬ヲ以テ之ヲ米麥ニ換ヘントスルニ至リテハ其不便殆ント言フヘカテス抑モ駿馬ノ駿馬タル所以ノモノハ其跳躄ノ快迅ナルヲ以テスルノミ然ルニ之ヲ切斷セハ駿馬ノ用ハ果シテ何

處ニ在ルカ是レ豈ニ貿易上ノ最大弊害ナラスヤ此時ニ當リ裁縫師若クハ駿馬ノ所有者タルモノヲシテ貿易上ノ媒介物アルヲ發見シ姑ラク之ト交換シ而シテ后千此媒介物ヲ以テ自カラ欲スル所ノ米穀薪炭ニ換フルヲ得セシメハ其便利果シテ如何ソヤ余レ今之ヲ縷々スルヲ要セサルナリ

硬 貨 論

上來縷述スル所ニ由テ之ヲ觀レハ物々貿易ノ弊害擧ケテ言フヘカラス其不使得テ隱蔽スヘカラス然リ而シテ方今開明ノ諸國ト雖モ物々貿易ノ事未タ地ヲ拂フニ至ラサル者アリ抑モ是故アリ蓋シ事物ノ常態トノ假令ヒ許多ノ弊害ヲ包含スルモ其中幾分ノ利益ヲ含有スルモノアリ故ニ物々貿易ノ如キモ某々ノ部局ニ於テ之カ不便ヲ極ムト雖モ而カモ某々ノ部局ニ於テ之ヲ感セサルモノアリ夫ノ僕婢給料ノ一部タル飲食寄宿ノ如キ傭夫ノ傭主ノ田地ヲ耕作シ若クハ其獸蓄ヲ監

硬 貨 論

飼スルカ如キ其報酬ノ一部ハ共ニ皆ナ物品ヲ以テシテ之ニ充テ未タ曾テ其不便アルヲ見サルナリ然レトモ是レ貿易ノ一小部分タルノミ而シテ今開明ノ諸國ニ在テ巨額ノ賣買ヲ爲スノ際概子硬貨幣ヲ用キルコトナシト雖モ之ヲ以テ貿易ノ通標トナスノ要ニ至テハ未タ全ク湮滅セサルナリ
之ヲ要スルニ交換ハ物々貿易ニ始マリ物々貿易ニ終ハルカ如シ然レトモ當初ノ物々貿易ト最後ノ物々貿易ハ大ニ差異アルカ如シ
但此事後章ニ於テ仔細ニ論スル者アルヘシ故ニ吾人ハ是ヨリ歩ヲ進メテ貨幣ノ作用ニ論及シ貨幣ハ物々貿易ノ不便ヲ救フニ足ル所以ヲ證明セント欲スルナリ

第二章 貨幣ノ作用ヲ論ス

貨幣一タヒ出テ、物々貿易ノ不便消滅ス、貨幣ノ四大作用
 貨幣ハ價值ノ尺度ニアラス、貨幣ヲ價值ノ本位ナリト謂フノ
 弊、貨幣ハ必ラス四作用ヲ兼子サルヘカラスト謂フノ理ナシ、
 分業起テ交換始マリ交換始マツテ貨幣出ツ貨幣一タヒ世ニ出テ物々
 貿易ノ不便立トコロニ消滅ス其狀恰モ朝陽ノ氷雪ヲ融クカ如ク遂ニ
 其迹ヲ見サルナリ貨幣ニ四大作用アリ

第一貿易ノ媒介タリ

第二價值ノ通標タリ

第三貸借ノ標位トナル

第四價值ノ貯藏トナル

貨幣第一ノ作用ハ貿易ノ媒介タルニアリ既ニ前章ニ詳説セシカ如ク

世間未タ貿易ノ媒介アラサル時ニ當テハ容易ニ需用供給ノ一致ヲ得
 ル能ハス分割手段ノ之ヲ得ルニ由ナキ亦タ之ヲ如何トモスル能ハサ
 ルナリコノ時ニ當テ若シ一定セル物品ノアルアリテ能ク人ヲシテ自
 家不用ノ品物ヲ以テ之ヲ之ニ交換シコレヲ以テ便宜ニ他ノ物品ヲ購
 求スルヲ得セシメハ其便利果シテ如何ソヤ是レコノ作用ハ實ニ貨幣
 ノ貿易媒介トナリ以テ表發スル所ノモノニシテ其德誠ニ大ナリ經濟
 博士佛來須氏曰ク貨幣ヲ使用スル賣買ハ交換ノ半途ナリト蓋シ物品
 ヲ賣テ貨幣ニ換フルハ復ヒ之ヲ賣テ物品ヲ買ハント欲スルニ由レハ
 ナリ彌見曰ク人々貨幣ヲ以テ眞箇ニ物品ヲ購求シ得ルト爲スハ大ナ
 ル誤謬ナリ金銀ノ採鑛ヲ以テ業ト爲ス者ノ外未タ嘗テ黃白ヲ以テ自
 家ノ歲入ヲ得ルモノアラサルナリ故ニ人々日々勞働シテ得ル所ノ何
 圓何錢ハ其人ノ收入ニアラスシテ唯々之ヲ所有スル人々ハ何ノ時ヲ

硬 貨 論

問ハス之ヲ以テ自家ノ意ニ適セル物品ヲ購求シ得ヘシト保證スルノ切符タルニ過キス其人々眞成ノ收入ハ實ニ人々勞働ノ結果ニ在ルノミ假令ハ茲ニ豪農アリ數人ノ農夫ヲ備ヒ耕作ニ從事セシムルトセンニ此豪農ノ毎月農夫等ニ支出スル所ノ給料ハ實ニ農夫等ノ所得ニアラス其勞働ニ因リテ其田園ニ生シタル米粟ノ幾分コソ農夫眞成ノ所得ナリ抑モ農夫ノ給料トシテ米粟ノ幾分ヲ領收セス却テ貨幣ヲ領收シ去ル所以ノモノハ蓋シ米粟ヲ收メテ之ヲ貨幣ニ換ヘ而シテ之ヲ以テ自家ノ意ニ適合スル物品ヲ購求スルカ如キ無益ノ勞ヲ省畧センカ爲メノミ(中畧)之ヲ要スルニ社會全般ノ經濟ヨリシテ之ヲ言ヘハ天下多ク黃白ノ如キ獨立ノ勢力微弱ナル物アラス而シテ其勢力却テ廣且ツ大ナルモノハ勞力ト時間トヲ省畧スル一種ノ機械タルヲ以テスルノミ故ニ貨幣ナルモノハ貨幣ナクシテ遲緩ニ爲シ得ヘキコトヲ迅速

硬 貨 論

ニ爲スヲ得セシムル一種ノ機械タルニ過キス而シテ其機械タルヤ獨立固有ノ勢力ニ乏シキモノナリト蓋シ信ナリ
貨幣第二ノ作用ハ價值ノ通標タルニ在リ博士是凡主曰ク物々貿易ニ第二ノ不便アリ今牛肉ヲ以テ穀類ニ換ヘ穀類ヲ以テ乾酪ニ換ヘ乾酪ヲ以テ鶏卵ニ換ヘ鶏卵ヲ以テ麻布ニ換フルニ當テ其割合既ニ定マルトナスモ牛肉何斤ハ鶏卵幾箇ニ當ルヤヲ觀ント欲セハ新ニ其割合ヲ定メ以テ之カ比例ヲ立テサルヲ得ス今之ヲ再言スレハ物々貿易ノ時ニ於テハ交換アル毎ニ新ニ其割合ヲ定メ以テ其比例ヲ立テサルヲ得ス而シテ當時若シ物價表ヲ製スルアラハ其複雑ナル誠ニ名狀スヘカラサル者アラン若シ吾人ニノ斯時ニ遇フアラハ現ニ萬物交換ノ割合ヲ定メ然ラスンハ一々其比例ヲ立テ以テ之カ割合ヲ識ルノ方便ヲ求メサルヘカラス(中畧)而ノ斯ノ不便ヲ避ケント欲セハ一種ノ物品ヲ撰

擇シ凡百ノ物ヲシテコレニ比準シテ其割合ヲ定メシムルニ若クハナシ是レコノ一種ノ物品ハ所謂ル價值ノ通標ニシテ價值ノ尺度是ナリト

經濟學士中或ハ重キヲコノ作用ノ上ニ歸シ貨幣ノ最要作用ト爲スモノアリ米國理財博士慕因曰ク貨幣ノ媒介ナシト雖モ吾人尙ホ且ツ貿易ニ從事スルヲ得ン然レトモ貨幣ヲ以テ價值ノ尺度ト爲シ之ヲ使用スルニアラスンハ交換遂ニ行ハレサルナリ夫レ物ヲ度ルノ用ヲ爲スモノハ必ラス物ト其質ヲ同フセサルヘカラス而シテ物ノ尺度容量ヲ計ルモノハ必ラス自カラ尺度容量ヲ有セサルヘカラス是故ニ價值ヲ謀ルモノハ自カラ價值ヲ有スルモノタラサルヘカラスト彌兒ミヤ老慈亞ラウジヤ須等ノ諸家モ亦タ往々コノ作用ノ緊要ナルヲ稱道シ措カス爲メニ言ヲ爲スモノアリ然レトモ斯諸家ハ價值ノ尺度ト其通標トヲ混淆シテ

之ヲ同一視スルモノ、如シ夫レ價值ノ尺度ト價值ノ通標ハ素ト同一ノモノニアラス慕氏ノ稱道スルカ如ク物ノ尺度タルモノハ固ヨリ尺度ヲ有セサルヘカラス亦タ固トヨリ其物ト同質ナラサルヘカラス(其同質ナラサルヘカラスト云フハ絹布ヲ度ルニ絹布ヲ以テセサルヘカラスト云フニアラス絹布ノ重量ヲ量ラント欲セハ重量ヲ有スル物品ヲ使用セサルヘカラス絹布ノ尺度ヲ度ラント欲セハ尺度ノ能アルモノヲ用キサルヘカラスト云フ)而シテ價值ヲ度ルニ當テ價值アルモノヲ用ウルハ素ヨリ其當ナリト雖トモ吾人ハ未タ必ラスシモ價值ノ尺度ヲ打算スルヲ要セス唯々價值ヲ表示スル通標ノ有ル在ルヲ要スルノミ夫レ物ノ長短ハ寸尺ノ稱謂ヲ用キテコレヲ表示スルヲ得ン假令ハ茲ニ三種ノ物品アリソノ相互長短ノ割合ハ一、七、及ヒ四ト云ヒソノ相互價值ノ割合モ亦一、七、及四ト謂フカ如キ尺度ヲ用キスシテ自

カラ其割合ヲ判別スルヲ得ヘシ要スルニ斯ノ時ニ於テハ先ツ價值或ハ長短ノ一位ヲ定メ第一ノ物品中ニ一位ノ四倍ヲ含有シ第二ノ物品中ニ一位ノ七倍ヲ含有スルト云フニ過キス共ニ尺度ヲ用ウルナクシテ能ク其割合ヲ知ルヲ得ンノミ以上開陳セル價值ノ尺度ト價值ノ通標トヲ區別スルハ實ニ樞要ノ事タリ貨幣ノ論ヲ講スル者最モ明ニコレヲ解シ最モ詳カニコレヲ極メサルヘカラス而シテ近時世間ノ一大問題タル紙幣硬貨得失論ノ如キモ亦タ皆ナコノ區別ヨリ起因スルモノニシテ紙幣論者ノ如キハ畢竟價值通標ノ必用ヲ認メテ價值尺度ノ必用ヲ遺ル、者ノ如シ今一例ヲ舉ケテ價值尺度ノ必要ナラサル所以ヲ證センニ茲ニ荷車一臺ヲ製造スルニ當テ要スル所ノ勞力ハ米穀一斗ヲ收獲スルニ當テ要スル所ノ者ニ五倍ストセハ荷車ノ價值ヲ五トナシ米穀ノ價值ヲ一ト稱セハ則チ足レリ若シ又馬車一輛ヲ製作スルノ

勞ハ荷車ヲ製作スルノ勞力ニ比シテ十倍ノ多キヲ要ストセハ以上三種物品ノ價值ハ單ニ一、五、五十ト稱スレハ則チ足レルノミ亦タ何チカ他ニ求メンヤ但タ斯事タル一層ノ密説ヲ要ス故ニ余ハ後段ニ於テコノ區別ヲ詳論シ物品ノ價值ヲ定メントスルニ當テ必ラスシモ其勞力ヲ計算スルヲ要セサル所以ヲ述ヘ又其實價ヲ有セサルモノト雖モ尙ホ且ツ貨幣トナスヲ得ヘク翻々タル紙幣モ頑々タル石塊モ貨幣ノ通標タルニ適スル所以ニ論及スラントス

貨幣第三ノ作用ハ貸借ノ標位トナルニアリ夫レ社會矇昧ノ時ニ在テ貸借ノ事未タ行ハレス其標位モ亦タ隨テ用ナシ然リト雖モ分業漸ク起リ交換ノ事始マルニ及ンテ貸借ノ事起リ交換漸ク密ニシテ貸借漸ク複雑ヲ致シ遂ニ標位ノ用アルニ至ル世間貨幣ノ未タ出テサルヤ甲ニシテ乙ノ物品ヲ借ルアラハ返却ノ期ニ臨ンテ乙ハ必ラス其同様ノ

物品ヲ索メテ之ヲ甲ニ返却セサルヲ得ス然レトモ甲タル者間ト同様ノ物品ヲ以テ其返辨ヲ受クルヲ欲セサルコトアリ夫ノ物品ニシテ返辨ノ時ニ當テ其價值ノ下落セルカ如キ是レナリ假令ハ秋收ノ時ニ當テ米穀ノ返辨ヲ受クルカ如キ甲ノ不便復タ甚シト謂ツヘシ又借主タル乙ト雖モ必ラス同一様ノ物品ヲ以テ之ヲ返辨スヘシト爲サハ其不便決シテ甲ノ下ニ在ラサルナリ而シテ甲乙二者ノ不便ハ實ニ物價ノ變更常ナキニ起因ス故ニ今茲ニ價值ノ變動少ナキ一種ノ物品ヲ撰ヒ之ヲ以テ貸借ノ標位ト爲シ以テ其事ヲ遂ケシメハ二者ノ不便立トコロニ消滅セシム而シテ貨幣ノ貸借標位トナルノ作用正サニコトニアリ蓋シ金銀貨幣ノ如キハ他ノ物品ニ比較シテ價值ノ變動最モ尠ナキモノニシテ最モ此作用ヲ爲スニ適スル者ナレハナリ

是凡主嘗テ貸借ノ標位ヲ稱シテ貨值ノ標位ト稱スルアリ然レトモ是

レ甚タ適切ナラス偶々夫ノ複本位論者ヲシテソノ攻撃ヲ逞クスルヲ得セシム願フニ若シ貨幣ニシテ價值ノ本位ト爲ルヲ得ハ複本位ヲ採用スルノ國ニ於テハ價值ノ複標位アルカ如ク其不便實ニ僅少ナラス唯夫レ斯ノ如シ故ニ複本位ノ說ヲ執スル者力ヲ極メテコノ說ヲ駁シ價值ハ物品ヲ交換スルノ割合ナルノミ決シテ一定ノ性質ヲ有スルモノニアラス故ニ之ヲ價值ノ標位トイフカ如キハ寧ロ虛構ノ說タルニ過キスト云フニ至ル蓋シ惜ムヘキナリ然レトモ余ヤ今更ニ是凡主ノ說ヲ按スルニ其意素ヨリ貸借ノ標位ヲ必用トナスニ在ルカ如ク之ヲ價值ノ標位ナリト稱セシカ如キハ蓋シ名稱ノ誤用ナルカ如シ故ニ余ハ明白ニコノ作用ヲ稱シテ貸借ノ標位ト呼ハント欲スルナリ

貨幣第四ノ作用ハ價值ノ貯藏トナルニアリ今人アリ他郷ニ旅行スルニ當リ遠國ニ其行貨ヲ携帯セント欲セハ必ラス容量小ニシテ價值ノ

大ナル物品ヲ索ムルナラン而シテ夫ノ物ヲ遠方ニ寄セテ之ヲ他物ニ代フル時ノ如キモ亦タ均シク容量小ニシテ價值ノ大ナル物ヲ索ムルナラム是レ亦タ貨幣ノ社會ニ用アル一因ニシテ其第四作用ナリ
 上來ニ所述セル貨幣ノ四大作用ナル者ハ必ラスシモ並ヒ行ハル、モノニアラス吾人或ハ甲種ノ物品ヲ用キテ貿易ノ媒介トナシ或ハ乙種ノ物品ヲ用キテ價值ノ通標トナシ或ハ丙種ノ物ヲ以テ貸借ノ標位ト爲シ或ハ丁種ノ品ヲ以テ價值ノ貯藏トナスコトアリ英國女皇エリサベスノ時ニ當テ銀ヲ以テ價值ノ通標トナシ金ヲ以テ貿易ノ媒介トナシ穀物ヲ以テ貸借ノ標位トシタルコトアリ我國亦其例ニ乏シカラス例令ハ銀匁ヲ以テ通標トシ小判ヲ以テ貿易ノ媒介ト爲シタルカ如シ顧フニ若シ一物ヲ以テ此ノ四作用ヲ兼ヌルヲ得セシメハ事誠ニ便ナリト雖モ此四作用ナルモノハ必ラスシモ一物ニ具ハルモノニアラス

間々ニ物乃至數物ノ間ニ徧スルノ勢アリ吾人今宜シク之ヲ記スヘキナリ是ニ於テ余ハ論述ノ歩ヲ進メ古來如何ナル物品ヲ使用シ以テ貨幣トナセシヤヲ探究セント欲ス

第三章 貨幣ノ歴史ヲ叙ス

貨幣必ラスシモ金銀ナラス、佃獵種族ノ貨幣、牧蓄種族ノ貨幣、修飾品ヲ貨幣トナシタル例、耕作國ノ貨幣、雜品ヲ貨幣トナシタル例、

文物周備ノ社會ニ棲息シ眼常ニ金屬貨幣ノ流通ヲ見ルニ熟シ之ヲ使用スルニ慣ル、モノハ多クハ貨幣ヲ以テ單ニ金銀ノ稱トナスアリ然レトモ是レ慣習ニ謬ラル、ノ弊耳佛國ノ名家タルコツト曰ク貿易ノ物品頗ル多シ其中貿易ノ媒介トナリ價值ノ通標ト爲スヘキモノ亦頗ル多シ而シテ世ノ特ニ某々ノ物品ヲ執テ貨幣ト爲シ之ヲ使用スルモノハ一ニ皆ナ人民ノ所好ト許多ノ慣習トニ依テ起ルモノニシテ金屬ニ非ラサレハ貨幣ト爲スヲ得サルノ理ニ因ルモノニアラサルナリト蓋シ信ナリ

余ヤ今社會ノ上世ニ溯リ其發達ノ順序ニ隨ヒ其前後ノ時期ヲ追ヒ其使用セシ貨幣ノ跡ヲ探求スルニ史乘ノ示ス所大概左ノ如シ
 佃獵種族ノ貨幣 人々野獸ヲ獵獲シテ其活路ヲ營ム者ハ社會ノ最モ幼稚ナルモノニシテ斯類ノ社會ニ在テハ必ラス其佃獵ニ由テ獲ル所ノ物ヲ以テ貿易ノ媒介ニ充テ之ヲ使用スルハ自然ノ理勢ニシテ當時至易ノ方策タリ然リ而シテ野獸ノ肉ハ人之ヲ欲スルモ腐敗シ易キノ恐レアリ故ニ夫ノ種族ノ撰用シ以テ貨幣ト爲セシ者ハ多クハ獸皮ニ在リシカ如シ今兩洋ノ古史ニ徵スルニ其例甚ク多クナカラス往古猶太ノ人民ハ實ニ獸皮ヲ以テ貨幣ト爲ス其例證載セテ舊約全書ノ中ニ在リ又歐洲北部ナルユリニア邦人ノ「ラハ」ナル一語ハ皮及ヒ貨幣ノ意義ヲ含有セリ以テ此ノ國ノ嘗テ獸皮ヲ通用シ其貨幣トナセシヲ見ルヘシ又近古魯細亞ニ在テハ彼得大帝ノ治世ニ至ル迄テ常ニ獸皮ヲ以テ之

テ通貨ニ充テ羅瑪士巴爾達額世爾ノ諸國ノ如キモ亦タ嘗テ獸皮ヲ以テ其貨幣ト爲セシコトアリ加之未開ノ蠻民ハ現時ニ在テ尙ホ且ツ往々獸皮ヲ以テ貨幣ニ充ツ夫ノ哈喇遜商會ノ如キハ北米土人ト賣買スルノ際實ニ獸皮ヲ以テ其媒介ニ充ツト以テ其一證ト爲スヘシ

牧蕃種族ノ貨幣 佃獵時代ヲ經過シ稍々生計ノ度ヲ進ムル者ヲ稱シ牧蕃ノ時代トス願ルニ此社會ニ在テハ常ニ牛羊ヲ以テ貨幣ニ充テ其狀猶ホ佃獵時代ニ在テ獸皮ヲ通用セシカ如シ今其類例ヲ按スルニ歴々徴スヘキ者アリ希臘詩家ノ巨擘ホーマルノ詠中ニ將軍タイナメツトノ武器ハ九牛ヲ價スグロニコスノ武器ハ百牛ヲ價ストアリ以テ當時牛ヲ用キ以テ貿易ノ媒介ト爲セシヲ見ルヘシ又之ヲ歐洲各土ノ國語ニ徴スルニ貨幣ナル文字ハ元ト牛羊ナル語ト同一ナルカ如シ今其一例ヲ舉ケハ羅典ノピキユニア(貨幣)ナル一語ハ元ト「ピカス(牛羊)ノ

轉セシモノナルカ如シ加之歐洲各土古代ノ貨幣ハ往々牛像ヲ彫刻シ又現ニ英語ノ「フイー」ノ如キハ茲ニ黃銀ト譯填スヘキ語ニシテ其源ハ朔遜語ノ「フユ」ヨリ轉訛シ來リタルモノ、如シ按スルニ「フユ」ナル朔遜語ハ貨幣及家蓄ノ意義ヲ含有スルモノニシテ其轉訛ノ跡明ニ指スヘキモノアリ而シテメイン氏ノ如キモ亦タ其法律考徴ノ中ニ就テ社會幼稚ノ時ニ在テハ家蓄ヲ以テ其貨幣ニ充テシテ説ケリ

上來ノ外、奴隸所有ノ弊風行ハレシ國ニ在テハ所有ノ奴隸ヲ以テ貨幣トナシタルノ例アリ「ニューギニー」ノ如キハ實ニ其惡習アリ又野蠻ノ人民ハ其殼寶石等ヲ以テ自カラ修飾スルヲ好ミ併セテ之ヲ貨幣トナシタル事アリ北米土人ノ其頸頭ニ裝フル「ワンプンヒーク」ナル具殼ヲ通用スルカ如キ其一例ナリ而シテ支那ニ在テ上古ノ人具殼ヲ以テ貨幣トナシタルノ證ハ吾人ノ既ニ知ル所ニシテ試ミニ漢語ノ貨財商業

硬貨論

ニ關スル文字ヲ一見セハ直ニ其基スル所ヲ知ルヲ得ム蓋シ其文字ハ大抵貝ニ从ハサルハナク賣買ト云ヒ貨財ト云ヒ購償ト云フカ如キ皆ナ然ラサルハナシ又之ヲ古史ニ徵スルニ「フイヂー」入種ハ鯨齒ヲ通用シ以テ貨幣トナシタルコトアリ今引テ其異聞ヲ博スルニ足ル耕作種族ノ貨幣、獸皮具殼ハ用キテ以テ貨幣ト爲スト雖モ人ノ普ク好ム所ニアラス時々流通ノ阻滯ヲ致シ爲メニ貿易ヲ不便ナラシム故ニ時運ノ漸ク進ミ人々耕作ニ依テ其生計ヲ營ムニ及ンテ遂ニ其收穫物ヲ以テ貨幣ニ充ツルニ至リ貨幣ノ種類茲ニ至テ一變ス今其類例ヲ示サンニ歐ノ大陸某州ニ在テハ嘗テ五穀ヲ貿易ノ媒介ニ充テ那威ニ在テハ之ヲ舉ケテ之ヲ某々ノ銀行ニ預ケ以テ之ヲ貸借セシコトアリ又中央亞米利加及ヒ墨斯哥ニ在テハ貨幣ニ充ツルニ蜀黍ヲ以テシ地中海近漕ノ半開國ニ在テハ往々橄欖油ヲ以テ通貨トナシ又近古米國

硬貨論

殖民地ニ在テハ煙草ヲ以テ之ヲ通貨ト爲セシコトアリ史ヲ按スルニ千六百十八年バルジニヤ屬地ノ知事殖民ニ令シテ煙草ヲ貨幣ニ充テシメ以テ之ヲ其屬地ニ通セシメ違フモノハ罪スルニ三年ノ懲役ヲ以テスルヲ申セシコトアリ顧フニ是レ金銀貨幣ノ欠乏ニ際シ其一時ヲ苟媮セシ一種姑息ノ方畧タルニ過キスト雖モ此時代ニ在テ「ハルヂ」ニヤ商會ノ未嫁ノ少女ヲ携伴シ來リ之ヲ殖民ノ未タ娶ラサルモノニ與ヘ煙草若干斤ヲ以テ少女一人ニ換ヘタルカ如キハ史家ノ嘗テ傳フル所タリ之ニ加フルニ鷄卵ヲ以テ貨幣トナセシ瑞西アリ乾魚若クハ製造物ヲ以テ通貨トセシ「ニュー・ファウン・トランド」アリ食鹽ヲ以テセシ「亞比西」ニアリ釘ヲ以テセシ「蘇格蘭」アル等其類例一ニシテ足ラサルナリ斯ノ如クニシテ貨幣ノ種類漸ク變遷シテ穀物ヲ通用スルニ至レリト雖モ五穀ノ物タル容量夥大ニシテ之ヲ運搬スル自カラ勞アリ又時

價ノ高低定マリナキ頗ル貯藏ニ便ナラス故ニ人智ノ漸ク進ミ人々其
 便ヲ思フニ及ンテ金屬貨幣ノ事起ル余レ乞フ次ノ章ニ於テ詳ニ之ヲ
 論セム

第四章 貨幣ノ物質ヲ論ス

物質ハ其作用ノ如何ニ依テ定メサルヘカラス、貨幣物質ノ七
 大要項、金屬ヲ貨幣トナスノ得失、金銀ノ最モ貨幣ニ適スル
 理由

貨幣ハ百物貿易ノ媒介ト爲リ許多ノ作用ヲ要スルモノナルカ故ニ其
 物質ヲ撰擇スルニ當テ勢ヒ切要ノ作用ヲ爲スモノヲ索メサルヲ得ス
 是ヲ以テ如何ンノ性質ヲ有スル物果シテ能ク貨幣タルニ足ルヲ知ラ
 ント欲セハ勢ヒ先ツ如何ナル作用アリテ最モ通貨ニ緊要ナルカヲ究
 メサルヘカラス蓋シ其緊要ノ作用ヲ爲スモノハ實ニ能ク貨幣タルヲ
 得レハナリ

工業未タ發達セス信用ノ動作未タ盛ナラサル國土ニ在テハ貿易ノ媒
 介タルモノ唯々貨幣アルノミ故ニ此國土ノ貨幣タルモノハ運搬ニ便

ナルモノト個々截斷シ易キノ性質アルヲ貴シトス然レトモ工業ノ漸ク進歩シテ信用ノ動作大ニ行ハレ價值ノ標準タル作用アルヲ以テ貨幣ノ特逸能用トナスニ及ンテ價值ノ變更シ難キ性アルモノヲ以テ最モ貨幣タルニ堪ユルモノト爲スニ至ル余レ今廣ク通貨トナシ之ヲ彼此ノ國土ニ汎用スヘキモノヲ講スルニ凡ソ左ノ七大性質ヲ包含スヘキヲ見ル

- 第一 普ク各人ノ所好ニ適セサルベカラス
- 第二 運搬ニ便利ナラサルヘカラス
- 第三 毀損磨滅ノ憂アルヘカラス
- 第四 同質ナラサルヘカラス
- 第五 截斷ニ容易ナラサルヘカラス
- 第六 價值ノ變更最モ拙ナカラサルヘカラス

第七 認識シ易カラサルヘカラス

第一 貨幣ノ要點トスル所ノモノハ普子ク人々ノ所好ニ適スルニ在リ若シ苟クモ其好ム所ニアラサラン乎人々決シテ之ヲ授與セサルナリ宇内人類ノ多キ其數億萬ノミナラス古今人情ノ別ル其遠キ既ニ千百年ヲ隔ツ然リ而シテ金銀ヲ以テ貨幣トナスノ一事ハ古今内外恰モ符節ヲ合セタルカ如ク東トナク西トナク一般ニ其所好ヲ合フシ互ニ相約スルカ如シ是レ他ナシ金銀ノ物タル最モ能ク人意ニ適合シ人々之ヲ好尚スルノ特性ヲ有スルニ由ルニ是ヲ以テ普子ク人民ノ所好ニ適セサルモノハ用キテ以テ之ヲ授受セシムルヲ得ス假令ヒ暴威ヲ以テ之ニ迫ルアルモ遂ニ得テ人民ヲ強ユル能ハス到所怨望ヲ招クニ過キサルノミ唯タ夫レ人民ノ好尚ニ適セサルモノハ通貨ノ本質ナシ通貨ノ本質ナキモノハ固ヨリ通貨タルノ効用アラサルナリ余今願ミ

テ貨幣ノ歴史ヲ按スルニ元ト是レ政府ノ便宜ヲ圖ルカ爲メ其通用ヲ爲スモノニアラス實ニ人々貿易ノ利便ヲ謀ルカ爲メ之ヲ用ウルモノナレハ其物質ノ各人ノ所好ニ從ハサルヘカヲサルハ理勢ノ必至ナルモノナリ

論 貨 硬

第二 抑モ物品ノ過大ナルモノハ之ヲ紛失スルノ患ナシト雖モ之ヲ運搬スルニ不便アリ其過小ナルモノハ之ヲ運搬スルニ易シト雖モ又之ヲ失却シ易キノ患アルヲ免レス貨幣ノ如キハ日常授與ノ頻繁ナルモノナルヲ以テ特ニ此弊ヲ去リ大ニ過キス小ニ失セス能ク其中庸ヲ得セシメサルヘカラス昔時士巴達ノライルガスハソノ人民ヲシテ鐵錢ヲ通用セシメシコトアリ今若シ斯クノ如キノ物ヲ採テ之ヲ其通貨ニ充テハ英五磅ニ價スル物ヲ賣買セント欲スルニ當テ一噸ノ鐵塊ヲ使用セサルヲ得ス其不便識ル可キナリ又一千七百年代ニ當リ瑞典ハ

論 貨 硬

銅錢ヲ以テ貿易ノ媒助トナセリ是ヲ以テ當時ノ商賈タルモノ其價錢ヲ領受スルニ及ンテ常ニ車輛ヲ要セリト其不便亦タ想フヘキナリ之ヲ要スルニ昔時ノ通貨ハ大概此類ニシテ多クハ運搬ノ便利ヲ欠キ頗ル貨幣タルノ能用ヲ損ス今余ヲ以テ之ヲ見レハ牛羊ノ如キハ自ツカラ歩行スルヲ以テ尙ホ或ハ可ナルモノアリ然レトモ夫ノ獸皮穀類乃至銅鐵ニ至テハ運搬ノ不便ナル之ヲ貨幣トシ使フヲ得サルナリ況ンヤ運搬シ易キノ能アルト否ヲサルトハ甲ニ輸シ乙ニ移スノ便否ニ關シ其利害ノ係ル所頗ル少小ナラサルモノアルニ於テチヤ蓋シ貨幣ノ運搬ニシテ不便ナル時ハ自カラ物價ノ不平均ヲ來タシ遂ニ延テ貿易ノ寂寥ヲ致スヲ免レサレハナリ唯夫レ此ノ如シ故ニ容量ノ過大ニ失スルモノハ勢ヒ得テ貨幣ト爲スヘカヲサルナリ而シテ其過小ニ失スルモ亦タ其不便多ホシトス夫ノ金剛石ノ如キハ微小ノ分量ヲ以テ崇

硬

貨

論

高ノ價值ヲ有スルカ故ニ皮相ノ見ヲ以テ之ヲ云ヘハ最モ善ク貨幣タルニ適スルカ如シ然レモ若シ能ク其實相ヲ見ハ必ス賣買上ノ不便多キヲ知ラム看ヨ現ニ金銀ノ如キモ些少ノ賣買ニ際シ之ヲ零碎スルヲ得ス爲メニ其不便ヲ感スルニ非ラスヤ故ニ曰ク大ニ過キス小ニ失セス能ク其中庸ヲ得セシメサルヲ得サルナリト

第三 之ヲ所持スルノ際危險ノ恐レアルモノハ能ク貨幣タルニ適當セス夫ノ「アルコール」ノ如キ蒸發シ易キ者夫ノ肉類ノ如キ腐敗シ易キモノ夫ノ木ノ如キ朽チ易キモノ夫ノ鐵ノ如キ錆易キモノ等皆ナ是レ其能用ヲ欠クモノトス聞ク往時某邦ニ在テ鶏卵ヲ流通シ生魚ヲ通用セシト惟フニ是レ信カ若シ信スヘシトセハ當時ノ貨幣ハ僅カニ數日ヲ出テスシテ腐敗シ去ル者ニシテ朝夕ヲ待タス流用スヘカラサルニ至リシ者多カラシ豈ニ又人々安固ノ宜シキヲ失スルモノニ非ラサラ

ンヤ

硬

貨

論

第四 同質ノ貨幣ニシテ同一ノ分量ヲ有スルモノハ其價值モ亦タ同一ナラサルハカラス若シ夫レ同質ノ金塊ニシテ同一ノ重量ヲ有スルモノナルニ其價值彼此相異ナルアラハ貨幣ノ貨幣タル便利ヲ喪フニ至ラン試ミニ寶石ヲ取り其容量ノ同シカラサルモノ三四塊ヲ比ヘテ之ヲ較セヨ到底同一ノ價格ヲ得サルヘシ又金銀ノ如キモ鍛冶ノ術ヲ盡スニ非スンハ遂ニ同一ノ重量ヲ定ムルコト能ハス

第五 凡ソ物、截斷スヘカラサルハ無シ彼ノ堅牢ニシテ容易ニ破碎シ得サルモノト雖モ一層堅緻ノ物體ヲ以テ之ニ臨マハ能ク得テ之ヲ破碎セサルハナシ然レハ則チ天下ノ萬物此一點ヨリシテ之ヲ云ヘハ皆ナ能ク貨幣タルニ足ル可キ乎曰ク否ラス願フニ唯リ裁斷シ得ヘキヲ以テ裁斷ニ容易ナリト云フヘカラス否ナ唯リ裁斷シ得ヘキノミヲ以

テ足レリト爲スヘカラス必ラスヤ裁斷ノ片々ヲ再合シ能ク之ヲ密交セシメ以テ前形ニ復シ以テ元價ニ復スルヲ得分合自在ナラサルヘカラス彼ノ獸皮ヤ木材ヤ寶石ヤ布帛ヤ之ヲ截切スルハ眞ニ易シ然リト雖モ一タヒ之ヲ截切セハ容易ニ之ヲ接合スルヲ得ス之ヲ接合スルニ至テ其能ク苦慮シ若クハ其痕跡ヲ遺サ、ルモノ少ナシ既ニ苦慮シ既ニ痕跡ヲ遺ス其物豈ニ元價ヲ保ツヲ得ンヤ

第六 貨幣ハ價值ノ標位ナリ故ニ貨幣ノ用ニ充ツル物體ハ必ラス價值ノ變更シ難キモノヲ取ラサルヲ得ス蓋シ其物體ノ價值ニシテ變更シ易キ時ハ貨幣ノ價值從テ變更シ其影響ヤ延テ爾餘凡百ノ價值ニ及ヒ貿易上著大ノ變動ヲ生スルコトアレハナリ而シテ此弊ヤ特ニ多ク貸借ノ上ニ表ハレ當初之ヲ貸付セシ時ト之ヲ返辨スルノ期ニ際シ貨幣ノ價值ヲ變動スルアラハ必ラス一面ニ僥倖ノ利ヲ得セシメ一面ニ不

慮ノ損失ヲ蒙ラシメサルヲ得サレハナリ蓋シ又弊ナリト謂ツヘシ然レトモ世ノ知ラサル者或ハ言ヲ爲スアリ曰ク一面ニ損失アレハ必ラス一面ニ利得アラン今社會ノ全體ニ就テ之ヲ觀察スレハ毫モ得失ナキナリト非ナル哉言ヤ其荒唐無稽ナル殆ント余ノ喋々ヲ要セサルナリ今我レ百圓ノ收入ニ就テ拾圓ヲ損失シ彼レハ百圓以外徒手ニシテ拾圓ヲ收得セント假定セヨ其悲喜ノ情果シテ同一ニ出テ彼此互ニ輕重ナキ乎蓋シ然ラサルヘシ凡ソ人ノ情トシテ損失ヲ悲シムノ度ハ收得ノ快樂ヲ悦フノ度ニ過グルヲ常トス故ニ我カ失フ所彼ノ得ル所ニ均シキモ我レノ苦ハ彼ノ樂ニ比シテ一段ノ多キアリ况ンヤ彼レカ百圓以外ニ拾圓ヲ得ルノ快樂ハ十一分ノ一ニシテ我カ九拾圓ニ就キ拾圓ヲ損失スル苦痛ハ實ニ九分ノ一タルアリ兩者相比量シテ其平均ヲ得ル能ハサル此ノ如シ之ヲ如何ソ弊ナシト云フヲ得ンヤ加之世ノ營

業ヲ爲シ發明ヲ企ツル者共ニ皆ナ鞠躬シテ其目的ヲ遂ケントス然レトモ時々變動ヲ貨幣ノ價值ニ生スルアラハ爲メニ其目的ヲ挫折シ社會遂ニ事業ヲ創造スルモノナキニ至ラン是レ豈ニ一國社會ノ利益ナランヤ

硬

貨

論

第七 貨幣ハ實ニ貿易ノ媒介タリ到處自在ニ之ヲ流通セシメサルヘカラス故ニ容易ニ其實質ヲ認識シ容易ニ之ヲ信スルヲ得セシムルハ貨幣タル性質ノ一大要須ニシテ其關スル所少ナカラサルナリ是ヲ以テ其實ノ良否ニシテ易容ニ之ヲ認ムルヲ得ス交易アル毎ニ之ヲ檢點シ之ヲ秤量スルノ煩雜アルモノハ貨幣ノ作用ヲ欠クモノニシテ素ヨリ通貨タルノ能アルナシ夫ノ寶石ノ如キ實ニ斯ノ作用ヲ欠ク故ニ吾人寶石ヲ流通シテ之ヲ通貨トナスヲ得サルナリ唯夫レ貨幣ハ一目ノ下直ニ其良否ヲ知ルノ作用アラサルヘカラス而シテ之ヲ知ルノ術實

硬

貨

論

ニ一定ノ人アリテ其實質ヲ記印保證スルニ在リ是ヲ以テ記章若クハ燒印ニ堪ユルノ資性アルヘキハ貨幣タル物體ノ當然ニシテ其能ク之ニ堪ユルモノ唯夫ノ鑄造ニ適スルモノアルノミ
以上通シテ七項ハ貨幣タル作用ノ要目ニシテ之ヲ具備スルモノニアラサレハ決シテ貨幣タルノ能用ナシ而シテ何物カ能ク此ノ數箇ノ作用ヲ具備ス豈ニ金銀其物ニアラサルナキヲ得ンヤ然レトモ宇内萬國盡ク之ヲ用ユルコト能ハス文明ノ進歩ニ依テ自カラ沿革アリ今古今各土ノ貨幣史ヲ按スルニ社會ノ進歩遲回ニシテ商業ノ未タ盛ナラサル時ニ當テハ銅貨ノ通用頗ル多ホク進ンテ銀トナリ金トナルカ如シ之ヲ要スルニ金屬ハ其類多ホシト雖モ其光彩重量及ヒ堅牢ニ至テハ人々之ヲ識別シ易ク夫ノ鐵ヲ除クノ外皆ナ空氣汚穢ノ作用ニ依テ其實ヲ變スルノ憂ナク其分合モ實ニ自在ニシテ又其痕跡ヲ留メサルナ

リ是ヲ以テ幾回ノ分截支合ニ逢フモ爲メニ其價格ヲ昂低セス其便利
他物ノ比ニアラサルナリ

諸種金屬殆ント皆ナ貨幣タルノ性質ヲ特有ス然レトモ文明ノ進歩ス
ルニ及ンテ之ヲ金銀ノ二者ニ限ルニ至リシモノハ抑モ故アリ蓋シ銅
鐵錫鉛等ノ如キハ酸氣ノ侵ス所トナリ爲メニ其光澤ヲ失フアリ又其
質脆軟ニシテ自ツカラ磨滅シ易ク之ニ加フルニ化學ノ進歩鑛坑ノ發
見等ニ依テ價值ノ變遷常ナク到底前陳第六項ノ作用ヲ備フル能ハサ
レハナリ夫ノ銀ノ如キハ空氣ニ觸ル、ノ久シキニ及ンテ稍々黑色ヲ
帶フト雖モ一タヒ之ヲ洗滌スレハ本有ノ白色ニ復シ毫モ其本質ヲ損
セス却テ黑色ヲ帶フルヲ以テ其眞銀タルヲ識別スルノ便アリ况ンヤ
其物タル多ク社會ノ飾具ニ供セラル、ヲ以テ其價不廉ナル時ハ貨幣
ニ充用シ其低落スル時ハ飾具ニ供シ隨テ非常ノ變動ヲ價值ノ上ニ及

ホサ、ルナリ然レトモ文明ノ度愈々進歩スルニ及テ銀ノ位置自カラ
低落シ遂ニ黃金ノ無雙ナルヲ知ルニ至リ夫ノ銀貨ヲ以テ其補助貨ト
シ之ヲ流通スルニ至レリ

第五章 貨幣ノ鑄造ヲ論ス

貨幣鑄造ノ起源、鑄造貨幣ノ釋義、貨幣鑄造ノ注意、貨幣鑄造ハ人民ノ自由ニ任スヘカラス、

貨幣タルノ作用ヲ具備スルモノハ實ニ金屬ニシテ金屬ノ中金銀ヲ以テ最モ其能アリトナスノ實ハ吾人既ニ前章ニ於テ之ヲ詳ニセリ佛國ノ理財家タルコツト曰ク金銀ハ鑄造ノ事未タ起ラサルモ尙ホ且ツ貨幣トシ之ヲ通用シ得ヘキノ性ヲ有ス而シテ一タヒ之ヲ鑄造スルニ及テヤ其品位彌々貴ク遂ニ他ノ金屬ヲシテ其跡ヲ貿易上ニ絶ツニ至ラシメシト是ニ於テ余ハ論述ノ歩ヲ進メ金銀ヲ鑄造スルハ果シテ何ノ益アル乎其鑄造ノ法ハ果シテ如何ナルヤヲ論窮セント欲ス今史乘ヲ按シ隆古以來金屬ヲ通用セシ情態ノ如何ヲ察スルニ許多ノ變遷アリテ而シテ后ヲ始メテ今日ノ整頓ヲ爲スニ至リシヲ知ル而シ

製

テ其始メニ當テハ唯僅ニ其重量ヲ秤リ之ヲ交換ノ媒助トナシ漸ク進テ之ヲ棍棒ニ製シ其後鑛坑ニ富メルノ地方ニ在テハ砂金ヲ取テ之ヲ流用セリ現ニ加里福尼澳太利新贊蘭ノ如キハ今尙ホ此例ヲ存ス是レ第三ノ進歩ナリ又往古峨峙セルフ等ノ人種ハ金屬ヲ延長シテ針狀ノ貨幣ヲ製セシコトアリ其他鐵環ヲ流用セシ等千殊萬異ニシテ一々記載スルニ遑アララス而シテ其創造ハ何ノ年代ニアリシカ今得テ之ヲ考フヘカラス然レモ希臘ホーマルノ時代ニ在テ流通貨幣ノ未タアラザリシ證ハ余既ニ之ヲ引證セリ然レトモライガルガスノ時代ニ在テ之ヲ通用セルノ實アリシハ史ノ吾人ニ傳フルトコロナリ故ニ紀元前九百年ノ頃ニ當テ歐洲二三ノ國早ク既ニ鑄造貨幣ノ流通アリシヲ知ルヘシ或人曰ク紀元前八百九十五年ニ當リアルクス王フアイロン始メテ銀貨ヲ鑄造セシト蓋シ然ラン而シテ鑄造發見ノ由來ヲ考フルニ印

章ノ事大ニ之ニ關スル所アリ夫レ印章ナルモノハ其用頗ル古ク今チ
 距ル數千年埃及舊國ノ盛時ニ當テ早ク既ニ之ヲ常用セリ而シテ其印
 章ヲ用ユルノ意主トシテ其所有ヲ確認シ其契約ヲ證スルニ起レルカ
 如シ後チ漸ク其用ヲ擴充シ以テ其意見ヲ代表スルノ具ト爲スニ至レ
 リ唯夫レ是ヲ以テ貨幣製造ノ始ニ當リ其重量ヲ剝減スルモノアルチ
 憂フルヤ君主タルモノ貨幣ノ端邊ニ記スルニ其印章ヲ以テシ以テ其
 重量ト其金質ノ純精ナルヲ證明セリ是レ實ニ貨幣鑄造ノ因テ起ル本
 源ニシテ記印證明ノ由來ナリ然リト雖モ其性質重量ヲ證スルノミチ
 以テ流通間ノ摩損滅殺ヲ救フヘカラス故ニ人智ノ漸ク進ムニ從ヒ其
 形ヲ圓ニシ方ニシ又コレヲ三角ニス佛ノ理財家西邊利亞シベリア曰ク鑄造貨
 幣トハ其重量性質ヲ保證セル貨錠インゴットナリト惟フニコノ解未タ全ク是ナ
 ラス是凡主曰ク鑄造貨幣トハ印章ヲ表銘シ以テ其重量ト其性質トチ

保證シタル貨錠ヲ謂フナリト斯ノ說寧ロシヘリアノ說ニ勝ルカ如シ
 鑄造貨幣ノ釋義實ニ斯ノ如シ余ハ今方サニ論述ノ歩ヲ進メ貨幣鑄造
 ニ關シテ注意スヘキ四大要件ヲ舉示スルアラントス四大要件
 一ニ曰ク偽造ヲ防カサルヘカラス
 二ニ曰ク殺削ヲ防カサルヘカラス
 三ニ曰ク磨損ヲ拒カサルヘカラス
 四ニ曰ク大ニ其鑄造ヲ精クシ以テ之ヲ發行セル國土ノ紀念ト爲サ
 ルヘカラス
 是レナリ古來各國ニ在テ貨幣ノ贗造ヲ爲スモノ其類一ニシテ足ラス
 又之ヲ防止スルノ術ニ至テモ歷世ノ發見甚タ多ホシ特ニ羅瑪ノ如キ
 ハ二千年來百方其術ヲ盡シ嚴ニ酷刑ヲ設ケ之ヲ制止セシト雖モ徒ニ
 勞シテ益スル所ナク遂ニ數千人ノ死囚ヲ出スニ止マルノミローヂン

グ曰ク貨幣ノ贗造ハ到處刑戮ヲ以テ之ヲ制止スルヲ得ス寧ロ鑄造ノ法ヲ精撰シ之ヲ偽造スヘカラサテシムルニ若カスト信ナル哉言ヤ而シテ其言ノ吾人ヲ欺カサルハ貨幣鑄造ノ史上ニ就テ之ヲ知ル按スルニ初メ歐洲ニ在テ摸型ヲ以テ其貨幣ヲ造クルヤ之ヲ偽造スルモノ最モ多ク中世ニ及ンテ之ヲ伸張シテ之ヲ製スルヤ稍々之ヲ減シ漸ク降テ波紋ヲ周圍ニ摸スルニ及ンテ亦タ更ニ之ヲ減シ遂ニ降テ近世ニ及ンテアルホーン、タン子リア諸氏ノ發明アルニ依リ蒸氣壓迫ノ力ヲ以テ之ヲ精製スルニ至テ又大ニ之ヲ減セリ

大ニ其鑄造ヲ精クシ以テ之ヲ發行セル國土ノ紀念トナスノ要ハ之ヲ以テ歴史ノ足ラサル所ヲ補ハント欲スルニ在リ按スルニ古代ニ在テ邦國ノ興廢存亡常ナク史家其事蹟ヲ傳ヘサルモノト雖トモ會々當時通用ノ貨幣ヲ後世ニ遺傳シ爲メニ後人ヲシテ當時ノ狀態ヲ想像セシ

ムルコトアリ是レ第四項目ノ甚タ切ナル所以ニシテ近時普魯士ノ如キハ實ニ此意ヲ祖述シ大勝利アル毎ニ必ラス貨幣ヲ新鑄シ以テ之ヲ世ニ公ケニス顧フニ若シ今後時勢ノ變遷アルニ遇ヒ普國一タモ滅亡スルアルモ幸ニ此貨幣ヲ遺傳シ後世ヲシテ能ク其事實ヲ知ルヲ得セシメム蓋シ又用意ノ密ナルヲ見ルヘシ而シテ此説ヤ豈ニ惟普人ノミ之ヲ知ルナランヤ佛人モ亦タ嘗テ之ヲ主張セリ一千八百四十二年ノ頃ニ當テ佛國ノ議官中此説ヲ唱ヘシモノアリ然レトモ用キラレスンテ止ム後千五十二年ニ至リ復タ之ヲ主張セシモノアリ又用キラレスンテ止メリ是レ吾人ノ深ク惜ム所ニシテ自今以後廣ク此説ヲ行ヒ世界萬國ヲシテ共ニ歴史補欠ノ美事ヲ舉ケシメンコトヲ望ム

文明ノ歩武漸ク進テ漸ク精良ノ貨幣ヲ要スルハ社會ノ常勢ナリ而シテ貨幣ヲ鑄造スルノ權ハ果シテ何人ノ掌握ニ歸スヘキカ是レ緊切ノ

硬 貨 論

疑問ニ屬ス吾人今マ輕忽ニ之ヲ論斷スヘカラス英國ノ碩學スベンサ
 一嘗テ論シテ曰ク吾人ニシテ茶葉ヲ裏セハ茶商ニ就テ之ヲ求ムルノ
 ミ麵包ヲ欲セハ麵包師ニ就テ之ヲ需ムルノミ而シテ貨幣ノ鑄造ノ如
 キモ亦復タ之ヲ商人ノ所爲ニ任放シ以テ吾人ノ需用ヲ充タスヘキ也
 抑モ茶酒麥米ノ如キ日用ノ物品ニ就キ其質ノ精良ニシテ而モ價ノ廉
 ナルモノヲ擇フハ吾人ノ通情ナリ而シテ其業ヲ營ム者モ亦タ勢ヒ互
 ニ相競争シ以テ良質ニシテ而モ價ノ廉ナルモノヲ鬻カサルヲ得ス貨
 幣モ亦タ實ニ此ノ如シ願フニ若シ其鑄造ヲ放テ之ヲ人民ノ所爲ニ任
 セハ正直ノ貨幣舖獨リ顧客ノ數ヲ増シ其繁榮ヲ致スナラン然ルニ何
 ナ苦ンテ其全權ヲ舉ケテ之ヲ政府ノ手ニ掌握セントスル乎ト余常ニ
 氏ノ卓論ヲ信ス然レトモ此一段ニ至テハ遂ニ得テ首肯スル能ハサル
 ナリ嗚呼氏ハクレシアム氏發見ノ通規ヲ知ラサル乎夫ノ通規ニ云ハ

硬 貨 論

スヤ精良ノ貨幣ハ粗惡ノ貨幣ヲ驅逐スル能ハス疎惡ノ貨幣却テ精良
 ノ貨幣ヲ驅逐スト蓋シ貨幣ハ他ノ諸物ト對面ノ結果ヲ露ハスモノニ
 シテ政府儻シ之ニ干涉セス人民ノ所爲ニ放任ズラハ粗惡ノ貨幣
 ナ製スル者ノミ惟リ其壟斷ヲ私シ正道ヲ踏ムモノ大ニ其害ヲ蒙ラン
 唯夫レ貨幣鑄造ノ事ハ重シ故ニ泰西各土ノ憲法必ラス此權ヲ以テ君
 主ノ特有ニ歸シ決シテ之ヲ外ニ委セサルナリ昔時君主專橫ノ日ニ在
 テハ往々不正ノ跡アリ之ヲ君主ニ委スル甚タ危シト雖モ夫ノ憲法ヲ
 制定シ之ヲ儼守スルノ今日ニ至テハ決シテ其弊ヲ生スルノ因ナシ是
 ナ以テ今時之ヲ君主ノ特權ニ歸スルハ最モ其宜シキヲ得タルモノニ
 シテ余未タ其不可アルヲ見サルナリ

第六章 貨幣流通ノ原理ヲ論ス

價值ノ一位、流通貨幣、勘定名稱ノ釋義、及其關係、標準貨幣、
割引貨幣ノ二別、物質價值、及名目價值ノ解、依法貨幣ノ

釋義、クレシヤム發見ノ通規、

貨幣ノ作用其物質其鑄造ノ得失ニ至テハ余レ既ニ之ヲ論セリ故ニ今
其論述ノ步ヲ進メ貨幣流通ノ原理ヲ説カンニ吾人ハ先ツ價值ノ一位
流通貨幣及ヒ勘定名稱ノ區別アルヲ講シ貨幣ニ物質上ノ價值ト法律
上ノ價值アル所以ヲ明ニセサルヘカラス

何チカ價值ノ一位ト謂フ曰ク重量或ハ尺度ノ一位ニ倣ヒ一定シタル
物質ノ分量ヲ云フ也本來價值ハ交換ノ割合ニシテ無形ノモノタリ故
ニ其一位ヲ設クル事甚タ難シト雖モ夫ノ物理學上數量ヲ定ムルニ有
形ノ物質ヲ假ルカ如ク價值モ亦タ有形ノ物質ニシテ其變動少ナキモ

ノヲ選ヒ之ヲ假リ以テ一位ト爲スチ得ヘシ唯夫レ價值ノ一位タルモ
ノハ其價值ノ變動極ナキヲ要ス然レトモ價值ハ元ト交換ノ割合ナル
ヲ以テ何種ノ物品ナリト雖モ遂ニ變動ナキヲ保チ難シ故ニ其產出消
耗ノ配對殆ント相同似シ生耗共ニ急激ナラス隨テ價值ノ變動極ナキ
モノヲ要スヘシ顧フニ金銀銅ノ如キハ蓋シ其者ナラン且價值ノ一位
タルモノハ其重量ニ一定ノ限界アルニ非ラス唯一般ノ人民コレヲ遵
奉シコレヲ變更スルコトナクンハ則チ可ナリ夫ノ尺度ノ一位ノ如キ
モ亦タ素ヨリ其長短ヲ定限スルモノニアラス一寸ヲ以テ一位トナス
モ則チ可ナリ一丈ヲ以テ一位ト爲スモ亦固ヨリ不可ナキナリ要スル
ニ之ヲ一定シタルノ後チ劇カニ之ヲ變更スルコトナクンハ則チ可ナ
リ

佛國理財學士シベリア嘗デノメトリックシステム(十進法グラムヲ以

テ一位トスルヲ云フ重量ヲ基礎トシ萬國普通ノ價值一位ヲ定制セン
 コトヲ言ヒ黄金十グラム(我ニ匁七分ニ當ル)ヲ以テ一位トナサンコト
 ナ論セリ顧フニ若シ量目ノ一位ト價值ノ一位トナシテ相均シカラシ
 メハ夫ノ造幣局ノ如キ金工ノ如キハ貨幣ヲ鑄造シ之ヲ溶解スルニ當
 テ其品質ト價值ヲ識リ易ク爲メニ多少ノ利便アラン然レモ夫ノ貨幣
 ナ使用スル世間通般ノ公衆ニ至テハ更ニ其利便ヲ蒙フルコトナカラ
 ン又唯貨幣ヲ用キテ貿易ノ媒介ト爲ス者ニ至テハ其品質價格ヲ知ル
 ナ要セサルナリ故ニ幾多ノ地金能ク我國五圓ノ金貨ヲ造ル幾ダレイ
 ンノ金塊能ク英金ソペレインヲ鑄ルハ僅々兩替商人ノ問フ所ニシテ
 通般ノ人未タ曾テ之ヲ問ハサルナリ之ヲ要スルニ價值ノ一位ハ必ラ
 スシモ量目ノ多少ニ沿フナ要セス其倍數タリ同數タルハ一ニ皆ナ之
 ナ流通スル人民ノ便宜ヲ謀リ其所好ニ從テ之ヲ定ムルヲ宜ト爲ス耳

何ヲカ勘定名稱ト云フ乎曰ク貨幣ヲ以テ物品ノ價值ヲ計算スル時ニ
 當テ使用スル所ノ名稱ヲ云フ也何ニテカ流通貨幣ト云フ乎曰ク人民
 流通ノ便宜ヲ謀リ價值ノ一位ヲ基トシ或ハ加倍シ或ハ分數シテ之ヲ
 鑄造シタル貨幣ヲ云フナリ而シテ吾人ニシテ貨幣流通ノ原理ヲ識ラ
 ント欲セハ勢ヒ價值ノ一位勘定ノ名稱及ヒ流通貨幣ノ關係ヲ詳カニ
 セサルヘカラス
 流通ノ貨幣ハ必ラスシモ價值ノ一位ナルヲ要セス若シ必ス價值ノ一
 位ヲ以テ之ヲ造ルトセン乎物質ノ重量大ニ過クルコトアリ亦小ニ過
 クルコトアリ爲メニ許多ノ不便アラン之ヲ要スルニ流通ノ貨幣ハ價
 値ノ一位ニ加倍シ若クハ其分數ノモノダラサルヘカラス而シテ勘定
 ノ名稱ハ流通ノ貨幣ト異ナリ亦タ價值ノ一位ト異ナルコトアリ例ヘ
 ハ王政維新ノ初メニ當テ價值ノ一位ハ一兩ナリシト雖モ流通ノ貨幣

ニ五兩十兩(一位ノ倍數)或ハ二銖一銖(一位ノ分數)等ノ貨幣ヲ用ヒ勘定名稱ニ何歟何分等ノ舊稱ヲ用ヒタルカ如シ英國サクソンノ時ニ當テハ銀一磅ヲ以テ價值ノ一位トセリ然レトモ其重量過大ナルヤ頗ル流通ニ便ナラス故ニペンニーヲ造リ以テコレヲ流通セリ而シテ當時ノ勘定名稱ハ實ニシルリングニ依テ之ヲ稱フ今前言ヲ再說スレハ流通貨幣ハ貿易ノ媒介ト爲リ勘定ノ名稱ハ價值ノ通標トナリ價值ノ一位ハ貸借標位ノ作用ヲ充タスナリ現時我カ國及ヒ英國ノ貨幣ノ如キハ一箇ノ貨幣ヲ以テ價值ノ一位勘定ノ名稱及ヒ流通貨幣ノ三作用ヲ爲シ一圓金ノ如キソベレインノ如キ即チ是レナリ佛國ハ則チ否ラス其貨幣フランクハ勘定ノ名稱及ヒ價值ノ一位ナリト雖モ其流通ノ貨幣ハフランクノ倍數即チ五フランク若クハ十フランク等ヲ用キ以テ日用ノ授受ヲ爲ス蓋シフランクノ容量過少ナルカ故ナリ魯細亞モ亦タ

略ホ佛國ニ類シ其勘定ノ名稱ハ「ルーブル」ニシテ流通ノ貨幣ハ銅錢コペックヲ用ユ

上來說ク所三作用ノ分離ハ多クハ貨幣ノ制度ヲ變更スルノ時ニ當テ起リ夫ノ從前ノ貨幣ヲ呼フニ新名稱ヲ以テスルカ如キ流通貨幣ヲ變更スルモ尙ホ且ツ舊來ノ勘定名稱ヲ用ユルカ如キ是レナリ而シテ流通ノ貨幣ト勘定ノ名稱ト相別異スヘキ二箇ノ原因アリ第一自然ノ摩擦若クハ故意ノ減殺ヲ以テ其量目ヲ減損スルニ因ル第二本國ニ在テ貨幣ヲ鑄造セス常ニ域外諸國ノ貨幣ヲ混用シテ之ヲ流通セシムルニ因ル願フニ若シコノ二様ノ因アラハ勘定名稱ト流通貨幣ノ相別異スルハ數ノ必然ナルモノニシテ決シテ異シムニ足ラサルナリ

貨幣ニ標準割引ノ二別アリ標準貨幣トハ貨幣ノ價值其物質ノ價值ト同一ナルモノヲ謂ヒ割引貨幣トハ其價值物質ノ價值ト相當セス唯タ

成法ノ効力若クハ慣習ノ力ニ依テ其價值ヲ保チ夫ノ標準貨幣ニ對シテ一定ノ割引ヲ爲スモノヲ謂フ抑モ標準貨幣ノ如キハ其價値物質ノ價値ト同シ是ヲ以テ之ヲ鎔解シテ一塊ノ地金ト爲スモ其價値依然トシテ變セス猶其舊ヲ存ス故ニ其國境ヲ越ヘテ遠ク之ヲ域外萬里ノ國ニ携フルモ猶ホ且ツ之ヲ通用スルヲ得ヘシ然レトモ割引ノ貨幣ハ大ニ然ラス其價値ヤ實ニ成法ノ力ニ依テ之ヲ保ツ是ヲ以テ其成法ニシテ其効ヲ失セハ其價值得テ保ツヘカラサルナリ故ニ此種ノ貨幣ハ域外ニ在テ額面ノ價値ヲ有スルヲ得ス唯僅ニ物質ノ價値ニ應當シ其通用ヲ爲スヲ得ルノミ我邦幕府ノ時ニ當テ將軍綱吉、荻原重秀ノ言ヲ納レ當十ノ大錢ヲ發行セルカ如キ英王ジョルヂ二世ウート氏ノ議ヲ取リ半「ペンス」ヲ愛蘭ニ發行セルカ如キ皆ナ弊害ノ著大ナルヲ見ル而シテ重秀ハ源君美ノ讜議ニ論破セラレウート氏ハスウキフトノ辨論ニ

打破セラレ久シカラスシテ之ヲ廢止セシハ彼此人民ノ一大幸福ト謂ツヘシ

上文陳述スル所ニ據テ之ヲ見レハ貨幣ニ二種ノ價値アルコト識ルヘキナリ第一物質ノ價値第二名目ノ價値是レナリ又貨幣ノ物質價値ヲシテ其名目價値ニ下ラシムルニ因アリニツ曰ク其重量ヲ減ス曰ク其質ヲ雜駁ニス是レナリ

又貨幣ニ依法、不法ノ別アリ依法ノ貨幣トハ法制ヲ以テ其通寶タルヘキヲ定制シ賣買貸借ノ際特異ノ肯諾契約アルニ非ラスンハ賣主タリ貸主タル者其受納ヲ拒絕スルヲ得サル者ヲ稱シ其之ヲ一定スル所以ノ目的ハ賣買上ノ煩雜ヲ避ケ貸借上ノ契約ヲ鞏固ナラシメント欲スルニ在リ蓋シ其制ニシテ行ハル、アラサラシメハ賣買貸借ノ際彼此互ニ自家ノ利益ヲ主張シ特ニ借金返還ノ時ニ當テ貸主ハ割引貨幣ヲ

貸與シテ標準貨幣ヲ收納センコトヲ欲シ借主ハ標準貨幣ヲ借受シテ割引貨幣ヲ返還センコトヲ欲シ契約錯亂シテ訴訟武ヲ接シ社會ノ秩序遂ニ其紊亂ヲ免ルコト能ハサレハナリ但タ通貨ヲ制定スルノ意專ラニ賣買ノ煩雜ヲ避ケ契約ノ安固ヲ保ツニ在リ故ニ其賣買貸借ノ際ニ當テ之カ局ニ當ルモノ特異ノ肯諾契約ヲ爲スアラハ必ラスシモ夫ノ通貨ノ授受ヲ爲スヲ要セス唯タ正ニ其肯諾ト其契約トニ從フヘキノミ貨幣ニ標準割引ノ二別アリ又其價值ニ名目物質ノ二差アルハ吾人既ニ之ヲ講セルカ如シ唯夫レ然リ故ニ若シ一種ノ貨幣ノミアリテ社會ニ流用シ唯リ之ヲ使用スルニ止マラシメハ敢テ之カ論議ヲ要セス然レトモ若シ其社會ニシテ二種ノ貨幣ヲ并行シ其名目價值ハ同シクシテ其物質價值ハ異ナルアラシメハ其現象果シテ如何ソヤ是レ大ニ極ムヘキモノ、如シ夫レ貨幣ノ性質重量ヲ精査シ而シテ后チ之ヲ通

用スルハ社會通般人ノ爲サ、ル所ニシテ獨リ兌換商地金商ノ徒射利ノ爲メ之ヲ爲スアルハ吾人ノ既ニ知ル所ナリ且ツ夫ノ貨幣ノ失沒スルヤ或ハ運搬ノ際海底ニ埋沒スルニ依リ或ハ貿易ノ不平均ニ依テ海外ニ流出スルニ因ル然レトモ此レ其小部分ノミ其大數ノ部分ニ至テハ實ニ地金商等ノ之ヲ鎔解シ之ヲ輸出スルニ因ル是ヲ以テ考察ノ歩ヲ進メテ之ヲ顧ミルニ今若シ標準貨幣ト割引貨幣トヲシテ一社會ノ間ニ並ヒ行ハレシメ共ニ之ヲ使用スルアラシメハ夫ノ地金商ノ徒ハ相率キテ標準貨幣ヲ鎔解シ以テ之ヲ他ノ用ニ供シ若クハ之ヲ海外ニ輸出シ大ニ其利ヲ綱スルニ至ラン蓋シ割引貨幣ノ標準貨幣ニ於ケル名目上ノ價值同一ナリト雖モ物質上ノ價值大ニ異ナルモノアリテ不良ノ者能ク善良ノ者ニ比駕スルヲ得レハナリクレシヤム嘗テコノ現象ヲ觀察シ遂ニ貨幣流通ノ原理ヲ發見セリ氏曰ク不良ノ貨幣ハ善良

ノ貨幣ヲ排拆シ善良ノ貨幣ハ不良ノ貨幣ヲ排斥スル能ハスト貨幣流通ノ秘訣實ニ此ノ數語ヲ出テス始メ斯ノ原理ノ未ダ表ハレサルヤ各邦ノ財政ヲ主トルモノ毎ニ不良貨幣ノ社會ニ滞留スルヲ患ヒ善美ノ新貨幣ヲ鑄造シ以テ蒼生ノ不便ヲ救ハントセリ然レトモ善美ノ新貨出ルニ隨テ其形ヲ隱シ須臾モ其跡ヲ止メス恰モ須彌山頭ニ登テ木乃伊ヲ索ムルモノヲ俟ツカ如ク到處之カ失望ヲ致サ、ルモノナシ蓋シ是レ理ナリ而シテクレシヤム一タヒ之ヲ發見シ千古ノ謬見忽チ一醒シ貨幣流通ノ原理始メテ世ニ瞭ラカナルニ至レリ余ハ是ニ於テ斷シテ須邊查氏所說ノ誤謬ナルヲ知ルナリ(第^六葉ヲ參看セヨ)呼フ貨幣ハ書籍衣服ト其等ヲ同フセサルナリ故ニ衣服書籍ノ如キハ之ヲ購フニ當テ其品位ヲ檢査スト雖モ貨幣ニ至テハ則チ否ラズ之ヲ流通スルノ際未ダ嘗テ其重量性質ノ如何ヲ問フモノアラサルナリ

クレシヤム發見ノ原理ヲ推シテ之ヲ言ヘハ政府ノ貨幣ヲ鑄造スルニ當テ二様ノ注意ヲ爲スヲ要ス第一貨幣ハ可成的價值ノ一位ニ相當スル重量ヲ有セサルヘカラス第二貨幣ニシテ若シ摩滅消耗シ爲メニ其重量ヲ減少スルアラハ直ニ之ヲ交換スル是レナリ但タ夫割引貨幣ニシテ標準貨幣ト大ナル差異ヲ生セス爲メニ地金商等ヲシテ標準貨幣ヲ溶解シ或ハコレヲ輸出スルノ勞力ヲ酬ユルニ足ラサシメハ或ハ之ヲ流通セシムルモ可ナルカ如シ

善良ノ貨幣不良ノ貨幣ヲ排斥スル能ハス不良ノ貨幣却テ善良ノ貨幣ヲ排除スルノ原理ハ唯ニ同一金種ノ貨幣間ニ行ハル、ノミナラス殊異金屬ノ貨幣ト雖モ亦タ必ス同一ノ現象ヲ表ハス是ヲ以テ銀兩貨並ニヒ行ハレ金銀銅貨共ニ通スルノ時ニ當テ夫ノ金貨ノ物質價值ニシテ銀貨相當ノ價值ニ超ヘシメン乎金貨ハ忽チ地ヲ拂ヒ社會唯銀貨ヲ留

滯スルニ至ラン又銀貨ノ物質價值ニシテ銅貨ノ相當價值ニ超ヘシメ
 ン乎銀貨ハ須臾ニシテ其跡ヲ絶ツニ至ラン是レ他ナシ一ニ皆貨幣流
 通ノ原理ニ依ルノミ今一例ヲ舉ケテ之ヲ證センニ安政五年(一千八百
 五十八年)我邦ノ始メテ英國ト條約ヲ結フヤ當時我邦ノ小判ハ其價英
 貨ノ十八シルリング^四ペン^スニ相當シ一分銀ハ一シルリング^四ペン
 スニ相當セリ而シテ我邦ニ在テハ小判一枚ノ價僅ニ一分銀一箇ノ四
 倍ニ過キス而シテ其實價ハ殆ント之ニ十四倍シ金ノ價格銀ニ比シテ
 頗ル賤シ故ニ英人ハ一分銀ヲ以テ小判ヲ購ヒコレヲ本國ニ輸送シ一
 箇ノ小判ニ就テ十三シルリング^五ペン^スノ利益ヲ網セシコトアリト
 是レ實ニクレシヤム發見ノ原理ニ依ルモノニシテ敢テ怪シムニ足ラ
 サルナリ余ハ是ニ於テ更ニ論述ノ步ヲ進メ貨幣ノ鑄造ニ就テ手数料
 ヲ收ムルノ得失ヲ論シ益々貨幣流通ノ原理ヲ極メント欲スルナリ

第七章 貨幣鑄造ノ手数料ヲ賦課スヘキ得失ヲ論ス

鑄造手数料ヲ賦課スヘシトスルノ議、鑄造手数料ヲ非難スル
 ノ議、第二ノ議論其當ヲ得タル所以、鑄造手数料ノ第二種及
 其利害、鑄造手数料ト價銀トノ關係

貨幣ヲ鑄造スルニ際シ其手数料ヲ賦課スヘシト云フ者曰ク貨幣ヲ鑄
 造スルニ當テ許多ノ勞力ヲ要ス故ニ勢ヒ其手数料ヲ賦課シ之ニ報酬
 セシメザルベカラズ夫ノ鑄塊ト鑄瓶トヲ見ヨ鑄塊ヲ以テ鑄瓶ヲ製ス
 ルニ當テ必ラス許多ノ勞力ヲ要ス故ニ鑄瓶ノ價隨テ貴トキニ非ラス
 ヤ今金銀ハ鑄塊ノ如ク貨幣ハ鑄瓶ノ如シ故ニ貨幣ノ鑄造ニ當テ其手
 數料ヲ賦課スル固ヨリ其理由アリ敢テ之ヲ怪シムベカラザルナリ彼
 ノ徒又曰ク貨幣ヲ鑄造スルニ當リ手数料ヲ賦課シ地金ノ一部ヲ引去
 ルニアラズンハ地金商タル者必ラス之ヲ溶解シ之ヲ海外ニ輸出スル

ニ至ラン此ノ如クハ饒ヒ政府ヲシテ熱意貨幣ノ鑄造ニ從事セシムルモ尙ホ且ツ全國ノ需用ヲ充タスニ足ラサシメン而シテ其費ス所ノ勞役ハ實ニ莫大ニシテ之レカ爲メ得ル所ノ益ハ僅々小少ニ過キサラン且貨幣ノ鑄造ニ當テ其手数料ヲ賦課スルハ恰モ輸出ニ當テ之ニ課税スルニ均シ試ミニ造幣局ニ在テ百「チンス」毎ニ一「チンス」ノ手数料ヲ引去ルトセヨ地金商ハ如何カ之ヲ處ス願フニ外國ノ市場ニ在テ我九十九「チンス」ヲ抛キ百「チンス」以上ニ相當スル物品ヲ購求スルヲ得ルニアラスンハ必ラス其輸入ヲ止メ爲メニ貨幣ノ失没ヲ減セン之ヲ要スルニ貨幣ノ鑄造ニ當テ其手数料ヲ賦課セサルアラハ唯リ地金商兩替商等ノミ其利ヲ網シ夫ノ鑄造ニ費盡セル勞力ノ如キハ遂ニ之ヲ償フナキニ了ハラシ是レ豈ニ社會ノ利益ナランヤ故ニ曰ク貨幣ノ鑄造ニ當テ其手数料ヲ課セサルヘカラスト

手数料ノ賦課ヲ可トスル者ノ說正ニ此ノ如シ而シテ其論ヤ周到其言ヤ理ニ合フモノ、如シ然レトモ英米二國ノ如キハ實ニ其手数料ヲ課スルコトナシ蓋シ別ニ取ル所アリテ然ルナリ其主義ヲ操ルモノ、曰ク貨幣ヲ使用スルハ恰モ道路ヲ使用スルカ如シ道路ノ使用既ニ課税ヲ得ス貨幣ノ使用豈ニ之ニ課税スルノ理アラシヤ況ンヤニコルソノ調査ニ據レハ「ソベレン」ノ鑄造實ニ一「フチシ」ノ費用スルニ過キス且開明ノ諸國ニ在テハ國トシテ造幣局ノ設置アラサルハナク鑄造器械ノ準備アラサルハナシ鑄造ノ工人又タ復タ成備セリ故ニ新ニ貨幣ヲ鑄造スルニ當テ費ス所ノ費用更ニ僅少ナルヘキノ理アリ豈ニ特ニ鑄造ノ費用ヲ賦課シ其手数料ヲ收ムルノ理アラシヤ唯方サニ貨幣流通ノ利益ヲ以テ之ヲ償フヘキ耳論スル者間々貨幣ノ域外ニ流出スルヲ憂ヒ手数料ノ收納ヲ以テ之ヲ防禦スルノ術ト爲サントスルカ如

シ是レ大ニ誤レリ抑モ通用ノ貨幣ニシテ物質ノ價值ト名目ノ價值ヲ同フセシムルアラハ之ヲ域外ニ流出スルモ再之ヲ域内ニ歸入セシムルヲ得所謂ル物價ノ高低ニ從テ出入シ能ク其平均ヲ保ツモノナリ又何ソ其流出ヲ憂フルヲセンヤ又論者間ニ貨幣ノ鑄解ヲ蒙リ鑄造費用ノ徒失タルヲ憂ヒ之ヲ云々スト雖モ是レモ亦タ杞憂ノミ心ヲ勞スルニ足ラサルナリ顧フニ貨幣ノ物質價值ニシテ其名目ノ價值ニ及ハサルアラカ論者ノ憂或ハ之レアラ然レトモ其重量ヲシテ其相當ヲ得セシメン手之ヲ鑄解スルノ事吾レ其ナキヲ保スルナリ況ンヤ善良ノ貨幣ニシテ其域外ニ流出シ之ヲ其市場ニ流通スルアラハ彼レ自カラ本國貿易ノ商標ト爲リ其功決シテ新聞紙上ノ廣告ニ減セサルモノアリ夫ノ英貨ノ荷國ニ流通シ米貨ノ東洋諸邦ニ行ハルカ如キ實ニ本國貿易ノ商標トナルニ非ラスヤト

貨幣ノ鑄造ニ際シ其手数料ヲ賦課スルノ得失ニ就キ諸家ノ見解ヲ異ニスル正ニ上文ノ如シ而シテ今余ヲ以テ之ヲ見レハ議論ノ當否自カラ瞭然タルカ如シ手数料ノ賦課ヲ可トスル者ノ第一理由ハ鑄造ノ勞力ヲ徒費スト謂フニ在リ然レトモ是レ然ラス假令ヒ若シ其手数料ヲ收納スルアラサラシムルモ貨幣ノ鑄造ニ費盡スルノ勞力ハ決シテ徒爲ノモノニ非ラサルナリ蓋シ貨幣ノ鑄造ニ費盡スルノ勞力ハ所謂ル社會進歩ノ一大要具ヲ製造スルカ爲メニ費スモノニシテ決シテ無益ノ勞力ニ非ラサレハナリ顧フニ經濟學上ニ在テ所謂ノ徒勞ナルモノハ社會ノ生産力ヲ増殖スルニ効ナキモノヲ云フノミ今之ヲ鑄造シテ社會ノ進歩ヲ促ス、豈稱シテ徒費ト云フヲ得ンヤ況ンヤ政府ノ鑄造ニ從事スル實ニ國費ヲ以テシ租稅賦課ノ結果タリ顧フニ年々歳々人民ノ租稅ヲ輸送シテ之ヲ政府ノ手ニ納ルモノハ政府ヲシテ之ヲ社會

改良ノ用ニ供セシメント欲スルノミ故ニ貨幣ニシテ社會改良ノ一大
 要具タラシメハ政府タルモノ宜シク租稅ノ一部ヲ使用シ以テ之ヲ鑄
 造スヘキナリ豈ニ特ニ手數料ヲ賦課シ以テ其費ヲ償フヲ爲サンヤ果
 シテ此ノ如シ故ニ論者ノ所謂ル勞力ヲ徒費スルノ一語ハ本來無證ノ
 浮語ニシテ到處取ルニ足ラサルナリ况ンヤ手數料ヲ賦課シテ貨幣ノ
 輸出鎔解ヲ防禦セントスルニ至テハ其說共ニ當ラス之ヲ非トスルモ
 ノ言駁シ得テ甚タ的切ナルヲ覺ユ故ニ今之ヲ茲ニ喋々セス之ヲ要
 スルニ貨幣ノ鑄造ニ際シ其手數料ヲ賦課スルハ唯其害アルヲ見テ未
 タ其利アルヲ見ス到處之ヲ行フヘカヲサルモノナルヲ知ル
 貨幣ノ鑄造ニ際シ其手數料ヲ課スル二種アリ佛國經濟學士シベリア
 之ヲ稱シテ「シニオレーヂ」プラツセーヂト言フ「シニオレーヂ」ハ正當ニ
 手數料ヲ課スルモノヲ云ヒ其弊アリト雖モ上文所叙ノモノニ外ナラ

ス「プラツセーヂ」ハ則チ否ラス是レ元ト政府若クハ君主ノ故意惡心ニ
 出テ其弊舉ケテ言フヘカラス英人ルウチングハ貨幣史ニ通ス嘗テ言
 ヘルアリ曰ク英王エトワルト第四世ノ時一割三分以上ノ手數料ヲ課
 シヘンリー七世ノ時一割六分以上ノ手數料ヲ課セリト既ニ甚シト謂
 ツヘシ然レトモ是レ尙ホ輕シ夫ノ佛王シヨンノ賦課ノ如キハ更ニ是
 ヨリ甚シキヲ見ル佛王シヨンボキチヤニ敗レ黑太子ノ擒フ所ト爲
 ルヤ佛國ノ財政實ニ其困擾ヲ極メ殆ント名狀スヘカラス王之憂ヒ
 手數料ノ割合ヲ増加シ遂ニ十歳ノ間七十回ノ多キニ至レリト而シテ
 其最終ノ割合ノ如キハ元價五分ノ三以上ヲ課シ頗ル苛慘ヲ極ム我邦
 モ亦タプラツセーヂヲ賦課シタルノ例少ナカラス特ニ將軍綱吉ノ時
 ニ當テ勘定奉行萩原重秀所行ノ財政ノ如キハ其最ナルモノナリ史ニ
 稱ス重秀專ラニ會計ノ事ニ任シ在職三十年ノ間屢々貨幣ヲ改鑄シ

利ヲ貪リ私ヲ營ミ爲メニ不長ノ貨幣ヲ發行シ之ヲ市場ニ出スアリ是ヲ以テ新古金貨ノ間價格ノ差異ヲ生シ隨テ古貨ヲ貯藏スルモノ自カヲ勘ナカラス都鄙頗ル之ヲ不便トス故ヲ以テ重秀嚴峻ノ律法ヲ布キ以テ古貨ノ通用ヲ廢止シ更ニ商賈ヲシテ新貨ヲ通用スヘキノ誓ヲ奉ラシメ百方術ヲ施シテ遂ニ成ラスト吁々又甚シト謂ツヘシ豈ニ唯重秀ノミシヨシ王ノミ此ノプラツセーヂヲ課セシナランヤ歐洲各土ノ君主殆ント皆ナ之ヲ課セシカ如シ而メ其之ヲ課シ貨幣ノ重量ヲ減シタル所以ノ實ハ各國貨幣ノ名稱ニ就テ之ヲ識ルヲ得ヘシ今其一ニヲ舉ケンニ英國ノ貨幣ヲ稱シテ「ポンド」ト言フハ往時銀一「ポンド」重量ノ名ヲ以テ貨幣ヲ鑄造シタルニ依ル而メ今ヤ銀一「ポンド」ノ量目ハ二十「シルリング」即チ金貨一「ポンド」ニ相當セス實ニ二十六「シルリング」ニ相當セリ蓋シ是レ「プラツセーヂ」ニ因テ六「シルリング」ノ重量ヲ減尠セシ

ニ因ルナリ又蘇格蘭ノ一「ポンド」ハ現ニ元價三十六分ノ一ニ當ルニ過キス其性質モ亦大ニ劣レリ又夫ノ「フロリン」モ此ノ如シ往時「フロリン」ハ金貨ノ稱タリ而シテ今ヤ銀貨ヲ稱ス又イスパニヤノ貨幣「マレベチー」モ往時金貨ノ稱タリ今ヤ變シテ銅貨トナル「プラツセーヂ」ノ害斯ノ如ク夫レ甚シ是ヲ以テ經濟ノ學者每ニ其非ヲ排撃シ之カ弊害ヲ痛論スル者多ホシリカイド曰ク其實際ノ費用ニ超越シ貨幣鑄造ノ手數料ヲ賦課セハ其弊舉ケテ言フヘカラスト蓋シ信ナリ今按スルニ「プラツセーヂ」ヲ課スルノ法アリニツ曰ク貨幣ノ重量ヲ減スルニ依ル曰ク他ノ金屬ヲ混淆シテ其質分ヲ雜フルニ依ル是レナリ今其害ノ大小多寡ヲ較スルニ後者ノ弊害寧ロ前者ニ勝ルモノアルカ如シ蓋シ重量ノ減少ハ人々一曰シテ之ヲ知ルヲ得ルモ質分ノ不長ナルニ至テハ通常ノ人殆ント之ヲ識別スルヲ得サレハナリ吁々其重量ヲ減少スルモノ

ハ自ラ其姦惡ヲ明白ニス其罪質分ヲ不冨ニシ人ヲ欺瞞スルモノニ比スレハ則チ輕シ

貨幣ノ鑄造ニ際シ其手數料ヲ賦課スルノ得失ハ概子此ノ如シ今ヤ又論述ノ步ヲ進メ鑄造手數料ノ物價ニ波及スヘキ所以ノ影響ヲ説カンニ先ツ貨幣ノ數ト物價ノ關係ヲ知ルヲ要ス夫レ需用アリテ供給之ニ應シ供給餘リアリテ需用足ラサレハ其價值ノ隨テ下落スルハ千古不動ノ原理ニシテ實ニ經濟學上ノ大主義タリ而シテ貨幣ハ物品ヲ需用シ物品ハ貨幣ヲ需用ス是ヲ以テ一朝貨幣ノ數増加スルアラハ物品ノ需用隨テ増加スルノ理ニ當リ其價銀モ亦々從テ増加セサルヲ得ス之ニ反シ貨幣ノ流通額ヲ減少スルアラハ物品ノ需用モ從テ減少セン而シテ價銀モ亦從テ下落スヘキナリ之ヲ要スルニ價銀ハ貨幣ノ増減ニ從テ上下スルモノニシテ流通ノ貨幣小額ナレハ價銀下落シ其額過

多ナレハ價銀騰貴ス是レ實ニ天地必然ノ理ニシテ吾人ノ膽ニ銘シテ忘ルヘカラサルモノナリ(此項細論ヲ要ス後 章ヲ參看セヨ)

流通貨幣ノ數ト價銀トノ關係ハ大約斯ノ如シ依テ進テ鑄造手數料ト價銀トノ關係ヲ究メンニリカード既ニ之ニ説キ及ホセリ氏曰ク今一國ニ在テ貿易上要スル所ノ通貨ノ數ヲ假定シ之ヲ一百萬箇トシ實ニ黃金一〇〇グレインヲ以テ一貨ノ重量トセハ其國流通貨幣ノ重量合計一億グレインヲタラン而シテ政府若シ鑄造ノ手數料トシ一貨ノ重量即百グレインニ就キ一グレインヲ收ムルトセハ一億グレインノ中一億萬グレインヲ減シ之ヲ政府ノ手ニ入ルアラシテ今一億グレインニ就キ一ノ一〇〇萬グレインヲ扣除セハ現在通用スル貨幣ノ重量ハ九千九百萬グレインタルニ至ラン顧フニ此ノ時ニ當テ如何ノ影響ヲ價銀ニ及ホスヘキ乎今余ヲ以テ之ヲ觀レハ貨幣ノ購買力ハ毫末モ變動

スルコトナク價銀モ亦タ爲メニ高低スルコトナカラン其故如何トナ
 レハコノ一百万グレインノ減少ハ變化ヲ貨幣ノ重量ニ及ホスコトア
 ルモ其個數ヲ變スルコトナケレハナリ又爰ニ暴君汚吏アリ一貨ノ重
 量即千百グレインニ就キ十グレインヲ收納シ之ヲ鑄造手數料ト爲ス
 コトアラシカ總計一億グレインヨリ一千萬グレインノ減殺ヲ生セン
 顧フニ是ノ時ニ當テモ亦些鎖ノ變動ヲ貨幣ノ購買力ニ及ホサス物品
 ノ價銀モ亦タ爲メニ變動スルコト無シト蓋シ是レ然ラン然レトモ政
 府ニシテ若シ其一千萬グレインノ金塊ヲ鑄造シ新ニ通用ノ貨幣ヲ加
 フルアラシメハ則チ噸ニ貨幣ノ購買力ヲ減シ價銀亦タ騰貴スヘキナ
 リリカルドー又曰ク貨幣購買ノ力ハ其數ヲ増加スルニアラスンハ決
 シテ減スル者ニアラス其重量ノ如キハ之ヲ何等ノ極ニ致スモ貨幣名
 目上ノ價值ヲ損スルナキヲ以テ其影響未タ曾テ價銀ノ上ニ及フコト

アラスト之レモ立^ホタ理ニ於テ然ラサルハナシ
 上來ノ所論ヲ推シテ之ヲ云ヘハ夫ノ紙幣ノ如キハ其金屬ノ全部ヲ收
 メテ之ヲ製造手數料ニ充ツルモノト云フヲ得ヘシ然シテリカルドノ
 所説ニ據レハ紙幣ノ如キモ亦價值ノ通標タルニ妨ケナキモノニシテ
 若シ之ヲ濫行スルコトナカシメハ決シテ其影響ヲ價銀ニ及ホスコ
 トナキヲ識ルヘシ
 唯タ夫レ理ニ於テ貨幣物質ノ不長ト其重量ノ減少ハ之カ影響ヲ價銀
 ニ及ホスコトナシト雖モ若シ人民ニシテ不長ノ貨幣ヲ使用シ肯セス
 有識者ハ政府不長ノ貨幣ヲ増發センヲ先知シ之ヲ擲キ無識者ハ世上
 ノ風評ニ驚キ之ヲ棄テ共ニコノ惡貨ヲ通用センヨリハ寧ロ物ノ買
 易ヲ爲シ信用ノ取引ヲ爲スニ若カスト云フニ至ラハ實ニ於テ貨幣ノ
 需用忽チ減少シ饒ヒ其發行ヲ増加セサルアルモ市場爲メニ貨幣ノ額

ナ多カラシタ^メ價銀從テ騰貴スルニ至ルヘキナリ夫レ物^ノ貿易ノ不便
 ハ人^ノ既ニ厭フ所ナリト雖モ貿易ノ種類ニ因リテ貨幣ヲ用ユルモ
 直ニ物^ノ授受スルモ其便利大ニ異ナラサルモノアルナリ夫ノ農業
 ノ如キハ貨幣ヲ以テ其賃銀ヲ拂フコト少ナシ聞ク英國ハ農業ノ爲メ
 最多ノ賃銀ヲ支出スルノ國ナリト然レトモ其貨幣ヲ以テ之カ賃銀ヲ
 拂フモノ僅^ク其半ハニ過キス蘇格蘭ノ如キモ亦タ半ハ物品ヲ拂フヲ
 常トシ日月曼佛蘭西亞米利加ノ如キモ亦大ニ此風アリト各土ノ情況
 既ニ此ノ如シ故ニ一朝若シ信用ヲ貨幣上ニ措カス物^ノ貿易行ハル
 ヲアルニ至レハ嘗テ其煩擾ヲ厭ヒ物^ノ取引ヲ停止セシ雇主ト雖モ
 亦タ再ヒ物品ヲ以テ之カ賃銀ニ換ヘ雇夫モ亦タ喜テ之ヲ受クルニ至
 リ此人間ヲ退却シテ蒙昧ノ初メニ還ルアラシメン呼^フ又悲シムヘキ
 夫或人之ヲ難シテ曰ク願フニ其作物ヲシテ直ニ之ヲ使用スルヲ得セ

シメハ物々ノ受授大ニ行ハレン然レトモ若シ其作物ニシテ綿絮ノ如
 キモノタラシメ直チニ消費ニ適スルヲ得サラシメハコノ事決シテ行
 ハレサルナリト夫レ然ラン豈夫レ然ランヤ夫ノ雇主ハ信用ノ取引ヲ
 以テ他ノ直ニ使用シ得ヘキ物品ヲ求メ之ヲ其雇人ニ拂フアラン又決
 シテ貨幣ヲ取り其間ニ介スルヲ須キサルナリ故ニ貨幣ノ重量ヲ減シ
 其物質ヲ駁雜ナラシムルニ及ンテ之カ影響ヲ價銀ニ及ホスナキハ其
 人民ノ信用ヲ欠カサルノ時ニ於テ唯リ之ヲ能クスルモノニシテ一タ
 ヒ之ヲ失セハ又遂ニ之ヲ能クセサルナリ是ヲ以テリカルドノ所説ハ
 理論上ニ有テ素ヨリ其當ヲ得ルト雖モ之ヲ實際ニ應用スルニ至テハ
 其事情如何ヲ顧ミサルヲ得サルナリ

第八章

貨幣ノ制度ヲ論ス

貨幣制度ノ五別及其釋義、重量通貨法ノ得失、不限通貨法ノ弊、單獨法貨通用法ノ不便、重複法貨通用法ノ不便、組成法貨通用法ノ利便、組成法貨通用法ハ職人工夫ヲ害セス、補助貨幣ノ過多ナルニ起因スル弊害

硬 貨 論 (七八)

貨幣ノ制度ハ大別シテ五種ト爲スヲ得ルカ如シ第一重量通貨法ハ金銀ノ重量ヲ量リ之ヲ通用スルノ法ヲ謂ヒ第二不限通貨法ハ金銀銅鐵ノ屬ヲ以テ貨錠ヲ製シ之カ重量性質ヲ定メ契約賣買ノ際彼此ヲ分クテ交互ニ之ヲ通用セシムルノ法ヲ謂ヒ其意重量ヲ計ルノ煩勞ヲ省カント欲スルニ在リ第三單獨法貨通用法ハ特殊ノ約束アルニ非ラスンハ契約ヲ爲スノ際唯一種類ノ貨幣ヲ用キシムルノ法ヲ謂ヒ其意第二

法ノ弊ヲ避ケント欲スルニアリ蓋シ第二法ノ如クニシテ數種ノ貨幣ヲ通用セシムルアラハ貨幣價值ノ割合ニ就テ數々其變動ヲ生シ爲メニ許多ノ紛擾ヲ起シ其弊舉ケテ謂フヘカラサレハナリ第四ハ重複法貨通用法ト謂ヒ二類以上ノ法貨ヲ鑄造シ法律ヲ以テ其割合ヲ定メ契約上何レヲ用ユルモ不可ナシトスルノ法ナリ第五ハ組成法貨通用法ト謂ヒ一種ノ貨幣ヲ定メテ法貨ト爲シ多額ノ取引ハ必ラス之ヲ以テ之ヲ爲サシメ又別ニ一種ノ補助貨ヲ製造シ之ヲ以テ小額ノ取引ヲ爲スヲ得セシムルノ法ナリ

上文掲グル所ノ順序ハ唯リ理論上ノミ然ルニアラス貨幣沿革ノ順序モ亦タ實ニ之ニ異ナラサルナリ第一貨幣ノ制度即チ重量通貨法ハ太古ノ時ニ行ハレシモノニシテ各土ノ古史其例少ナカラス今之ヲ舊約全書ニ徵スルニ大古ノ猶太人ハ重量通貨法ヲ用キタルカ如クアリト

ストオトルノ著書ニ據ルニ希臘人モ亦タ此法ヲ用キシカ如シ而シテ羅瑪ノ史書ニ據ルニ奴隸ノ賣買等ニ際シ秤量ヲ提出スルノ式ヲ行フトアリ是レ往時重量通貨法ヲ用キタルノ遺證ニシテ古傳ノ習慣能ク當時ノ狀況ヲ推スニ足ル又上古ノ制ヲ考フルニ其何國タルヲ問ハス當初貨幣ハ重量ト其制ヲ同フシ價值ノ一位ハ某々金屬重量ノ一位タルニ外ナラサルモノ、如シ試ミニ其證例ヲ舉ケンニ英國ノ「バウンド」、スチーリング」ノ如ク「ペンニー」ノ如ク佛國ノ「フランク」、「リール」ノ如キ又「ダアレント」、「マルクリラ」ノ如キ皆ナ重量一位ノ稱ヲ移シ之ニ用ユルノミ

按スルニ重量通貨法ハ今尙ホ諸國ニ行ハレリ夫ノビルマ帝國ノ如キ實ニ金銀鉛ノ三種ヲ通用セシメ一々其重量ヲ秤リ以テ之カ通用ヲ爲セリ顧フニ重量ヲ秤衡シテ之ヲ通用スルノ法タル其不便甚シ然レト

モ夫ノ鑄造貨幣ノ品質不良ナルアリ若クハ摩損スル等ノ事アリテ人民之カ信用ヲ置カサルノ時若クハ諸國ノ貨幣ヲ混用スルノ時ニ際シ貨幣ヲ流通セシムルノ策唯々重量秤衡ノ一術アルノミ且ツ熟ク宇内ノ大勢ヲ觀察スルニ萬國ノ間此法ヲ用ユルモノ頗ル多ホク大ニ吾人想像ノ外ニ出ツルモノアリ蓋シ是レ怪シムニ足ラス夫ノ專ラニ貿易ニ從事スル諸國ニ在テハ外國ノ貨幣常ニ國內ニ流入シ其重量固ヨリ明白ナラス勢ヒ秤量ニ依テ其價值ヲ定メサルヲ得サレハナリ嗚呼貨幣ノ制度ハ唯リ其域内ニ行ハレテ域外ニ行ハレス故ニ外國通商ノ時ニ際シ其重量ヲ秤衡シテ之ヲ流通スルハ勢ヒノ必至ナルモノニシテ又甚タ止ムヲ得サルモノナリ但タ商業世界ニ在テ其名望ヲ博シ之カ信用ヲ得タル大國ノ貨幣ニシテ或ハ他國ニ行ハル、モノアリ夫ノ英國ノソベレイシノ如キ即チ是レナリ然レトモ是レ通例ト爲スニ足ラ

ス夫ノ小國ノ鑄造セル貨幣ニシテ其信ヲ市場ニ得サルモノハ大抵皆ナ金塊銀塊ヲ以テ之ヲ待チ其割印表文ノ如キハ一モ其効チ有セサルナリ

重量通貨法ハ一ニ民間自在ノ流通ニ任シ政府全ク其間ニ關セス通貨制度ノ最モ單一ナルモノナリ重量ノ制ニ次テ起ルモノアリ之ヲ不限通貨法ト云フ不限通貨法トハ政府其重量性質ヲ檢定スルニ止マリ其價值ハ人々相互ノ契約認諾ヲ以テシ自由ニ之ヲ通用セシムルノ法ナリ按スルニ大革命ノ時ニ當テ佛國政府ハ金若クハ銀ノ量目十グラムヲ鑄リ之ヲ圓板ニ製シ之ヲ流通セシメ其價值ヲ定メタリキ是レ所謂ル不限通貨法ヲ行フモノニシテ當時ノ民大ニ之ヲ不便トシ久シカラスシテ之ヲ廢セリ後チ理財學士シベリヤ萬國均一ノ貨幣ヲ鑄造スヘキヲ論シ黃金ノデカグラム(グラム十倍)ヲ以テ價值ノ一位トナシ其倍

數及分數ヲ以テ貨幣ヲ鑄造シ萬國普通ノ貨幣トナサント欲セリ英國ノ理財家バジオツト之ヲ駁シテ曰クシベリヤ所説ノ法ハ決シテ人民ヲ利スルコトナシ其故如何トナレハ通般ノ人民ハ貨幣ノ重量如何ヲ知ルヲ要メスシテ銅貨幾個ハ銀貨幾個ニ當リ銀貨幾個ハ金貨幾個ニ當ルヲ知ラント欲スレハナリ顧フニシペリヤノ言ニ從ヒ「デカグラム」ノ倍數及其分數ヲ以テ貨幣ヲ造リ法律上ノ價值ヲ定メサルアラハ人々毎ニ複雑ノ計算ヲ爲サ、ルヘカラス夫ノ十「グラム」銀幣ノ幾個ハ十「グラム」金幣ノ幾個ニ當ルカヲ識ラント欲スルニ當テ當時ノ相場ニ比照シ細密ノ計算ヲ爲サ、ルヘカラスカ如キ比々皆ナ是レナラム果シテ此ノ如クンハ地金商兩替商ノミ獨リ其利ヲ網シ通般ノ人民ニ至テハ大ニ其不便損失ヲ蒙ラント蓋シ信ナリ

不限通貨法ノ不便夫レ斯ノ如シ是ヲ以テ開明諸國ニ在テ往々コノ法

ヲ廢スト雖モ夫ノ半開諸國ニシテ造幣ノ局所ヲ設ケサルモノニ至テハ他國ノ貨幣ヲ流用スルノ時ニ際シ勢ヒ此法ニヨラサルヘカラス即チ亞弗利加西岸諸蕃ノ如キ南米諸州ノ如キ波留斯亞等ノ如キ皆ナ其弊ヲ蒙レリ

不限通貨法ノ不便遂ニ救フヘカラス是ヲ以テ文明ノ漸ク進ムニ及ンテ政府一種ノ貨幣ヲ鑄造シ之ニ付スルニ法律上ノ價值ヲ以テシ特殊ノ約束アルニアラスンハ貸借賣買ノ際專ラニ其貨幣ヲ用キシムルニ至レリ今之ヲ法貨(リーガルテンダア)ト稱ス法貨ノ制ニ二種アリ曰ク單獨法貨通用法曰ク重複法貨通用法是レナリ單獨法貨通用法ハ一種類ノ貨幣ヲ定置シテ之ヲ通貨トナスノ制ヲ言ヒ夫ノ希臘ノ古代ニ在テスパルタノ單獨ニ鐵錢ヲ通用シ英國ニ在テエグバルト王ノ時ヨリエドワルト第三世ノ時ニ至ルマテ單獨ニ銀貨ヲ流通シ百年以前ニ在

テ魯細亞瑞典ノ銅貨ヲ用キシカ如キ皆ナ其例ナリ抑モ單獨法貨通用ノ法ヲ行ハ、勘定單一ニシテ過誤少ナク隨テ契約上多少ノ紛擾ヲ減スヘシト雖トモ亦タ其不便ナキヲ得ス若シ其所定ノ貨幣ニシテ高額ニ過クルコトアラシカ小取引ノ際許多ノ不便アリ又之ニシテ低額ニ過クルコトアラシカ大取引ノ際許多ノ不便アリ是ヲ以テ政府若シ一種ノ貨幣ノミヲ定置シ之ヲ法貨トナスアラハ人民其不便ニ苦シミ遂ニ外國ノ貨幣ヲ流通スルコトアルニ至ラン聞ク在昔アングロサクソノ時代ニ當テ英國唯銀貨ソミヲ通用セシヲ以テ當時ノ英民每ニ之ヲ不便トシ頻リニ白耳義ノ黄金ヲ輸入シ以テ之ヲ使用シ爾後銅貨ノ欠乏スルニ及ンテ私ニ之ヲ鑄造シ以テ之ヲ使用セリト蓋シ又弊ナリト謂ツヘシ

單獨法貨通用ノ不便夫レ此ノ如シ是ヲ以テ人文ノ漸ク進ムニ及ンテ

二類以上ノ貨幣ヲ鑄造シ法律ヲ以テ其割合ヲ定メ契約賣買ノ際彼此ヲ互用セシムルモノアリ之ヲ重複法貨通用法ト謂フ始メ英國ニ在テ單獨法貨ノ制ヲ布キ唯リ銀貨ヲ以テ依法ノ貨幣ナリトセシト雖モ其不便少ナカラス人々之ヲ議スルニ及ンテ金銀ノ兩貨ヲ鑄造シ之カ割合ヲ定メ以テ之ヲ流用セシムルニ至レリ是ニ於テ重複法貨ノ制起ル後千十八世紀ノ初メニ至リ銀貨ノ物質頗ル不長ニシテ大ニ世信ヲ損シ爲メニ金銀貨幣ノ割合ヲ紊亂シ貿易上ノ不便一ニシテ足ラス當時ノ民大ニ其不便ヲ訴フコ、ニ於テ英國政府ハ造幣局長アイザック、ニユートンニ命シ改良ノ法案ヲ出サシムニウートン命ヲ奉シテ之ヲ調査シ金貨一「ギニー」ハ銀貨二十一「シルリング」ニ相當セシムヘキヲ建議シ英政府ハ之ヲ納レ爾來金一「ギニー」ヲ以テ銀二十一「シルリング」ニ交換スヘシト令セリ然ルニ此割合タル元ト眞成ノモノニアラスシテ實

硬 貨 論

ニ一分五厘ノ超過アリ故ニ爾後銀貨ハ外國ニ流出シテ其跡ヲ英國ニ止メス爲メニ當時ノ政家ヲシテ一驚ヲ喝セシメタリ然レトモ是レ怪ムニ足ラス寔ニ天地ノ實理ナルノミ而シテ重複法貨法ノ弊ヲ蒙リ其害ニ陷ルモノ唯リ英國ノミナラス米國ニ佛蘭西ニ殆ント皆ナ然ラサルハナシ故ニ財政ノ事ニ任スルモノハ勢ヒ別ニ至便ノ法ヲ求メ之ヲ施行セサルヲ得サルナリ

之ヲ要スルニ重量通貨法ハ交換アル毎ニ重量ヲ秤衡セサルヘカラスルノ不便アリ不限通貨法ハ交換アル毎ニ貨幣價值ノ割合ヲ定メサルヘカラスルノ不便アリ單獨法貨通用法ハ特撰セル貨幣ノ物質ニ依テ大小取引ノ際一方ノ不便ナキヲ得ス又重複法貨法ハ貨幣ノ物質價值ノ變更ニ依テ其割合ヲ變動シ法律上ノ價值過低ノ貨幣流失シテ其跡ヲ絶ツノ不便アリ四者共ニ之ヲ行フヘカラス是レ第五幣制ノ因テ起

硬 貨 論

ル所以ニシテ組成法貨法ノ遂ニ止ムヲ得サル以所ナリ

組成法貨通用法トハ一種ノ貨幣ヲ定メテ法貨トナシ契約賣買ノ際多額ノ取引ハ之ヲ以テ之ヲ行ハシメ又別ニ三種ノ貨幣ヲ製シ補助ノ貨幣ト爲シ契約賣買ノ際少額ノ取引ハ之ヲ以テ之ヲ行ハシムル者ヲ云ヒ所謂ル本位補助ノ兩貨ヲ組成シテ之ヲ流通セシムルノ制ナリ今此ノ制ニ依レハ補助貨ノ價值ハ本位貨幣ノ價值ニ從テ變更シ補助貨ノ重量ハ法律上ノ價值ニ比シ幾分ノ減少アリ是ヲ以テ夫ノ重複法貨通用ノ時ノ如ク域外ニ流出スルノ憂ナク又之ヲ鎔解シ去ルノ虞ナシ而シテ此制實ニ重複法貨通用ノ法ヨリ變生シ來レリ英國ニ在テリバフール係始メテ組成法貨ノ便利ヲ知リ之ヲ國王ニ建言セリ後チ一千八百十六年ニ及ンテ英國政府之ヲ納レ遂ニ其制度トナスニ至レリ現時歐洲各國ニ在テ此法ヲ用ユルモノ少ナカラス佛蘭西伊太利白耳義等

ノ如キ今日尙ホ複本位ノ制ヲ用ウルモノト雖トモ尙ホ且ツ銀貨ノ重量ヲ減損シテ之ヲ鑄造スルアリ是レ實際ニ在テ組成法貨ノ制ヲ用ユルモノニシテ其利得テ湮ホスヘカラス聞ク日耳曼帝國ノ幣制モ亦タ組成法貨ノ制ニ則ルモノニ外ナラスト蓋シ又勢ナリ

重複法貨通用ノ法ヲ變シテ之ヲ組成法貨ノ通用トナスニ道アリ夫ノ鑄造手數料ヲ賦シテ之ヲ補助貨ニ課シ以テ本位貨幣及補助貨幣ノ區別ヲ立ツルコレナリ既ニ説ク如ク英國ノ如キハ本位ノ貨幣ニ向テ鑄造ノ手數料ヲ課スルコトナシ然レトモ補助ノ貨幣ニ至テハ之ヲ賦課シテ少シモ假スコトナシ是ヲ以テ英國補助ノ銀貨ハ其實價五シルリングナルモ法律上之ヲ定メテ五シルリング六ペンスト爲シ其銅貨ハ實價一「フアシンク」ナルモ法律上之ヲ定メテ一「ペンニー」トナスアリ是レ他故アルニアラス實ニ組成法貨ノ制度ヲ保持シ以テ通貨ノ便宜ヲ

得セシメント欲スルモノナルノミ然ルニ論者或ハ組成法貨ノ制度ヲ難シ之ヲ排スル者アリ曰ク組成法貨通用ノ法ハ大ニ職人工夫ノ類ヲ損害ス其故如何トナレハ夫ノ職人工夫ノ一週間内ニ受領スヘキ二十ニ箇ノ銀貨シルリングハ其實一「ソヘレン」ニ價セス女工一日ノ給與十「ペンス」ハ實際三「ペンス」ニ減スレハナリ况ンヤ且ツ夫ノ富豪ノ如キハ本位ノ貨幣ヲ以テ自家ノ收入ヲナシ補助ノ貨幣ヲ以テ之カ支出ヲ爲ス是レ多ク收メテ寡ク之ヲ出シ不義ノ利潤ヲ其間ニ網羅シ爲メニ富人ニ私スルノ弊アリト英國々會議員ハツバラト之ヲ駁シテ曰ク職人工夫ノ屢々銀銅ノ貨幣ヲ受領シ金貨ヲ受領スルコト稀少ナルハ誠ニ論者ノ言ノ如シ然レトモ論者ニシテ若シ之カ爲メ職人工夫ノ類ヲ損害スト謂フアラハ勢ヒ銀幣銅貨ハ金貨ニ比シ必用ノ物品ヲ購得スルノ能用少ナキ所以ヲ證明セサルヘカラス然レトモ是レ難カラン顧フ

論 貨 硬

ニ銀貨ト云ヒ銅貨ト云ヒ其物質ノ價值少シク減却スルアルモ常ニ法律上ノ價值ヲ以テ金貨ト併ヒ行ハレ未ダ嘗テ損失ヲ職人工夫ノ類ニ及ホサルナリ今其實ヲ舉ケンニ諸物價ハ皆ナ金貨ヲ標準トシ之ヲ定メタルモノニシテ銀貨ノ實價ハ一「パウン」トノ二十二分ニ相當シ銅貨ノ實價ハ其四百八十分ノ一ニ當ル果シテ然ラハ理ニ於テ一「ハウ」ト相當ノ物品ヲ購フニ當テ銀貨二十二箇銅貨四百八十箇ヲ與ヘサルヲ得サルカ如シ然ルニ今ヤ二十「シル」リングヲ以テ一「ハウ」ト相當ノ物品ヲ購求スルヲ得ルアリ是ヲ以テ夫ノ職人工夫ノ類ニシテ其損失ヲ蒙ルノ理由アラサルナリト駁シ得テ殊ニ痛快ナルヲ覺フルナリ然リ而シテ補助貨幣ノ額ニシテ若シ市場ノ需用ニ超過スルアラハ其貧民ノ生意ニ於ケル果シテ如何ノ影響ヲ及ホスヘキ乎是又貨幣上一問ニシテ少シク之ヲ論スヘキカ如シ蓋シ社會ノ人民ニシテ經濟上

論 貨 硬

同一ノ位地ヲ保チ之カ強弱ノ差アラサシメハ補助貨幣ノ數額ヲ増加スルアルモ其困難ノ度ハ常ニ平均シテ大小ノ別アルヘカラス假令ヘハ今我邦造幣局ニ在テ夥多ノ銅貨ヲ發行シ商人ハ其多額ナルニ苦シミ之ヲ以テ之ヲ金銀ニ引替ヘント欲スルモ許多ノ割引ヲ爲サレハ兩替商タルモノ之ヲ交換セサルト云フカ如キ况狀ナランニ商人ハ此時ニ當テ販賣品ノ價值ヲ騰貴シ以テ其損失ヲ償ハサルヘカラス然レトモ眼ヲ轉シテ之ヲ見レハ職人工夫ヲ使役スルノ資本ハ金銀或ハ銀行ノ手形等ヲ以テ其收入ヲ納レ爲メニ幾分ノ利益アルヲ以テ夫ノ職人工夫ノ賃銀ヲ増加シ其レヲシテ物貨騰貴ノ困苦ヲ免ルヲ得セシメン唯夫レ此ノ如シ故ニ補助貨幣ノ夥多ナルカ爲メ會々商賣上ノ活潑力ヲ減殺シ社會多少ノ損失ヲ蒙ムルアルモ職人工夫ノ類ノミ獨リ之ヲ蒙ムルノ理ナシ然レモ社會人民經濟上ノ位置ハ必ラスシモ同一



ナラス自カラ之レカ強弱ヲ存スルモノナレハ若シ前述ノ事アルニ際
 セハ商估ハ必ラス其販賣スル物品ノ價銀ヲ騰貴セシメ又其機ニ乘シ
 大ニ世人ヲ欺瞞シ以テ私利ヲ網セン而シテ夫ノ資本家モ亦タ其利潤
 アルカ爲メ容易ニ職人工夫ノ賃銀ヲ増加セサルヘケレハ貧民ノ徒特
 リ其困難ヲ蒙リ爲メニ人衆ノ大半ヲ害セン蓋シ又弊ナリ
 又補助貨幣ノ夥多ナルニ因テ小賣ノ價銀ニ波及スヘキ影響アリ今余
 ヲ以テ之ヲ見レハ二種アルカ如シ第一小賣商人ハ日々ニ補助ノ貨幣
 ヲ領收シテ其物品ヲ販賣シ本位貨幣ヲ支出シ卸賣ノ代價ヲ拂フヲ常
 トス是ヲ以テ補助ノ貨幣夥多ナルカ爲メ生スルトコロノ割引ハ勢ヒ
 之ヲ小賣ノ價銀ニ附帶セシメサルヲ得ス故ニ兩替ノ賃銀愈々騰貴シ
 テ小賣ノ價銀愈々上登スヘキナリ第二職人工夫ノ類ハ價銀ノ變動ニ
 習熟セサルカ爲メ商人等此虛ニ乘シ之カ姦惡ヲ恣ニシ遂ニ其不信用

ヲ來タシ商業全體ノ上ニ就テ大ナル澁滯ヲ起シ以テ貿易ノ衰運ヲ招
 クニ至ルヘキナリ豈ニ又恐レサルヘケンヤ

67

(五〇一)

論 貨 硬

第九章 單複本位ノ得失ヲ論ス上

單本位論者ノ所説 英米ノ實例 金銀本位ノ得失 貨幣價銀ノ解 金銀價値變動ノ始末 單複本位ノ現況

論說ノ歩武漸ク進ンテゼボンズノ所謂ル本位戰爭ノ大問題ヲ論スルノ時ニ及ヘリ夫レ單複本位ノ問題ハ經濟學中至重ノモノニシテ其切要ナル固ヨリ言テ俟タスト雖正學者ノ論スル所往々偏見執拗ヲ免レズ爲メニ後進ノ徒ヲシテ常ニ五里雲霧ノ中ニ徘徊セシムルノ歎アラシム蓋シ又慨スヘキナリ是ヲ以テ余ハ今之ヲ論スルニ當テ務メテ公平ヲ旨トシ先ツ單本位論者ノ執ル所ヲ揭ケ而シテ後チ複本位論者ノ所説ニ及ホサントス

英國理財博士ニコルソン曰ク一國內ニ在テ金銀兩本位ノ貨幣ヲ併行セシメント欲スルハ到底實行スヘカラサル事トス願フニ二種ノ貨幣

硬貨論

ニシテ一國ノ中ニ併行スルアラハ彼此ノ割合變更常ナクシテ甲乙二者ノ中一種ノ貨幣ハ法律上ノ價值或ハ物質ノ價值ニ添ハス稍之レヨリ下ルモノアラン果シテ是レアラン乎商估ハ必ラス此種ノ貨幣ヲ域外ニ輸出シ夫ノ物質ノ價值少クシテ法律上ノ價值多キモノヲ止メ之ヲ内國ニ流用スルニ至リ所謂ル複本位ハ變シテ金若クハ銀ノ單本位ト爲ルニ至ラン例令ヘハ英領印度ニルウピキ及ヒソベレンノ二幣アリトシ印度ニ在テハ十ルウピキヲ以テ一ソベレン相當ノ價アル貨物ヲ購得シ英國ニ在テハ一ソベレンヲ以テ十一ルウピキ相當ノ價アル貨物ヲ購得スルヲ得バソヘレンハ英國ニ流入シ唯リルウピキヲ止メテ之ヲ印度ニ殘スニ至ラン若シ之ニ反シ印度ニ在テハ十一ルウピキヲ以テ一ソベレン相當ノ貨物ヲ購得シ英國ニ在テ一ソベレンヲ以テ十ルウピキ相當ノ貨物ヲ購得スルヲ得バソベレンハ印度ニ止リ

硬貨論

テ「ルウピキ」ハ英國ニ流入スルニ至ラント
マクロツク又其貿易論中ニ就キ之カ説ヲ爲シテ曰ク一千二百五十七年ヨリ一千六百六十四年ニ至ルマテ英國ハ複本位ノ制ヲ行ヒ法律ヲ以テ金貨銀貨ノ割合ヲ一定シ之ヲ併行セシメタリ降テ一千六百六十四年ヨリ一千七百十七年ニ至ルマテ專ラ銀貨ヲ以テ法貨トナシ特ニ法律ヲ以テ金貨ノ價值ヲ定メス一千七百十七年ニ至リ再ヒ古時ノ制ニ復シ法律ヲ以テ金貨「ギニー」ハ銀貨二十一「シルリング」ニ相當スヘシト令セリ一千八百十六年ニ至テ又貨幣ノ制度ヲ改良シ金貨ヲ以テ法貨トナシ四十「シルリング」以上ノ諸拂ハ總テ金貨ヲ以テ之ヲ授受セシメ銀「ポンド」ヲ以テ六十二「シルリング」ヲ鑄造スルノ制ヲ改メ之ヲ六十六「シルリング」ニ鑄造シ其差四「シルリング」ハ鑄造ノ手数料トシテ之ヲ政府ニ收メ且銀貨ノ數ヲシテ過多ニ失セサラシメンカ爲メ其鑄

硬 貨 論

造ノ業ヲ擧ケテ之ヲ政府ノ專掌ニ歸セリト
 リカルドオ亦曰ク英國政府ハ其複本位ノ制度ヲ維持セシテ以テ一千
 七百十七年ヨリ一千七百九十七年ニ至ルマテ英國ノ内唯法律上ノ價
 值物質ノ價值ニ超過スル貨幣ノミヲ通用シ爾餘ノ貨幣ハ其跡ヲ止メ
 サリシト而シテ史ニ據ルニ一千七百九十七年以前ニ在テハ金ノ價值
 銀ニ比シテ頗ル廉ナルヲ以テ大英銀行等ハ市場ノ金塊ヲ買テ之ヲ造
 幣局ニ送り之ヲ鑄造セシメ以テ負債返辨等ニ用ヒ爲メニ金貨ヲシテ
 市場ニ溢レシメ債主ノ損害甚タ大ナリシトアリ米國經濟學士サムナ
 ルモ亦米國貨幣史中ニ就テ米國ノ實歴セシ事實ヲ擧ケテ曰ク一千七
 百九十四年及ヒ九十五年ノ間ニ際シ米國ノ始メテ貨幣ヲ鑄造スルヤ
 金銀ノ割合ヲ定メテ一ト十五ト爲セリ當時金銀ノ相場ハ各國小異ア
 リシト雖モ英國ハ實ニ一ト十五ニノ割合ナリキ斯ノ如クニシテ米國

硬 貨 論

金貨ハ法律上ノ價值物質上ノ價值ニ超過セルヲ以テ負債者皆ナ銀貨
 ナ以テ其借銀ヲ返還シ銀貨遂ニ本位ノ地ヲ占メ金貨ノ價值隨テ騰貴
 スルニ至レリ是ニ於テ市場ニ流通セル金貨ハ盡ク擧ケテ之ヲ域外ニ
 輸出シ或ハ之ヲ溶解シ一千八百三十四年ニ至テ國內僅カニ一百万弗
 ノ金貨ヲ存シ而モ悉ク其全額ヲ流通スル事ナカリキ是ノ時ニ當テ北
 カロライナ州金坑ノ發見アリ政府爲メニ金銀ノ割合ヲ改定シ一ト十
 六ニ爲セリ而シテコノ改定アリシカ爲メ貴金貨幣ノ法律價值ハ其物
 質價值ニ及ハサリシヲ以テ負債者ハ金貨ヲ債主ニ拂テ銀貨ヲ拂ハス
 故ニ銀貨ハ次第ニ市場ノ外ニ除斥セラレ偶々之レアルモ摩損セル西
 班牙銀貨ト英國ノシルリングクノミナリシト
 一千八百五十三年ニ至テ米洲聯邦ハ複本位ノ制ヲ廢シ單ニ金貨ヲ以
 テ本位トシ別ニ銀貨ヲ鑄造シテ補助ノ貨幣トナシ五弗以下ノ取引ノ

ミ之ヲ受授セシメリ而シテ其鑄造ハ政府專ラニ之ニ任シ人民ノ依頼ニ應シテ之カ鑄造ヲ爲サ、リキ

余ハ既ニニコルソンノ説ヲ擧ケ單本位論者ノ所説ヲ示シマクログサムナル等ノ指示セル英米兩國ノ實例ヲ示シ以テニコルソン所説ノ空理ナラサル所以ヲ證明セリ蓋シニコルソンノ所説ハ概子英國經濟學士ノ贊同スル所ニシテ復本位論者ノ殆シト間然スル能ハサルモノナリ然リ而シテ黃白何レノ貨幣ヲ以テ本位トナスヘキ乎ノ一問ニ至テハ英國經濟學士中其異論ナキヲ得ス夫ノ哲學ニ名アルシヨンドロツク等ノ如キハ實ニ銀ヲ以テ本位トナサンコトヲ主張セリ然レトモ近日ニ及ンテ之ニ反スルモノ頗ル多ク遂ニ一千八百十六年ニ至テ英國宰相リパプーール候斷然金貨本位ノ説ヲ用ヒ銀貨ヲシテ僅カニ補助貨幣ノ地位ヲ有タシムルニ至レリ金銀何レカ果シテ能ク本位タルニ適

スルヤ實ニ疑問ニ屬ス而シテ之ヲ究メント欲セハ勢ヒ先ツ之ヲ古來ノ經驗ニ徵シ二者ノ中何物ノ價值最モ變動シ易キカヲ知ラサルヘカラス蓋シ價值變動ノ難易ハ本位タルニ適スルト適セサルノ判ル、所ニシテ其變動ノ頻、ナルモノハ能ク本位タルニ適セサレハナリ

然レトモ之ヲ講明スルノ前ニ當リテ貨幣ノ價值ト物品ノ價銀ニ就キ其關係ヲ一言セサルヲ得ス夫レ貨幣ノ價值ハ購買力ヲ云フナリ交換上ノ勢力ヲ云フナリ物品ノ價銀ハ貨幣ヲ購買スルノ力ヲ云フナリ物品ノ貨幣ニ交換シ得ヘキ價值ヲ云フナリ故ニ貨幣ハ價值ヲ有スルモ價銀ヲ有セサルカ如シ然レトモ是レ然ラス若シ二種異質ノ物体ヲ以テ之ヲ鑄造スルヲセハ貨幣モ亦タ自カラ其價銀ヲ有スヘシ即チ金貨ノ價銀ナルモノハ銀ヲ以テ計算シタル價值ニシテ銀ノ價銀ナルモノハ金ヲ以テ計算シタル銀ノ價銀ヲ云フナリ然リ而シテ金銀ノ價值ナ

ルモノハ其物品ヲ購買シ得ヘキ力ヲ云フモノニシテ唯金銀トシテハ
 物品中ニ含蓄セラル、モノナリ
 今考察ノ歩ヲ進メ金銀價值ノ相關スル所以ノ有様ヲ講スルニ右來頗
 ル變遷アリ亞刺伯大古ノ歴史ニ徴スルニ金ノ價值銀ニ及ハサリシコ
 トアリ又ポトシイ大銀山發見ノ後三百年今ヲ去ル二十有餘年ノ前ニ
 當テ我邦金銀ノ差ハ實ニ一ト四ノ割合ヲ以テ行ハレ却テ歐洲ニ在テ
 其價值相均シカリキ願フニ是レ何ノ由縁乎之ヲ解スル甚タ難シタン
 カン曰ク波王デラヤスノ時ニ當テ金ハ銀ニ比シテ十三倍ノ價值ヲ有
 シ降テプレトオ(希臘ノ哲家)ノ時ニ及ンテ金ノ價下落シテ銀ノ十二倍
 トナリ又降テミナンダア(希臘ノ詩人)ノ時ニ至テ其十倍トナレリ後チ
 該撒(羅馬)ノ時ニ及ンテ其價再タヒ減シテ九倍トナレリト又英國ニ在
 テハ一千二百六十二年金ノ價值銀ノ價值ニ倍スルヨト九ト五分ノ三

ニ過キス降テ一千三百四十五年ノ頃ニ至テ稍々騰貴シテ十三、七五倍
 トナレリ願フニ金銀ノ價值ノ間ニ就テ斯ノ如キ急激ノ變動ヲ起スモ
 ノハ自ラ理由ノアルアリ余將サニ後段ニ於テ仔細ニ之ヲ説明スル所
 アラントス
 一千四百五十二年亞米利加大州ヲ發見シ一千五百二十一年西班牙人
 墨斯哥ヲ征服シ一千五百四十五年ポトシイ大銀山ヲ發見スアダムス
 ミツス氏曰ポトシイノ礦山ヲ發見セシヨリ以來貨幣ノ購買力大ニ減
 少シ銀ノ下落ハ金ニ超ユルヲ數等ナリトシベリヤモ亦タ曰ク亞米利
 加大州發見以來銀ノ價值減少シテ既往ノ六分一トナレリトケヤ子ス
 氏モ亦之カ言ヲ爲セリ此ヨリ以降殆ント三百年ノ間多少金銀ノ價
 値ヲ變更セシト雖モ大概十五ト一或ハ十六ト一ノ間ニ往來セリ然ル
 ニ一千八百四十八年ト五十一年ノ間ニ在テカリフォルニア及ヒチオ

論 貨 硬

スナチヤノ兩金山ヲ發見スルニ及ンテ金銀ノ間大ニ其價值ヲ變動
 セントスルニ至レリ此兩金山發見ノ以前ニ當テ黄金ノ世界ニ現存ス
 ルモノ白銀ノ半額ニ過キス金ハ銀ニ比シテ少額ナリシト雖モ夫ノ兩
 金山ノ發見ニ及ンテ俄ニ其割合ヲ變更シ年ヲ經ル僅ニ二十ナルニ金
 ノ現存額ハ銀ニ一倍スルニ至レリ當時各土ノ政府ハ務メテ黄金ヲ保
 持スルヲ以テ其財政ノ主義ト爲セリト雖モ夫ノ兩金山ノ發見ヲ聞ク
 ニ及ンテ大ニ狼狽シテ自ラ措カス荷蘭ハ其金貨ヲ鎔解シボリチユカ
 ル白耳義等ハ金貨ヲ本位トシ露細亞ハ銀ノ輸出ヲ禁シ佛蘭西ハ委員
 ナシテ其源因ヲ調査セシム是ニ於テ佛國經濟學士シベリヤ氏ハ金貨
 下落考ト題セル一篇ノ論文ヲ著述シ其商買上ニ大變動ヲ及ホスヘキ
 所以ヲ擧ケ大ニ人心ヲ刺撃シ人々恟々トシテ殆ント停止スル所ヲ知
 ラサリキ按スルニシベリヤノ金貨下落考ヲ著ハセシハ實ニ一千八百

論 貨 硬

五十七年ニシテカリフォルニア金山探掘以來九ヶ年ヲ過キラオスト
 レリヤ金山探掘以來僅ニ六ヶ年ヲ經過セルニ過キス其年所ヲ經ル僅
 小ナリト雖モ其探掘ノ金額ニ至テハ一千四百九十二年ヨリ一千八百
 四十八年ニ至ルマテ凡三百五十六年間ニ鑿出セル黄金ノ全額ニ下ラ
 ス數年ノ間頓ニ世界ノ金額ヲ増加シ爲メニ之ヲ二倍スルノ狀アリ然
 リト雖モ金銀ノ割合ハ之カ爲メニ大變動ヲ生スルニ至ラス貨幣全体
 ノ購買力モ亦タ甚タシキ變動ヲ生セサリキ故ニシヘリヤ氏ハ之カ解
 釋ヲ下シテ曰ク新探ノ黄金ハ佛蘭西之ヲ吸入シ佛蘭西ノ從來貯蓄セ
 ル銀貨ハ東洋諸國ニ流出セリ其故如何トナルニ頃日支那及日本ノ諸
 港始メテ開ケ且新金貨多ク勞働社會ノ手ニ落チ勞働社會ハ漸ク東洋
 ノ奢侈貨物ヲ購得スルカ故ニ東洋ノ貿易ハ之ヲ既往ニ比スレハ大ニ
 隆盛ノ狀ヲ呈出セルニ至リタレハナリ唯夫レ斯ノ如シ故ニ佛蘭西ノ

硬貨論

銀貨ハ類リニ東洋ニ趁キ金貨ハ之ニ代ハリテ佛國貨幣ノ欲乏ヲ補ヘ
 ルナリト又按スルニ一千八百五十年ヨリ同五十七年ニ至ルマテ佛國
 政府ノ鑄造セル金貨ノ總額ハ二十七億四千九百六十九萬三千四百九
 十フランクノ多キヲ致セリ是レシハリヤ氏ノ所謂ル佛蘭西ニ在テ一
 時金貨ノ下落ヲ支ヘタルノ實蹟ナリ然レトモコノ事永久ニ行ハルヘ
 カラス若シ金貨ニシテ既ニ銀貨ノ欠乏ヲ充タシタルノ後ニ在テ兩金
 山尙ホ別ニ黃金ヲ出スアラハ金貨ノ下落隨テ生セサルヲ得サルヤ明
 ナリ顧フニシハリヤ立論ノ要旨亦茲ニ在ラン乎
 一千八百六十年ノ頃ニ當テ英國ノ經濟學士ケヤ子ス一篇ノ論文ヲ草
 シシベリヤノ所説ヲ批評シ其大要ニ就テ之レカ同意ヲ表セリ然レト
 モケヤ子スノ曰クシハリヤノ佛國ニ就テ言フ所ハ獨リ其一班ヲ言フ
 ノミ他國モ亦タ之レト地位ヲ同フスルモノナシトセス夫ノ印度ノ如

及

硬

貨

論

キハ銀貨ヲ用ユルノ國ナリ支那ノ如キモ亦タ銀貨ヲ用ユルノ國ナリ
 然ラハ則チ此二國ノ蒙ルヘキ影響ハ自カラ佛蘭西ト同一ナラサルヲ
 得ス而シテ佛蘭西金貨ヲ要セサルノ後ト雖モ以上ノ影響ハ未タ止マ
 ラサルヘキナリト
 カリフォルニア及ヒオーストレリヤ金山發見ノ影響ハ方サニ此ノ如
 シ然ルニ其後夫ノ子バタ銀山ノ發見ニ依テ復ヒ一大變動ヲ金銀價值
 ノ間ニ起スニ至レリ一千八百五十二年ヨリ同六十年ニ至ルノ間黃金
 產出ノ額ハ每歲一億一千九百萬弗乃至一億八千二百五十萬弗ノ間ニ
 上下シ白銀ノ產出ハ殆ント四千五十萬弗ナリシカ一千八百六十四年
 ヨリ同七十年ニ至テ銀ノ產出ハ増シテ五十萬弗以上ニ上リ黃金ノ產
 出ハ減シテ一億二千一百萬弗乃至一億千三百萬弗ニ下レリ一千八百
 七十一年ヨリ同七十五年ニ至テ銀ノ產出更ニ大ニ増加シ七千五百十

論 貨 硬

萬弗ノ多キニ至リ同七十五年ニ及ンテ黄金ノ產出高ハ又減シテ八千
 百五十萬弗トナレリ蓋シ子バタ銀鑛發見以來銀鑛ヲ采收スルノ方法
 ナ發明シ容易ニ白銀ノ採取ヲ得シ爲メニ其產出額ヲ増加シタルヲ以
 テ銀貨本位ノ諸國ハ大ニ驚愕シ獨逸ノ如キハ首トシテ銀貨ヲ鑄解シ
 金貨單本位ノ制度ヲ立ツルニ至リ銀貨益々諸國ノ市場ニ溢ルニ至
 レリ而シテ佛蘭西白耳義伊太利瑞西等ノ諸國連合シテ組織セル羅匈
 聯合ノ如キモ亦銀貨ノ鑄造ヲ中止スルニ至レリ
 今世界全般ノ情況ヲ觀察スルニ澳地利及露細亞印度支那交趾東印度
 諸島中央亞米利加墨是哥等ハ今尙ホ銀貨單本位ヲ執リ我邦大貌列顛
 愛蘭土太利亞植民地ニウジラント獨逸帝國スカンデナビヤ王國
 葡萄牙土耳其埃及北米合衆國智利ブラシル等ハ金貨單本位ヲ取り佛
 蘭西伊太利白耳義瑞西西班牙希臘羅干馬尼亞白露イグエトルグレナ

論 貨 硬

等ハ復本位ノ制ヲ取レリ
 是凡主目現時ノ狀況ニ依リ之ヲ判スルニ金貨單本位ノ勢力ハ最モ旺
 盛ヲ極ムルカ如シ夫ノ羅匈聯合ノ如キ既ニ復本位ノ實行ヲ止メ金貨
 本位ヲ採用シ再ヒ之ヲ復舊スルノ傾向ナシ
 獨逸ノ如キ亦此例
 ニ慣ハシテスルカ如シ唯露細亞ノミ今尙ホ銀貨本位ヲ用ユト雖モ其
 勢力頗ル微弱ニシテ甚々強カラス故ニ歐洲大陸ハ悉皆金貨本位ノ制
 度ヲ奉スルモナリト云フモ敢テ証言ニアラサルカ如シ願フニ貨幣
 本位ノ點ヨリシテ之ヲ論スレハ世界ハ判然ニ大區別ヲ爲スモノ、如
 シ即チ南明普滿ノ歐、兼諸國及ヒ澳地利亞埃及ブラシル日本等ノ如キ
 有爲ノ邦國ニ在テハ悉ク金貨單本位ノ制ヲ取リ露細亞帝國亞細亞大
 陸ノ諸國亞弗利加地方等ノ未開國ニ在テハ銀貨本位ノ制度ヲ執レリ

萬弗ノ多キニ至リ同七十五年ニ及ンテ黄金ノ產出高ハ又減シテ八千
 百五十萬弗トナレリ蓋シ子バタ銀鑛發見以來銀鑛ヲ采收スルノ方法
 ナ發明シ容易ニ白銀ノ採取ヲ得シ爲メニ其產出額ヲ増加シタルヲ以
 テ銀貨本位ノ諸國ハ大ニ驚愕シ獨逸ノ如キハ首トシテ銀貨ヲ鑄解シ
 金貨單本位ノ制度ヲ立ツルニ至リ銀貨益々諸國ノ市場ニ溢ルニ至
 レリ而シテ佛蘭西、白耳義、伊太利、瑞西等ノ諸國連合シテ組織セル羅匈
 聯合ノ如キモ亦銀貨ノ鑄造ヲ中止スルニ至レリ

今世界全般ノ情況ヲ觀察スルニ埃地利、及露細亞、印度、支那、交趾、東印度
 諸島、中央亞米利加、墨是哥等ハ今尙ホ銀貨單本位ヲ執リ我邦大貌列顛
 愛蘭土、^ル太利亞、植民地、ニウヰーラント、獨逸帝國、スカンデナビヤ、王國
 葡萄牙、土耳其、埃及、北米合衆國、智利、ブラシル等ハ金貨單本位ヲ取り佛
 蘭西、伊太利、白耳義、瑞西、西班牙、希臘、羅干馬尼亞、白露、イクエトル、グレナ

ダ等ハ復本位ノ制ヲ取レリ

是凡主曰現時ノ狀況ニ依リ之ヲ判スルニ金貨單本位ノ勢力ハ最モ旺
 盛ヲ極ムルカ如シ夫ノ羅匈聯合ノ如キ既ニ復本位ノ實行ヲ止メ金貨
 本位ヲ採用シ再ヒ之ヲ復舊スルノ傾向ナ^ル埃地利亞モ亦行^ハ此例
 ニ慣ハントスルカ如シ唯露細亞ノミ今尙ホ銀貨本位ヲ用ユト雖モ其
 勢力頗ル微弱ニシテ甚タ強カラス故ニ歐洲大陸ハ悉皆金貨本位ノ制
 度ヲ奉スルモノナリト云フモ敢テ誣言ニアラサルカ如シ顧フニ貨幣
 本位ノ點ヨリシテ之ヲ論スレハ世界ハ判然ニ大區別ヲ爲スモノ、如
 シ即チ開明普滿ノ歐、米諸國及ヒ埃地利亞、埃及、ブラシル、日本等ノ如キ
 有爲ノ邦國ニ在テハ悉ク金貨單本位ノ制ヲ取り露細亞帝國、亞細亞大
 陸ノ諸國、亞弗利加地方等ノ未開國ニ在テハ銀貨本位ノ制度ヲ執レリ

以上掲クル所ノ實例ニ依テ之ヲ徴スルニ價值變動ノ一點ニ關シテハ金銀ノ間別ニ差異アラサルモノ、如シ顧フニ各國貿易上ノ取引ハ其大小ニ因リ金貨或ハ銀貨ヲ定メテ本位ト爲スノ外他ニ方便ノ存スルナキニ似タリ故ニ世界未タ盡ク金貨ヲ以テ本位トナサス亦タ咸ク銀貨ヲ以テ本位トナサス互ニ相對峙シテ其割合ヲ保持スルカ如キハ誠ニ慶賀スヘキ狀況ナリト謂ハサルヘカラス余輩ハ尙ホ編ヲ次テ單複本位ノ得失ヲ詳論シ複本位モ亦タ背理ノモノニアラサル所以ヲ證明シ而シテ單複何レカ果シテ實際ニ適スヘキヤヲ論セント欲ス讀者若シ單本位說ノ先入ヲ師トシ複本位ノ益ヲ慮ル、コトナクハ則チ可ナリ

第十章 單複本位ノ得失ヲ論ス(下)

單複本位論ハ政治經濟混合ノ問題ナリ 價值ハ物品ノ多寡ニ依ラス 一般ノ價值特ニ金銀ノ價值ハ生産入費ニ依ルモノニアラス 金銀價值ノ變動ハ需用供給ノ理ニ基ク 金銀ハ相濟相互ノ用ニ供セラルヘシ 十三世紀金價騰貴ノ理由 賠償作用ノ功能 復本位ノ極度ニ賠償作用行ハルヘカラス 單本位ノ制度ハ貨幣ノ額ヲ減ス單複本位得失總論

貨幣單複ノ得失ヲ論スルハ宛モ貿易ノ自由保護ヲ論シ或ハ銀行ノ如何ヲ論スルモノ、如ク畢竟政治經濟混合ノ問題ニシテ唯純一ニ經濟學ノ主義ヲ以テ之ヲ論斷スヘカラサルモノアリ近時獨逸國ニ在テ復本位ノ制度ヲ廢シ頻リニ銀貨ヲ輸出シタルカ如キ實ニ獨國大臣ノ慣手ナル佛蘭西抗抵ノ一政畧タルニ過キス又夫ノ佛蘭西、白耳義、瑞士、伊

硬貨論

太利等ヲ以テ組織セル羅匈組合ノ如キ實ニ佛國ノ併呑政畧ニ出テ白耳義瑞士等ノ之ニ加盟セシハ佛國ノ強大ヲ畏怖スルニ原因ス然リ而シテ本位單複ノ得失ニ就キ斯ノ論議ノ錯雜ヲ致シタル所以ハ之ヲ論スルモノ多ク政畧上ノ分子ト經濟上ノ分子トヲ區別スル能ハサルニ因ルモノトス故ニ余ハ今復本位論者ノ說ヲ精査セントスルニ當リ大ニコノ區別ニ注目シ務メテ其政畧上ノ分子ヲ排除シ專ラ意ヲ經濟主義ノ得失ニ用キサルヘカラス且ツ夫レ余ハ之ヲ研究スルノ第一着歩ト爲シ金銀兩種ノ購買力及其相互交換ノ割合ハ果シテ何ニ依リテ之ヲ定ムル乎金ヲ以テ計算スル銀ノ價銀、銀ヲ以テ計算スル金ノ價銀ハ果シテ何ニ依リテ之ヲ定メラル、カヲ觀察セント欲ス或人說ヲ爲シテ曰ク價值ノ割合ハ物品ノ多寡ニ隨テ變更スルモノナリ彼ノ黃金ノ白銀ニ比シテ十五、五倍ノ價值アル所以ノモノハ白銀ノ量黃金ノ量ニ

硬貨論

シテ十五、五倍ナルニ因ルモノナリトアダムスミツス之ヲ駁シテ曰ク二種物品ノ價值ノ差ハ必ラスシモ市場ニ現在スル物品ノ多寡ニノミ之レ因ルモノニ非ラス今若シ牡牛一頭ノ價ハ十、ギニ」ニシテ羊仔一頭ノ價ハ三、シルリンク六、ペンズナリトセハ牡牛ノ價ハ羊仔ノ六十倍ナリト謂フヘシ然ルニ之ヲ推シテ市場ニ現存スル羊仔ノ數ハ常ニ牡牛ノ六十倍ナリト云フヲ得ヘキカト
 或人又曰ク價值ハ產出ノ入費ニ由テ定マルモノナリ黃金ニシテ白銀ニ十五、五倍スルノ價值アラハ是レ之ヲ產出シテ市場ニ運搬スルカ爲メ十五、五倍ノ入費ヲ要セシモノナリト然レトモ產出ノ入費ハ物品將來ノ供給ヲ左右シ得ルノミニシテ時々ノ價值ヲ定ムルニ勢力ナキモノナリ故ニ產出ノ入費増加スル時ハ將來ノ供給減少スル事アルヘク產出ノ入費低落スル時ハ將來ノ供給ヲ増加スルコトアルヘシ然レト

モ貿易交換上ノ價值ニ至テハ之カ爲メ一二ノ影響ヲ蒙ムルコトナシ
 夫レ交換上ノ價值ハ單ニ需用供給ノ關係ニ依リテ定マルモノトシ是
 凡主^ス曰ク一度消盡シタル勞力ハ物品將來ノ價值ニ影響ヲ及ホスコト
 ナシト果シテ然リ而シテ此主義タル金銀產出ノ事ニ關涉シ尙ホ一層
 重要ノ關係アルヲ覺ユ如何トナレハ夫ノ毎年產出スル所ノ金ノ如キ
 其影響ヲ全額ニ及ホスコト甚タ僅々ナレハナリ然リ而シテ夫ノ金銀
 ナ取テ之ヲ貨幣ト做シ視ルノ時ハ別ニ其價值ノ變動ヲ制スヘキ定則
 ノ存スルアリ彌兒氏曰ク凡ソ物品ノ價值ハ生産入費ノ爲メニ影響セ
 ラル、モノニシテ實際市場ニ其供給ヲ増加スルコトナキモ之ヲ増加
 スヘキ傾向アレハ則チ之カ影響ヲ其價值ニ及ホスコトアリ金銀ノ如キ
 モ之ヲ物品ト同一視スルニ當テハ亦タ然リ然レトモ之ヲ以テ貨幣ト
 ナシ論スルニ當テハ大ニ然ラサルモノアリ今茲ニ富饒ナル銀山ノ發

見アリテ白銀產出ノ費用其四分ノ一ヲ減スルコトアランニ之カ爲メ
 銀板銀器等ノ需用^減増加セサルモ地銀ノ價值ハ幾分ノ減少ヲ爲スニ至
 ルヘシ而シテ銀貨ノ價值ニ至テハ之カ爲メニ毫モ影響ヲ蒙ムラス願
 フニ若シ銀貨ノ價值ニ就テ其四分一ノ低落ヲ見ント欲セハ勢ヒ實際
 ニ於テ銀貨ニ四分一ノ増額ヲ爲サ、ルヘカラス何トナレハ貨幣ノ價
 値ヲ低落セシメントスルニ當テハ先ツ物價ヲ騰貴セシメサルヘカラ
 ス物價ヲ騰貴セシメント欲セハ貨幣ノ額ヲ増加セシメサルヘカラサ
 ルヲ以テナリ故ニ曰ク金銀ノ產出入費ニシテ其影響ヲ價值ニ及ホス
 ハ唯リ貨幣ノ額ヲ増減スル時ニ在リト
 余請フ是レヨリ二三ノ例ヲ舉ケ金銀ノ價值ハ生産入費ニ起因セサル
 所以ヲ示サン夫レ天下富豐ノ鑛山既ニ盡キ地銀ノ產出大ニ其費金ヲ
 増シ舊來「チンス」產出ノ費用金二圓ナルニ今變シテ「オンス」金五圓

ニ騰貴セリト假定セヨ銀ノ價值ハ其產出入費ノ騰貴セルニ依テ直ニ變シテ之ニ隨フノ騰貴ヲ致スヘキヤ否ナ銀ノ價值ハ俄カニ騰貴セス依然トシテ其舊價ヲ保チ地銀ノ產出ハ一時爲ニ中止スヘシ然シテ爾後年々歳々銀貨摩擦ノ爲ニ其額ヲ減少シ銀板銀器等ニ使用セラル、地銀モ亦タ自カラ靡損シ天下ノ銀額大ニ減少ヲ加フルニ至レハ更ニ需用ノ増加スルアラサルモ其價值ハ必ラス騰貴スルニ至ルヘシ加之貿易ノ進歩スルニ從ヒ貨幣ノ節畧大ニ行ハレ爲メニ其需用ヲ節畧スヘキカ如シト雖モ人口蕃殖ノ盛ナルト貿易進歩ノ速ナルハ貨幣節畧ノ行ハルヨリ甚シキヲ以テ貨幣ノ需用モ亦タ從テ増加セサルヲ得ス銀ノ價值モ亦タ隨テ騰貴スヘキノ理アリ斯ノ如キ原因ナルカ爲メニ銀ノ價值數世紀ヲ經ルノ後ニ至リ最上點ナル一「チンス」金五圓ノ價值ニ達ス可キハ歐洲ノ歴史ニ徴シ吾人ノ能ク知ル所ニシテ固ヨリ架

空ノ說ニアラス而シテ其價值產出入費ニ因ラサルハ歴然トシテ見ルヘキモノアリ
 若夫レ未發ノ鑛山諸方ニ現出シ盛ニ其開採ニ從事スルカ爲メ其產出ノ費用ヲ下落シ一「チンス」產出ノ費用ヲ下シ金二圓ヨリ抵落シテ金壹圓ニ至ルコトアラハ其影響果シテ如何ソヤ余ハ之ニ對ヘテ言ハシ銀ノ價值ハ爲ニ俄ニ抵落セサルヘシト然レトモ歲月ヲ經ルニ從ヒ天下ノ人相牽テ其勞力ト資本トヲ擧ケテ之ヲ鑛業ニ移スヘク年々產出ノ銀額ハ既往ニ二倍シ三倍シ乃至四五倍スルカ如キノ勢ニ至リ終ニ其價值ノ抵落ヲ致スヘシ然リト雖モ天下現在ノ銀額モ亦タ既ニ夥多ナルヲ以テ假令ヒ鑛業ノ利益ハ莫大ニシテ資本多ク之ニ移用スルノ傾向アルモノ未タ俄カニ其價值ヲ低落シ之ヲ生產入費ノ位ニ均シカラシム能ハサルヘキナリ

上來陳述セル所ニ據リテ之ヲ觀レハ金銀價值變動ノ理モ之ヲ明ニスルヲ得ヘシ世人或ハ以爲ラク金銀ノ價值ハ單ニ其生産入費ニ因ル生産入費ハ許多ノ事情ニ從テ變更常ナキヲ以テ金銀價值相互ノ關係モ亦從テ變動無常ナラサルヲ得スト然レトモ上文ニ詳説セシカ如ク生産入費ノ價值ニ及ホスヘキ影響ハ緩漫間接ノモノニシテ金銀ノ價值ハ之ヲ凡百ノ物品ニ對比シテ俄ニ變動スヘキモノニアラス而シテ其相互ノ割合ノ如キモ亦タ變更常ナキモノニハアラサルナリ願フニ此理ヲ明ニセハ復本位論者ノ云フ所皆ナ悉ク背理ノモノト爲シ直ニ之ヲ擯斥スヘカラサルカ如シ

且夫レ彼ノ金銀ハ之ヲ器具トナスモ之ヲ貨幣トナスモ彼此相救フテ互ニ其他ノ欠乏ヲ補フニ足ルモノナレハ其價值相互ノ割合モ亦タ從テ變動シ易カラサルナリ博士ケヤ子ス言ヘルコトアリ曰ク一種ノ物

品ニシテ他種物品ノ價值ヲ計ルニ足ラサルコトアルハ其相救テ通般ノ用ニ供セラル、カ爲メナリ故ニ小麥ノ收納多クシテ大麥ノ收納少ナキノ歲ニ當リ大麥ノ欠乏ヲ補フカ爲メニ小麥ヲ流用シ以テ大麥價值ノ變動ヲ計ラントスルハ甚タ難シ蓋シ相互ノ關係斯ノ如ク密切ナル時ハ其一方ニ起ル變動ハ亦タ必ラス他方ニ及ホスヘケレハナリ故ニ流用ニ適スル物品ハ其價值ノ高下毎ニ其伴フヲ以テ爲メニ其價值變動ノ範圍ヲ廣濶ナラシムルモ之ヲ過激ナラシムルニ至ラス夫ノ金銀價值變動ノ如キモ亦タコノ理ニ均シ即チ金ノ産出夥多ニシテ市場ノ供給多ク地金ノ價值下落スル時ハ進ンテ銀ノ代用ヲ爲スヲ得ヘク隨テ銀ノ需用ヲ減少シソノ價值下落シテ結局金銀相伴ノ下落トナルニ至リ之ヲ金若クハ銀ノ單獨ナル下落ニ比スレハ其範圍寧ロ廣濶ナルモ高下ノ差異ハ又大ナラサルナリト因是觀之復本位論者ノ言フ所稍

其理ナキニアラサルヲ知ルナリ
 上文ノ論旨ハ頗ル復本位論者ノ地位ヲ堅クシ單本位論者ノ地位ヲシ
 テ危カラシムルヲ以テ議者力ヲ極メテ之ヲ排斥セントスルカ如シシ
 ベリヤ氏嘗テケヤ子ス氏ノ所論ヲ評シテ曰ク金銀相互ノ關係ハ小麥
 ト大麥トノ如キ密接ノモノニアラス寧ロ麵包ト肉トノ關係ノ如シ夫
 ノ金銀價值ノ變動ヲ以テ獨立ノモノトシ相伴セルモノニ非ラスト云
 フハ固ヨリ至當ノ說ニアラスト雖モ其相互ノ關係ニ至テハ又ケヤ子
 ス氏所言ノ如キ密接ノモノニアラサルナリト之ニ反シ博士是凡主ハ
 ケヤ子ス氏ノ所論ヲ贊成シテ曰クオーストレリヤカリフオルニヤ兩
 坑金塊產出ノ影響甚タ些少ナルハケヤ子ス所說ノ確然タルヲ證スル
 ニ足レリト且ツ一千八百三年佛國革命政府ノ起ルヤ法律ヲ以テ金銀
 價值ノ差異ヲ定メ金ノ價值ヲ以テ銀ノ十五、五倍トナセリ博士ウオロ

ウオスキ―之ヲ評シテ曰ク此時ヨリ以降金銀貨幣ノ價值大差アラサ
 ルハ此法律ノ賜ナリト
 此ニ於テ余ハ一千二百六十二年ヨリ一千二百九十二年ニ至ル迄凡三
 十年ノ間ニ在テ黄金價值ノ騰貴シタル原因ヲ論スルアラント欲ス此
 黄金ノ騰貴タルヤ單本位論者ノ毎ニ取テ金銀價值變動ノ證據ト爲シ
 甚タ之ヲ貴重スルモノナリト雖モ英國ノ農業及ヒ價銀ノ歴史ニ通曉
 シタル博士ロウヂヤス氏ハ之ニ歸スルニ反對ノ起因ヲ以テセリ既ニ
 前條ニ述說セシカ如ク一千二百六十二年ニ當テ金銀ノ差異ハ九、六ト
 一ノ割ナリシモ一千二百九十二年ニ至テハ十二、五ト一ノ割合トナレ
 リ博士ロウヂヤス氏之カ解釋ヲ下シテ曰ク僅々三十年ノ間ニシテ斯ノ
 如キ變動ヲ金價ノ上ニ生シタルハ別ニ其故ナカルヘカラス今余ヲ以
 テ之ヲ云ヘハ單ニ當時歐洲大陸ノ諸國相競テ金貨ヲ鑄造シタルニ因

論 貨 硬

ルモノナルヲ知ル經濟ノ學士多ク以爲ラク金價ノ高低ハ其器物ノ物質トシテ使用サル、ノ多寡ニ因ルモノナリト然レトモ余ハ之ニ雷同スルヲ得ス其故如何トナレハ金價ノ高低ハ其器物ノ物質トシテ使用セラル、ト貨幣トシテ使用セラル、トヲ問ハス總テ需用全般ノ多寡ニ因ルモノナレハナリ蓋シ十三世紀ノ終ニ當テ黃金ヲ貨幣トシテ用キタルノ額ハ實ニ少シトセス伊太利ノ諸洲ハ皆金貨ヲ鑄造シ獨逸、匈牙利等モ、ヂユカツト、ベニス金貨ノ名ニ倣ヒ金貨幣ヲ鑄造シ佛蘭西ノ如キモ亦タ始メテ金貨ヲ鑄造シ而シテフレシヤ、ブレオレンス等モ亦タ之ニ倣ヘリ顧フニ十三世紀ニ在テ金貨ノ騰貴セシハ其產出費用ノ差異アルニ依レルニアラス實ニ法律或ハ慣習ノ致ス所ナルヲ識ルトロウヂアス氏ノ考證概子此ノ如シ茲ニ於テ余ハ益々復本位論者ノ所說モ亦タ皆ナ背理ノモノニアラサルヲ識ルナリ

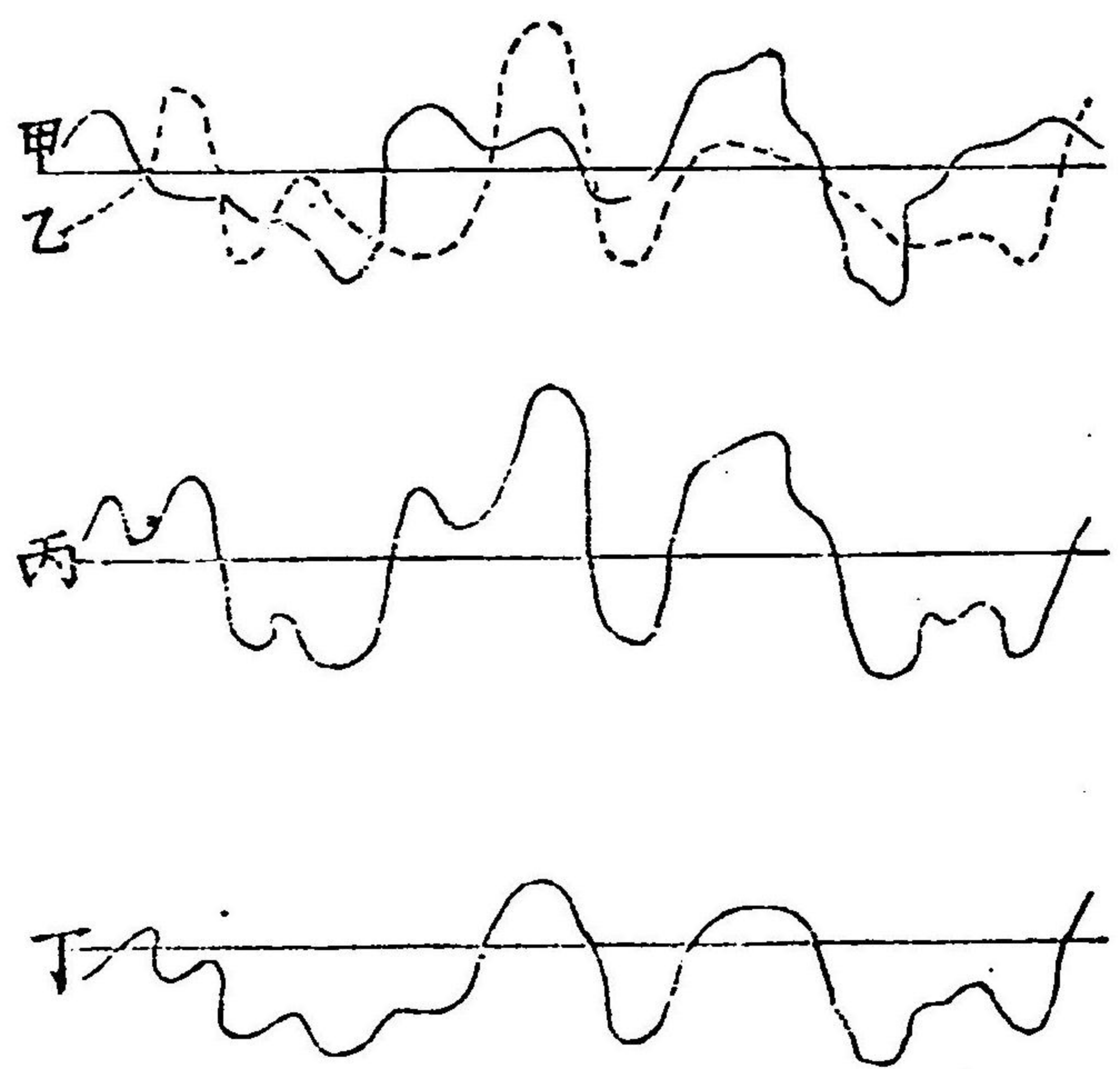
論 貨 硬

然リト雖モ余ノ前章ニ述說セシ如ク金銀價値ノ變動ハ古來未タ嘗テ止マラサルノ事實ニシテ其需用供給相投合シ以テ價値ヲ均一ナラシムルノ傾向アルニ拘ハラス年々歳々金銀二者ノ中其何者カ必ラス貨幣ノ範圍ヲ脱シ法律上ノ價値物質上ノ價値ニ超過セルモノ、ミ常ニ殘留シ流通貨幣トナレルノ例實ニ乏シカラス十九世紀ノ初メニ當テ英國ノ遭遇セシ事實ノ如キ佛蘭西及ヒ合衆國ノ近狀ノ如キ即チ是レナリ吁是レ果シテ如何ノ原因カアル復本位論者ハ此實況ニ就テ如何ナル説明ヲ下スヘキ乎余ハ佛國經濟學士ウオロオスキー氏ノ所論ヲ掲ケ其答フル所ヲ示サント欲スルナリ

ウオロオスキーハ復本位論者ノ巨擘ニシテ其議論ノ巧妙妥當ナル復本位論者中比類ナキノ博士ナリ其言ニ曰ク金銀ノ價値ハ別ツテ之ヲ言フモ併セテ之ヲ言フモ固ヨリ永遠一定ノ價値ヲ有セサルモノニシ

テ膏ニ自他物品ニ對スル割合ノミナラス其相互ノ割合ノ如キモ亦タ時々變更スルモノタリ而シテ斯購買力ノ變動ハ交換上止ムヲ得サルノ性質ナルヲ以テ價值ノ一定ヲ求ムルハ到底善人ノ能クスルヲ得サルモノナリ然リト雖モ若シ夫ノ金銀ヲ併用シテ貨幣トナスノコトアラハ所謂ル賠償作用ナルモノアリテ自カラ其間ニ生シ金銀相ヒ互ニ對スルノ價值ハ爲メニ變動ヲ減殺スルニ至ルノミナラス金銀貨ノ爾他物品ニ對スル價值モ亦タ變動少ナキニ至ルヘキナリトウオロウオスキ一度此説ヲ唱ヘシヨリ以來復本位論者ハ競テ之ヲ和シ數世紀ノ間金銀ノ差異ハ常ニ十五ト一ノ割合ヲ保チテカリフォルニアオストレリヤ鑛山ノ發見アルニ拘ハラス其割合ノ依然タルハ職トシテ賠償作用ノ功ニ由ルト云ヘリ

博士ゼボンス之ニ贊同シテ曰ク英國ノ經濟學士ハ復本位論者ニ公平



ナル地位ヲ與ヘサルモノト謂フヘシ彼徒曰ク複本位ノ制ヲ用ユレハ價銀ノ變動甚シカルヘシ蓋シ兩金屬價值變動ノ極度ニ從テ變動スルヲ以テナリト誤レル哉言ヤ抑モ價值ノ變動ハ十五、五ト一ノ比例ヨリ低下セル金屬ノ價值ニ從フモノナリ今圖中ノ甲線ヲ以テ金價ノ變動ヲ表スルモノトナシ乙線ヲ以テ銀價ノ變動ヲ表スルモノトナサンニ丙線ハ金銀價值變動ノ極端ヲ表スルモノナルヘシ然リ而シテ價銀ノ變動ハコノ丙線ノ如キ至極ノ度ニ至ラスシテ丁線ノ如キ變動ヲ爲スニ止マルナリ

ト又曰クウオロウスキー及コオセイイルセニウール等所稱ノ賠償作用
 卽チ平均作用ナルモノハ必ラスシモ行ハレ難キ事ニアラス若シ銀ノ
 價值金ノ十五五分ノ一ニ比シテ更ニ騰貴スルコトアラハ金ノ物質價
 値ハ其法律價值ノ下レルヲ以テ外國ハ複本位制度ノ國ニ向テ金ヲ輸
 入シ其國ヨリ銀ヲ輸出シ以テ利ヲ其間ニ綱スヘシ此事タル決シテ架
 空ノ説ニアラス實ニ佛蘭西ノ如キハ其損害ヲ蒙リタルモノト謂ツヘ
 シ一千八百四十九年ニ當リ佛國ノ通貨ハ專ラ銀貨ナリシト雖モ一千
 八百六十年ニ至テ銀貨ハ其跡ヲ市場ニ絶チ金貨獨リ通用セラル、ニ
 至レリ之ニ反シ金ノ價值ニシテ騰貴スルアラハ必ラス茲ニ反對ノ現
 象ヲ表ハシ其國ハ金ヲ吐出シテ銀ヲ吸入スヘキナリスノ如クニシテ
 價值ノ標準タルヘキモノハ金ニ非ラスンハ則チ銀ニシテ金銀并ヒ行
 ハル、コトナク複本位ノ名アツテ其實ナキカ如シト雖モ價銀ノ變動

ハ之カ爲メニ減少スルコト分明ナリト謂フヘシ而シテ複本位ノ制度
 ハ其變動ノ區域ヲ廣メ隨テ其度ヲ急激ナラサラシムルニ効アリ試ニ
 茲ニ一對ノ水槽アリテ相互ニ通スルノ管ナク各々殊別ニ需用供給ノ
 變動ヲ蒙ムルモノアリト假想セヨ今コノ一對ノ水槽ニ就テ一條ノ管
 線ヲ通シ其水ヲ増減スルコトアランニ其増減ノ度ハ二者殊別ノ増減
 ニ比スレハ必ラス緩漫ノ勢ヲ呈セン近時歐洲西部ニ行ハル、復本位
 ノ制度ノ如キ佛國革命ノ時ニ當テ發布シタル法律ノ如キ畢竟コノ兩
 槽通管ノ理ニ外ナラサルナリト
 獨リゼボンスノミ復本位論者ノ稱道スル賠償作用卽チ平均作用ニ賛
 同スルノミナランヤ獨逸有名ノ經濟學士ロツシエル及ロオノ如キモ
 亦タコノ作用ノ効力ヲ識認セシモノ、如シ然リ而シテ米人サルニシ
 ユイノ如キハ法律ヲ以テ金銀價值ノ變動ヲ制シ更ニ此ノ賠償ノ作用

硬 貨 論

チ大ナヲシメントス一千八百七十六年氏ハ一説ヲ紐育銀行雜誌ニ掲
 ケテ曰ク過多ナル金屬ハ需用最小ナリ些少ナル金屬ハ需用最多ナリ
 故ニ今法律ノ力ヲ假リ生産夥多ナルモノ、需用ヲ増シ生産些少ナル
 モノ、需用ヲ減シ以テ天然ノ傾向ヲ停止スルコトアラハ價值ヲシテ
 其平均ヲ保タシムルコト固ヨリ易クナルノミ余カ所謂ル復本位合金^{エレクトロン}
 ノ法ナルモノハ畢竟此理ニ由レルモノナリ若シ復本位ノ法ヲ用ヒ人
 民ヲシテ金銀兩種ノ一ヲ使用シ隨意ニ負債消却ニ充ツルヲ得セシメ
 ハ人民ハ競テ産出夥多ナル貨幣ヲ使用シ以テ之ヲ辨償スヘシ故ニ其
 價值ハ頓ニ低落セス而シテ小額ノ金屬モ亦需用少ナキカ爲メ其價值
 ハ頓ニ騰貴セス彼此共ニ偏スルコト少ナカルヘシト氏ノ論タル法律
 ノ力ヲ信スル強キニ過ク故ニ會々反對ノ駁論ヲ致ス顧フニ英國ノ經
 濟學者ハ古來法律ノ効力ヲ輕視スルノ弊アリ夫ノリカルトオノ金銀

硬 貨 論

鎔解地金輸出ニ關スル法律ヲ取テ悉皆無効ナリト痛論セシカ如キ其
 一ナリ近時彌兒ノ如キハ明ニ其効力ヲ認メタリト雖モ法律ノ力能ク
 天然ノ傾向ヲ左右スルノミナラズ且之ヲ停止シテ其方向ヲ轉セシム
 ルトイフニ至テハ古來未ダ稱道スルモノアラサルナリ然ルチサルニ
 シユイ金銀ノ割合ヲ改メテ一ト一ノ比準ト爲シ法律ノ力ヲ以テ之ヲ
 維持セントス是レ豈ニ過激ノ説ニ非ラサルナキヲ得ンヤ埃國ノ經濟
 學士ハルツカ嘗テサルニシユイ合金ノ説ヲ駁シテ曰ク氏ハ金一磅産
 出ノ費用ハ銀一磅ヲ産出スル十五五倍ヲ要スルト云フ乎其意未タ知
 ルハカラスト雖モ金一磅ヲ産出スル費用ニシテ銀數磅ヲ産出スルニ
 足ルハ吾人ノ既ニ許ス所ニシテ氏モ亦タ許ス所ナラム若シ夫レ斯ノ
 如クニシテ政府金銀同價ノ令ヲ布カハ其影響果シテ如何ソヤ夫レ貨
 幣ノ價值ハ單ニ賣買ノ需用ト貨幣ノ數額トノ比例ニ因ルハ氏モ亦タ

常ニ之ヲ稱道セリ然ラハ則今泰西ノ中ニ在テ總計一百億萬ノ貨幣アリトシ其金銀價值ノ割合ハ一變シテ同價トナルコトアリトセンモ其購買力ハ決シテ變更セサルヘシ唯之カ爲メニ金ノ價值頓ニ下落シ銀ノ價值俄カニ騰貴スルヲ以テ銀鑛ノ開採ニ使用セル資本ノ利潤自カラ大ニ増加シ資本家ハ爭テ銀山ノ開墾ニ從事シ苟モ銀坑ノアル在ラハ必ラス之ヲ開採シ每歲所出ノ白銀ハ益々其額ヲ加ヘ遂ニ止マル所ヲ識ラサルニ至ルナルヘシ之ニ反シ夫ノ金鑛ノ如キハ大ニ其景況ヲ殊ニシ從來其開採ニ從事スルモノト雖モ概子其業ヲ停止シ爲メニ使用セル資本ハ轉シテ銀鑛開墾ニ用キラル、ヤ必セリ然シテ斯ノ金額ハ銀ノ額ヨリモ些少ナル時ニ當テ人民カ金銀ヲ珍重スルノ度ハ果シテ同一ナルヘキ乎複本位ノ制度ハ能ク金銀價值ノ割合ヲ均シカラシムルヲ得ルモ人民ノ嗜好ヲ變スルコト能ハサルヘシ古ヨリ人

民ノ銀ヲ用キテ銀器銀板ヲ製造シタルモノハ金ノ價貴フシテ之ヲ用キル能ハサルカ爲メナリ然レトモ復本位ノ法能ク金ノ價值ヲ低落セシメ銀價ト均一ノモノナラシメハ人民ハ相競テ其銀板銀器等ヲ輸シテ之ヲ造幣局ニ送り更ニ金ヲ以テ其嗜好ニ適スル百般ノ物品ヲ製造スヘキナリ余ヲ以テ之ヲ見レハ今日泰西諸國ニ存在スル一千七百萬磅ノ黄金ハコノ需用ヲ滿圓スルニ足ラサルモノアルカ如シ而シテ夫ノ東洋諸國ノ如キモ亦タ泰西ニ於テ金銀同價ノ制度起リタルヲ聞カハ其多有スル白銀ヲ擲キ以テ大ニ金ヲ覓メ遂ニ止マス饒令ヒ若シ複本位論者ニシテ口ヲ極メ金銀同價ノ理由ヲ説明スルアルモ彼輩決シテ之ヲ聽キ肯ンセサルヘキナリ斯ノ如クニシテ金ノ消失日々ニ其多キヲ致シ遂ニ其跡ヲ市場ニ絶ツニ至ラン果シテ然ラハ能ク夫ノ本複位ナル制度ヲ保持スルヲ得ル乎願フニ其極度ニ達スルアラハ一日一

硬 貨 論

時否ナ一秒時間タリト雖モ決シテ其制度ヲ保持スヘカヲサナリト
 ハルツカ氏ノ駁論至レリ盡セリ願フニサルニシユイ氏ハ如何カ之ヲ
 聽ク蓋シ一言ノ之ニ抗辨スルモノナカルヘシ然レトモ金銀同價説ノ
 非ナルヲ以テ直ニ復本位ノ制度ヲ斷シテ不可行的ノモノト爲スヘカ
 ラス夫レ金銀同價ハ瞬時モ之ヲ保持スル難シ然レトモ若シ法律ヲ以
 テ正當ニ其價值ノ割合ヲ定メ之ヲ保持スルヲセハ亦タ甚タ難事ニ非
 ヲサルカ如シ今若シ瀛車ノ運行ヲ迅速ナラシメント欲シ機關車ニ副
 フルニ馬ヲ以テセハ瀛車ノ運轉ハ之カ爲ニ迅速ナラスシテ却テ馬ヲ
 斃スノ虞アリ然レトモ駢馬ヲ以テ車駕ヲ牽カシメハ假令馬力ニ甲乙
 ノ差アルモ夫ノ一頭ノ馬ヲシテ之ヲ牽カシムルニ比スレハ其迅速ナ
 ルコト固ヨリ多言ヲ待タス複本位ノ制度ハ殆ント駢馬ヲ以テ車駕ヲ
 牽カシムルカ如シ惟フニ之ヲ御スルノ法其宜シキヲ得ハ決シテ其利

硬 貨 論

益ナキニ非ラサルナリ余乞フ今一例ヲ舉ケテ複本位制度ノ能ク價值
 ノ變動ヲ匡正スルニ足ル所以ヲ示サン按スルニ一千八百七十年ニ當
 テ泰西金銀價值ノ差ハ實ニ一ト十五、五七ナリシ翌一千八百七十一年
 ニ至テ銀貨ハ下落シテ一ト十五、五八ノ割合ト爲レリ然ルニ今若シ歐
 米ノ開明諸國ニ在テ一千八百七十年金銀ノ差異一ト十五、五七ナリシ
 時ニ當テ複本位ノ制度ヲ用キルコトアラシメハ法律ノ力能ク銀貨ノ
 下落ヲ止メ其ヲシテ變更アラサラシムルヲ以テ翌年市場ノ相場ハ變
 シテ一ト十五、五八トナルコトナカルヘシ願フニ各國ノ人民年々歳々
 負フ所ノ債金ハ數千百萬モ畜ナラス而シテ其返濟期限ニ達シタルモ
 ノモ亦タ實ニ僅少ナラサルヘシ是ヲ以テ銀貨ノ下落ニ際シテ各國人
 民ハ之ヲ用キテ負債ヲ返辨スルコトアラハ其價值忽チ騰貴シテ其十
 五、五七ノ地位ヲ保ツヲ得ルニ至ルヤ必セリ且金銀ノ價值ハ需用供給

ノ通理ニ由リテ變動スルモノナレハ複本位論者ノ意ハコノ通理ニ則
 リテ需用ヲ増減スヘシト云フニ過キス即チ價值下落シタル金屬ヲ以
 テ負債ヲ償却セシメ需用ヲ増減スト云フニ過キサルヘシ其言フ所豈
 ニ毫毛ノ不理アランヤ
 複本位論者ノ取テ複本位制度ノ長所ト爲ス者唯タ上來所陳ノモノニ
 止マラス尙ホ別ニ之カ言ヲ爲スモノアリ曰ク國家若シ單本位ヲ採テ
 複本位ノ制度ヲ廢スルコトアラハ古來使用セル銀貨ノ多數ハ勢ヒ之
 ヲ鎔解セサルヲ得ス若シ之ヲ鎔解センカ貨幣ノ數額大ニ減少シ爲ニ
 大ニ負債者ノ困難ヲ來タサン夫ノ貨幣數額ノ影響ニシテ負債ニ波及
 スヘキ所以ハ勢ノ避クヘカラサルモノニシテ余詳ニ之ヲ次篇ニ論セ
 ントス而シテ今理財學士セイドノ計算ニ據ルニ現今宇内ニ存在スル
 金銀貨幣及地金ノ數額ハ凡ソ六十七億五千萬弗ニシテ其内銀ノ數額

三十二億五千萬弗ニ下ラス而シテ開明諸國ノ單本位ヲ行フニ及ンテ
 尙ホ銀貨七億萬弗ヲ存留ストナスモ其三割八分ハ新法採用ノ爲メニ
 鎔解セラルヘキノ實アリ果シテ然リ複本位論者ノ相共ニ銀貨ノ鎔解
 ハ不正ノ大ナルモノナリ影響ヲ契約ニ及ホシ大ニ負債者ヲ害スト云
 フハ又甚タ理ナキニ非ラサルカ如シ彼ノ徒又云ク近來金銀鑛坑ノ產
 出減少セリ然ルニ此時ニ當テ複本位ヲ廢スルハ抑モ是レ何等ノ拙策
 ソヤト蓋シ或ハ然ラン而シテ夫ノ米洲聯邦獨立シテ共和政府ヲ組織
 スル時ニ當テハミルトン、セフエソン、ガラチン等ノ複本位ノ制ヲ贊成
 シテ之ヲ採用セシメタルハ多ク此理ニ基クモノ、如シハミルトン氏
 造幣報告ノ文ニ曰ク

惟ミルニ金銀貨幣ノ一ヲ取テ之ヲ本位トナスノ事ハ我其害ヲ見テ
 未タ其利ヲ視ル能ハス所謂單本位ナルモノハ金銀貨幣ノ一ヲ廢シ

之ヲシテ貨幣タルノ性質ヲ失ナハシムルニアラスンハ到處行ハル
 ヘキモノニアラス而シテ金銀貨幣ノ一ヲ棄ルハ交換ノ媒介物ヲ減
 殺スルノ謂ニシテ其害ノ甚タシキハ知者ヲ俟テ知ラサルナリ願フ
 ニ此害ヲ識ルモノニシテ此舉ニ賛成セサルハ理ノ最モ見易キモノ
 ナリト

交換媒介物減殺ノ害ハ米國獨立ノ時ニ當テ人々既ニ之ヲ恐ル願フニ
 今日社會負債ノ額ハ決シテ當年ノ比ニアラサルヘシ爾來戰爭ノ費用
 及起業ノ資本ニ充ツルカ爲メ各國政府及人民ノ借受セシモノ日々ニ
 益々多キヲ加ヘ倍ニ倍蓰ノミナラス果シテ然ラハ複本位論者ノ之ヲ
 憂フハ決シテ其謂ナキニ非ラサルナリ

以上詳論スル所ヲ以テ之ヲ觀レハ複本位ノ制モ之ヲ永遠ニ用ユヘキ
 モノ々如シ願フニ若シ一國一社會ノ人ノミ唯リ此制ヲ採ルアラハ複

本位ハ變シテ金銀相互本位トナリ恆ニ低落セル貨幣ヲ吸入シテ騰貴
 セル貨幣ヲ吐出シ以テ大ナル不便利ヲ蒙ムルアラランモ若シ各國聯
 合シテ此制ニ憑ルコトアラハ貨幣ノ數額減少セス賠償作用大ニ行ハ
 レ爲ニ大ニ其便利ヲ致サン是ヲ以テ今若シ羅匈聯合諸國獨逸英國合
 衆國等相和シテ此制度ニ憑ルアラハ複本位論者ノ空想ハ忽チ其果ヲ
 結ヒ萬民其恩澤ニ浴スルニ至ラム然レトモ利己私益ヲ營ムノ心尙ホ
 未タ政治家ノ腦裏ヲ脱セス吾人焉ソ之ヲ今日ニ期スルヲ得ンヤ茲
 ニ於テカ余ハ復タ言ハントス單複本位ノ問題ハ單ニ理財主義ヲ以テ
 之ヲ論斷スヘキモノニアラサルナリト余豈ニ之ヲ誣ヤン哉

第十一章 各社會ノ要スヘキ貨幣ノ額ヲ論ス

尙金貿易ノ非 貨幣分配ノ理論 リカアドオノ説 マルサス

ノ説 ソチントンノ説 貨幣供給ト價銀トノ關係 各社會ノ

需用スル貨幣ノ額 彌兒ノ説 貨幣ハ物品ノ需用者タリ 貨

幣流通ノ度數 信用制度ノ貨幣ヲ省畧スル所以 外國ト通商

セサル國ノ貨幣 不換紙幣流用ノ國ハ天然分配ノ範圍外ナリ

或ハ傳フ往昔小亞細亞ニ一國王アリマイダスト稱ス一日其農民バカ

ス神ノ師父某山人ヲ捕ヘテ之ヲ王ニ致ス王之ヲ罪セス免シテ之ヲバ

カス神ニ還セリバカス神コレヲ徳トシテ王ニ示現シテ曰クマキタス

汝余ニ告クルニ汝ノ欲スル所ヲ以テセヨ余ハ汝ヲシテ汝ノ欲スル所

ヲ得セシメ以テ汝ニ報ヒント王答ヘテ曰ク大神願クハ百物ヲ變シテ

黃金トナセ則チ奴ノ望ミ足ルヘシトバカス神其願望ノ不利ナルヲ論

硬 貨 論

ス然ルニ王固ク請テ止マスバカス神止ムヲ得ス其冀願ヲ諾シテ去ル其翌王夙ニ起キ嗽カントス水盤ノ水皆金ナリ食堂ニ入テ食セントス食器食物皆ナ金ナリ又願ミテ殿内ヲ望メハ器具珍寶皆ナ金色ヲ帶ヒサルナク出テ、後園ヲ繞ルニ草木土石皆ナ又金色ニ變シ金鱗ノ魚ハ金池ノ金波ニ躍リ金羽ノ鳥ハ金木ノ金枝ニ囀リ雙眸ノ見ル所唯灼々赫々トシテ總テ黄金ナラサルハナシ王茲ニ於テ餓ユルモ食フモノナク渴スルモ飲ムモノナク一驚三歎始メテ自家ノ貪婪多欲ナルヲ悔ヒ頓首シテバカス神ニ哀訴シ其初願ヲ解カントテ訴フバカス神則チ其願ヲ許シ器具食物ヲシテ悉ク其舊ニ復セシム是ヨリ以後王マイダスハ專ニ力ヲ牧蓄農業ニ用ヒ大ニ其富ヲ致セリト

是レハコレ希臘古代ノ偶語ナリ理財學士マクレオツドコノ偶語ヲ借り遂ニ稱道シテ曰クマイダスハ尙金貿易家ノ鼻祖ナリ歐羅巴各政府

硬 貨 論

ハ尙金貿易ノ主義ヲ遺傳シ之ヲ唱ヘタルモノナリ唯夫レマイダスハ黄金ノ他物ヲ購求スルニ適シ他人ノ勞力ヲ使役スルニ用アルヲ識ツテ百物皆ナ金ニ變スルハ金ノ効用遂ニ廢ル所以ヲ知ラサリシナリト夫レ金ノ價值ヲ有スル所以ハ他ニ之ト交換スヘキ物品ノ在ルアルヲ以テノ故ノミ故ニ若シ他物ノ之ニ交換スヘキモノナクハ黄金ハ遂ニ其價值ヲ有セサルナリ嗚呼此ノ甚大ノ誤謬ニ陥リタル者豈ニ唯タマイダス王ノミナランヤ十四世紀ノ始メニ當テ歐洲各國ノ政府ハ殆ント皆ナ此誤謬ニ陥リタリト謂フヘシ當時各國政府ハ嚴令ヲ下シ貨幣ノ輸出ヲ禁シ國中ニ黃白ノ充ツルヲ視テ優々自得以テ策ヲ得タリトセリ是レ則チマイダス王ノ過ヲ再ヒセシモノニシテ其弊頗ル多シ就中西班牙人ノ如キハ最モ其惑ニ溺ホル甚シ是ヲ以テ彼レ殆ント新世界ノ金銀ヲ獨占シ威ク之ヲ領スルノ勢アルモ須臾ニシテ國力衰弱

シ復タ往昔ノ隆盛ヲ致ス可能ハサルニ至レリ夫レ金銀ハ物産ヲ生殖スルノ媒物ナリ故ニ之ヲ用キテ工業ヲ進ムヘク之ヲ用テ農業ヲ隆ニスヘシ然レトモ唯リ之ヲ集メ以テ其目的ヲ達シタルトナスハ抑モ是レ誤マレリ宇内ノ人此誤謬ニ陥リテヨリ爰ニ數百年其間人類ノ幸福ヲ減少シ社會ノ進歩ヲ妨碍スル實ニ僅少ナラス其實天災地異ノ比ニアラサルナリアダムスミツス大ニ茲ニ見ル所アリ奮然特立ノ萬國富有論ヲ著ハシ一朝ニノ百代ノ迷霧ヲ破リ以テ天下ノ惑溺ヲ救ヘリ爰ニ於テカ人類始メテ黃白ノ尊フヘク其卑シムヘキ所以ヲ知り經濟ノ新主義又茲ニ其基ヲ開キ爾來駭々乎トシテ益々進ミ遂ニ今日ノ隆盛ヲ致スニ至レリ古人曰ク茶毒ヲ社會ニ流シ其弊害ヲ百世ニ傳フル者天下頗ル多ホシ而メ其茶毒ノ最モ著大ニシテ最モ甚シキ者四アリ曰ク内亂曰ク惡疫曰ク饑饉曰ク金銀而シテ前ノ三者ハ人善ク其害ヲ識

論 幣 貨

ル故ニ其影響自ラ輕シ唯タ其四ニ至テハ影響急激ナラスシテ頗ル認メ難ク智者ト雖屢々救治ノ策ヲ誤マルコト多シ豈ニ恐レサルベケンヤト余ハ是ニ於テ乎益々スミツス氏ノ功勳少ナラサルヲ識ルナリ抑モ貨幣ハ殖産ノ目的物ニアラスシテ其手段ナルノ主義ヲ明ニシ而シテ後始メテ社會ノ需用スル數額ヲ論議スルヲ得ヘシ然レトモ此問題ヲ議スルノ前ニ當テ貨幣ハ何如ナル定規ニ從テ世界各社會ニ分配セラル、ヤチ極メサルヘ可ラス故ニ余ハ今先ツ貨幣分配ノ定義ヲ釋子而シテ後チ本論ニ及ホスアラント欲スルナリ

貨幣分配ノ所論ニ就キリカルドオ氏ノ議最モ遵奉スヘキモノ、如シ曰ク古來經濟學士ノ稱道スル所ニ據ルニ各邦各所ニ分配セラルヘキ貨幣ノ數額ハ各社會貿易盛衰ノ程度ト開明進歩ノ程度トニ隨テ自ラ定マルモノ、如シ即チ貨幣ハ各社會ノ之レヲ使用スル程度ニ從テ

論 貨 硬

硬 貨 論

分配セラル、モノナリ分配ノ法ニノ斯ノ如クンハ貨幣ノ價值各所均一ニシテ輸出輸入ノ事行ハル、事ナク世界全般ノ所有スル貨幣ノ額ハ果シテ夥多ナルモ亦タ過少ナルモ物價之レカ爲ニ騰貴シ若クハ低落スルノ差アルノミ然リ而シテ今若シ一社會ノ貿易俄然隆盛ニ赴キ其取引既往ニ比スレハ頗ル繁雜ヲ致スニ及ンテハ貨幣分配ノ割合コ、ニ一變シ斯國ノ配分其額ヲ増シ他國ノ貨幣其額ヲ減スヘシ然レトモ是レ啻ニ自然ノ理ニ隨フニ止マリ其間損益ノ生スルコトナキナリ若シ又一社會ノ工業頓ニ衰ヘ委靡振ハサルニ至ランカ其社會ハ既往ノ如キ多額ノ貨幣ヲ保持スル能ハス其一部分ハ域外貿易隆盛ノ國ニ輸出セラレ分配ノ比例復コ、ニ一變セサルヘカラス若シ又一社會ニシテ金鑛ノ發見アラン乎需用ハ供給ニ若カサルカ爲メ金貨幣ノ價值下落シグレシヤム發見ノ規則コ、ニ其實効ヲ顯ハシ域外輸出ノ事起

硬 貨 論

リ須臾ニシテ分配ノ比例舊ニ復スルヲ得ヘシ故ニ貨幣分配ノ比例ナルモノハ之ヲ保持スル自カヲ難カラサルナリト
 リカルドオ氏ハ更ニ之ヲ敷衍シテ曰ク金銀ノ輸出ハ各人ノ便宜ニ任スヘシ何ソ之ヲ制限スルヲ要センヤ金銀モ亦タ他ノ物品ノ如クコレヲ輸出シテ利益アルニアラスンハ人決シテ之ヲ輸出セサルナリ又曰ク金銀ノ輸出セラル、ハ其安直ナルカ爲メナリ物品ノ輸入其輸出ニ超過スルハ貨幣過多ナルカ爲メナリ又曰ク貨幣過多ナルノ時ニ當テハ負債消却ノ爲メ之ヲ輸出スルコトアリ是レ他ナシ他ノ物品ヲ以テ之ヲ消却センヨリハ寧ロ利アルヲ以テナリ之ヲ要スルニ貨幣ノ輸出ハ其度ヲ過クルノ虞アルコトナク亦タ其輸出セラル、カ爲メニ通貨ノ欠乏ヲ生スルノ憂アラサルナリト氏ハ唯リ貨幣ノ輸出ヲ以テ之ヲ天然ニ任スヘシト云フノミナラス又貨幣ノ輸出ハ貿易ニ利アリ貨幣

硬 貨 論

夥多ナレハ物貨騰貴シ以テ貿易ノ澁滞ヲ來タシ生産ヲ委靡セシムルノ大弊ヲ匡正スヘシト云フノミナラス實ニ戰爭ノ經費ヲ償フ爲メニ之ヲ海外ニ輸出スルカ如キモ亦均シク其利アルヲ揚言ス然レトモコノ説タル間々世人ノ驚訝ヲ致シ易ク夫ノマルサスノ如キハ既ニ之ヲ駁セリ今其言ヲ按スルニ即チ曰ク各社會ニ在テ貨幣ヲ用キ其外債ノ一部ヲ償却シ物品ヲ以テ其一部ヲ償却スルヲ得ルハ氏ノ言ノ如シ然レトモ貨幣輸出ノ原因ヲ以テ一ニ之ヲ通貨ノ夥多ナルニ歸スルニ至テハ余之ニ同意スルコト能ハス抑々貨幣ハ必スシモ廉ナルカ故ニ輸出セラル、モノニアラス間々又債主ノ物品ヲ受領シ肯セス貨幣ヲ需用セント欲スルニ起因スルモノアリ顧フニ社會ノ人ニシテ物品ヲ以テ其負債ヲ消却スルノ利便アルニ當テハ故サヲニ貨幣ヲ使用シ以テ之ヲ償却ス

硬 貨 論

ルモノナカラン然レトモ夫ノ物品ニシテ之カ數額ヲ増セハ忽チ價值ノ低落ヲ致スノ憂ヒアリ之ヲ以テ之ヲ普通媒介ノ貨幣ニ比スレハ其便否自ラ明カナルモノアリ故ニ債主タル國土ハ之ヲ受領シ肯セス負債國モ亦々之ヲ強ユル能ハサル時アリトソオントン氏亦之カ説ヲ爲シテ曰ク一國ノ輸出輸入ノ相互ニ平均スヘキ傾向アルハ固ヨリ然リ然レトモ國家若シ非常ノ難事アルニ遭遇スル事アラハ其平均ハ之ヲ維持スルコト難シ夫ノ歲ノ豐凶ノ如キ大ニ其影響ヲコノ傾向ニ及ホスコトアリ故ニ歲凶ニシテ諸穀ノ輸入ヲ外國ニ仰クニ當テ外國ノ人我カ生産ヲ需用セサル如キコトアラハ輸入ノ不平均之ヲ避ケント欲スルモ遂ニ得ハカラストトオマス、トウツク氏亦タ曰ク物品ハ貨幣ノ如ク毎ニ需用ニ遭遇スル能ハサルヘシト諸氏ノ言眞ニ然リ然リト雖モソオントン、トウツク氏ノ所謂ル非常

硬 貨 論

ノ時ノ如キハ近來大ニ減少スルノ勢ニシテ其前日ノ如クナラサルハ吾人ノ明知スル所ナリ見ヨ鐵道汽船電信郵便ノ發明アリテ以來海陸運搬ノ便日々其利ヲ加ヘ隨テ商賣ノ繁榮ヲ致シ需用供給一致ノ急速ナルハ決シテ前日ノ比ニアラサルニアラスヤ是ニ因リテ之ヲ觀レハリカルドオ氏ノ所謂ル天然ノ傾向ヲ妨碍スル所以ノ勢力ハ大ニ之ヲ減少シ輸出輸入ノ平均ハ期シ得ヘキノ事トナレルヤ疑ヲ容レス且近來ノ新設ニ係ル外債募集ノ事ノ如キモ亦大ニ此平均ヲ助クルノ實アリ以テリカルドオ氏ノ所說ヲシテ實際ニ行フヲ得セシムルノ端緒ヲ開キタリト謂フ可シ

貨幣ノ各社會商賣ノ景況ニ從テ分配セラル、ノ狀況ハ恰モ湖水ノ平面ヲ保ツカ如シ湖水ノ平面ハ暴風怒浪ノ爲メニ高低ヲ生スルコトアリ然レトモ一旦風止ミ浪靜ナレハ平面舊ニ復シ坦々砥ノ如クナルヘ

硬 貨 論

シ貨幣分配ノ法モ亦タコノ理ニ均シ故ニ法制ノ力ニシテ天然ノ活動ヲ妨クルニアラサルヨリハ各社會決シテ夥多ノ貨幣ヲ保持スルコトナク又決シテ貨幣ノ夥多ニ困苦スルコトナシ茲ニ於テ乎ソナトン氏斷言シテ曰ク廉價ヲ以テ諸物ヲ製造スルノ力ヲ有スレハ金銀ヲ有スルヨリモ貴シトセニナル氏モ亦タ曰ク英國ノ所有スル鑛山ハ世界ノ市場ナリ英國ノ鑛夫ハ金銀ヲ鑿出スルノ人ニアラスシテ物品ヲ製造シテ金銀ニ換フル人ナリト

上來說明スル所ニ依テ之ヲ觀レバリカルトオ氏ハ價銀ヲ以テ金銀分配ノ活動ヲ支配スルモノトナスヤ明カナリ夫レ貨幣ノ額増加スレハ其購買力減小シ隨テ物價騰貴ノ現象ヲ呈出スルハ是レ既定ノ通理ニシテ貨幣ノ輸出隨テ起ルモ亦タ必然ノ勢ナリ若シ又一社會ノ貨幣過少ニシテ分配ノ比例未タ適度ヲ得サルニ當テハ貨幣ノ購買力忽チ増

硬

貨

論

加シ物價爲メニ下落シ貨幣ノ輸入隨テ起リ須臾ニシテ衡平均一ノ適度ニ達スルヲ得ム唯夫レ斯ノ如シ故ニ價銀ハ常ニ貨幣分配ノ活動ヲ支配シ之ヲ均一衡平ナラシムルノ理アル識ルヘキナリ

然ラハ則チ一社會ノ要スヘキ貨幣ノ數額ハ果シテ如何ソヤ曰ク其社會ノ價銀ヲシテ他ノ社會ノ價銀ト平等均一ナルヲ得セシムルニ足ラハ則チ可ナリ故ニ玄米一石ヲ東京ヨリ倫敦ニ輸入スルノ經費ニシテ金二圓ヲ要シ倫敦ニ在テ玄米一石ノ相場十圓ナリトセハ日本ニ在リテ東京ノ米穀價銀ヲシテ一石八圓タラシムルニ適應ナル貨幣ノ數額アルヲ要ス然リ而シテ貨幣ノ數額ハ如何ンシテ我國玄米一石ノ價銀ヲシテ八圓タラシムル乎亦タ何方故ニ之ヲシテ八圓ヨリ騰貴セシメス八圓ヨリ低落セシメサル乎今コノ問題ヲ解カント欲セハ勢ヒ先ツ貨幣ノ數額ト價銀ノ間ニ如何ノ關係アルヤヲ詳察セサルヘカラス

硬

貨

論

彌兒曰ク貨幣ノ供給トハ現在人々ノ流用スル貨幣ノ總額ヲ云ヒ夫ノ倉庫ニ儲蓄シ市場ニ流通セサルモノ、如キハ固ヨリ供給ノ限リニアラス又貨幣ノ需用トハ市場ニ現出セル物品ノ總額ヲ云ヒ物品ノ販賣者ハ貨幣ノ購求者ナリ故ニ貨幣ノ總額増加セハ價銀騰貴シ貨幣ノ數額減少スレハ價銀低落シ若シ貨幣ノ額ニ倍センカ價銀二倍スヘシ貨幣ノ額一倍センカ價銀一倍スヘキナリ之ニ反シ貨幣ノ數額減少スルコトアラシキ其結果モ亦タ之ニ同シ故ニ物品ノ數額ニシテ増加スレハ貨幣ノ數額減少セサルモ價銀ノ下落得テ避クヘカラサルナリ因是觀之貨幣ノ價值ト其分量トハ轉比例ニ隨テ變動スルモノニシテ其數額増加セハ其價值低落シ其數額減少スレハ其價銀騰貴スルニ外ナラサルヘシト又曰ク斯ノ如ク論シ來レハ世人或ハ言ハン市場ニ現存スル物品ノ總額ハ社會ニ流通スル貨幣ノ總額ト交換セラル、モノニシ

テ物品總額ノ價值ニ相當スル貨幣ハ始終社會ニ存在スルモノナルヘ
 シト世人若シ斯ノ如キノ見解ヲ懷クアラハ誤謬ニ陷ラサント欲ス
 ルモ到底得ヘカヲサルカ如シ夫レ一國貨幣ノ總額ハ其國物品ノ總額
 ヲ購フニ止マラス一箇ノ貨幣ハ數回流通スルモノニシテ其流通ノ度
 ニ從ヒ數種ノ物品ヲ購求シ得ルモノナリ故ニ貨幣ノ數額ニ乘スルニ
 其流通ノ度數ヲ以テスルニ非ラスンハ物品需用ノ度ヲ計ルニ足ラサ
 ルヘシ然リ而シテ夫ノ信用ノ事一度行ハル、ニ及ンテハ是レモ亦タ
 物品ヲ需用スルモノ、一ナルカ故ニ勢ヒ之ヲ計入シテ之ヲ殘スヘカ
 ラス之ヲ要スルニ前條ノ比較ノ如キハ信用未タ行ハレサルノ社會
 ニ在テ始テ通用シ得ヘキモノトス又曰ク社會ニ存在スル貨幣ニシテ
 物品ノ需用者タラサルモノ唯リ藏蓄貨幣ノミナラス夫ノ資本トシ使
 用セラル、モノ、如キ其影響ヲ物品ニ及ホサスシテ之ヲ貸借ニ及ホ

スモノアリ而シテ現時ノ狀況ニ依テ之ヲ見レハ此類ノ貨幣ハ小額ノ
 モノニアラスト彌兒氏ノ言宜ナル哉夫レ貨幣流通ノ度數ニシテ之ヲ
 輕視セハ決シテ物品需用ノ計算ヲ正フスル能ハス其理宛モ上州ノ生
 糸商ニシテ生糸ヲ横濱ニ輸送スルニ當リ何輛ノ瀛車能ク之ヲ運搬ス
 ヘキヤヲ計算セント欲セハ唯リ停車場瀛車ノ數及其容量ヲ識ルヲ以
 テ足レリトスヘカラス必ラスヤ其往復ノ度數ヲ併セテ之ヲ識ラサル
 ヲ得サルカ如シ且夫ノ信用ノ如キハ近世ニ至テ漸ク發達ノ高度ニ達
 シ其日尙ホ淺シト雖モ其貨幣ヲ節畧スルノ効用ニ至テハ實ニ尠少ナ
 ラサルヲ見ル今其一例ヲ擧ケ信用ノ妙用ヲ證セン試ミニ茲ニ甲乙ノ
 二商アリ相互ニ物品ヲ取引シ相互ニ負債アルモノト假定セヨ即チ甲
 商ハ乙商ヨリ十圓ノ債ヲ負ヒ乙商ハ甲商ヨリ十三圓ノ債ヲ負ハ、此
 相互ノ負債ヲ消却スルニ三種ノ方法アルヘキナリ第一ノ方法ハ甲乙

硬 貨 論

互ニ其手代ヲ送り現金ヲ以テ之ヲ支拂フ是レナリ斯ノ如クスレハ甲乙二者ノ間三十三圓ノ貨幣ヲ要スヘシ第二法ハ甲商乙商ニ拾圓ヲ送り乙商ハヨレニ副フルニ三圓ヲ以テシ之ヲ甲商ニ返付スル是レナリ斯ノ如クスレハ二者ノ間猶ホ十三圓ノ貨幣ヲ要スヘシ第三ノ方法ハ甲商乙商互ニ其手代ヲ會合セシメ彼此ノ帳簿ヲ比較シ乙商ヨリ甲商ニ三圓ヲ遣ハシ互ニ其張面ヲ抹殺スル是レナリコノ第三ノ方法ニヨレハ僅ニ三圓ノ貨幣ヲ用キ以テ廿三圓ノ負債ヲ消却スルヲ得ヘキナリ信用ノ利便ハ豈ニ啻々斯ノ如キ小取引ノミニ止マランヤ夫ノ數千萬圓ノ負債ノ如キモ亦々皆ナ之ニ憑テ消却セラレ甚大ノ省畧ヲ貨幣ニ及ホスヘキナリ現時歐米開明ノ諸國ニ在テハ約束手形ヲ通用シテ之ヲ貨幣ニ代用シ所謂ル交換所ナルモノヲ設ケ其手形ヲ交換スル等ノ制度アリ貨幣省畧ノ事大ニ行ハル聞ク倫敦ノ交換所ニ在テハ年々

硬 貨 論

ノ交換高六十億磅ノ多キヲ致シ紐育ノ交換所ニ於テハ更ニコレニ過クルノ交換ヲ爲スト又聞クジヨンルボツク氏ノ銀行ニ拂入ル、金高ハ毎年一千九百萬磅ニシテ其内六十萬〇五千磅則チ其百分ノ三ノミ硬貨或ハ紙幣ヲ以テ之ヲ振り込ムト信用制度ノ大ニ行ハル、事實得テ徴スヘシ、

以上論スル所ヲ要言スレハ貨幣ハ物品ノ需用者ニシテ物品ハ貨幣ノ需用者ナリ故ニ貨幣増加スレハ物價騰貴シ物品減少スレハ物價騰貴スルモノニシテ貨幣減少シ物品増加スレハ物價低落セサルヘカラサルモノナリ然レトモ物品ヲ需用スル貨幣ハ唯流通貨幣ニシテ蓄藏貨幣、貸借貨幣ノ如キハ其影響ヲ此ニ及ホサス而シテ流通貨幣ノ數額ヲ以テ單ニ物品需用ノ數ト爲スコレ亦精シカラサルノ説ニシテ信用及ヒ流通ノ度數ヲ以テ之ニ加ヘサルヘカラストイフニ止マルノミ今式

硬貨論

ニ依テコレヲ示サンニ即チ左ノ如シ
 { (貨幣總量) = (貨幣流通) + (貨幣貯蓄) } × (流通速度) + (信用) = 物品需用 }
 此外社會殊別ノ制度ニシテ大ニ影響ヲ貨幣ノ需用ニ及ホスコトアリ
 奴隸使役ノ制ノ如キ即チ是レナリ顧フニ其制ニシテ行ハル、アラハ
 其國タル人口ニ比較シテ多額ノ貨幣ヲ要セサルナリ
 論シテコ、ニ至ラハ余ハ斷シテ一社會ノ要スヘキ貨幣ノ數額ハ幾何
 ナリト言フヲ得ルカ如シ而シテ余ハ此章ヲ終ハルノ前ニ當テ字内ノ
 社會ヲ區別シテ外國ト通商セサルノ社會外國ト通商スルノ社會トナ
 シ以テ此二社會ノ要ズル貨幣ノ數額ハ果シテ如何ナルヤヲ識ラント
 欲ス夫レ外國ト通商ヲナサ、ルノ社會ハ其保持スル貨幣ノ多少ニ依
 テ之ガ利害ヲ感スルコトアラサルカ如シ顧フニ斯類ノ社會ニシテ其
 保持スル貨幣多キニ過クアラハ物價固トヨリ騰貴スヘシト雖モ其外

硬貨論

國ト通商ヲ開カサルカ爲メ其人民タルモノ一様ニ高價ナル物品ヲ購
 求スルニ止マリ別ニ之カ痛痒ヲ感スルコトナカルヘシ故ニ其貨幣ノ
 數額ニシテ夥多ニ失スルモ過少ニ失スルモ其間一二ノ利害ヲ生セサ
 ルナリ今又前言ヲ節約シテ其要ヲ云ハンニ即チ曰ク
 第一 外國ト通商セサルノ社會ハ貨幣ノ多寡ニ依リ其利害ヲ感ス
 ルコトナシ
 第二 外國ト通商ヲ爲スノ社會ハ其社會ノ產出スル物品ノ價銀ヲ
 シテ他ノ社會ノ產出スル物品ノ價銀ト均一ナラシムルニ相當ナ
 ル貨幣ヲ有セサルヘカラスト
 貨幣分配價銀平均ノ事タル元ト是レ自然ニ行ハル、モノニシテ法制
 ノ力ヲ要スルモノニアラス然リト雖モ夫ノ不換紙幣ノ通用アル國土
 ノ如キハ間々コノ範圍中ニ入テ天然ノ勢力ニ支配セラル、能ハサル

コトアリ吾人勢ヒ之ヲ識ラサルヘカラス但タ此事タル不換紙幣弊害ノ最大著名ナルモノニシテ其關スル所頗ル重シ余請フ後段不換紙幣ヲ論スルノ條ニ於テ仔細ニ之ヲ論辨セム是ニ於テ乎余ハ次ノ一章ヲ以テ貨幣供給ノ利害ヲ論シ世界全般ハ多額ノ貨幣ヲ有スルヲ以テ其宜シキヲ得タリトスル乎一大問題ヲ分解シ讀者ヲシテ益々貨幣供給ノ通理ヲ曉ラシメント欲ス

第十二章 貨幣ノ供給ヲ増加スル利害ヲ論ス

リカルドオ及ビケヤ子スノ説 アリソンノ説 ヒユムノ説

マクコツクノ説 アリソンノ説ヲ駁ス ヒユムノ説ヲ駁ス

マクロツクノ説ヲ駁ス リカルドオ及ビケヤ子スノ説ヲ賛ス

貨幣ノ増額ハ金利ヲ低落セズ 貨幣輸出ノ二原因及其關係

貨幣ノ供給ヲ増加スヘキ乎將タ之ヲ増加スヘカラサル乎ノ一問ハ古來學者ノ大ニ腦力ヲ用ユル所ニシテ今ニ至ルマテ尙ホ未タ理非ノ判然セザルアリ或ハ貨幣供給ノ増加ヲ以テ利アリトシ或ハ之ヲ以テ害アリト爲シ或ハ其利害得失相半スト謂フ等其異同月竈モ啻ナラサルナリ而シテ夫ノ利害得失相半ハスト爲ス者ノ如キハ曖昧模糊ノ中ニ在テ其説ヲ立テ其力頗ル弱シ故ニ余ハ今暫ラク措テ之ヲ論セス唯タ之レヲ利アリトスルモノ及ヒ之ヲ害アリト爲スモノ、論旨ヲ比較シ

以テ其是非ヲ判斷スルアラントス

リカアドオ派ノ經濟學士ハ概子貨幣供給ノ増加ヲ以テ社會ニ不利ナ
リトナス其論ニ曰ク貨幣ノ額之ヲ増セハ其購買力ヲ減シコレヲ減ス
レハ其購買力ヲ増ス之ヲ増スモコレヲ減スルモ損益利害アルコトナ
シ然ラハ則チ人生貴重ノ勞力ヲ徒費シ鑛坑ヲ穿ツテ貨幣ヲ増殖スル
ヲ謀ルハ抑モ是レ無益ナラスヤト博士ケヤ子ス氏ハリカアドオ氏傳
統ノ經濟學士ニノ夙ニ出藍ノ名アリ又特ニ豪斯太利及加里福尼金坑
鑿出ノ影響ヲ研究シ頗ル其要ヲ極ム嘗テ之ヲ論シテ曰ク世或ハ金ヲ
以テ幣ニ便利ナル交換媒介物ト爲スニ止マラス又之ヲ以テ生産發達
ノ淵源トナシ工業貿易ヲ進捗セシムルモノトナシ資本ヲ増殖スルモ
ノト爲シ其功道路港灣ノ改良製造物ノ發達等ニ讓ラサルモノト爲ス
モノアリ今斯ノ類ノ見解ニ依レハ金坑ノ發見ハ無上ノ利益ヲ社會ニ

論 貨 硬

硬

貨

論

與ルモノニシテ幣ニ黄金ヲ販賣スルノ國ノミ其利益ヲ得ルニ止マラ
ス夫ノ黄金ヲ儲蓄スル社會ノ如キモ亦其澤ヲ蒙ルモノトナスニ似タ
リ然レトモ是レ甚タ過テリ夫レ尙金貿易説ノ理ニ似テ而シテ非ナル
所以ハ經濟ノ奧義ヲ極ムルニ憑ツテ始メテ之ヲ知ルモノニ非ラス唯
々吾人日常ノ經驗ニ憑テ之ヲ判斷シ得ヘキナリ即チ社會眞成ノ富源
ヲ割テ而シテ富メリトナシ五穀麻布ノ如キ人生ノ幸福ニ必用ナル物
品ヲ徒用シ以テ無用ノ貿易媒介物ヲ増加スルヲ得策トナスカ如キハ
是レ固ヨリ非策ノ非ナルモノニシテ智者ヲ俟テ而シテ后チ知ラザル
ナリ嗚呼何レノ時カ全ク金銀開墾ノ徒勞ヲ止メ之ヲ移シテ有益ノ專
業ヲ隆盛ナラシムルヲ視ルニ至ルヘキヤ余ハ思フテ茲ニ至ル毎ニ唱
然ノ情自カテ禁スル能ハサルナリト
貨幣供給ノ増加ヲ以テ利アリトスルノ論者各其憑ル所ヲ同フセス就

大東亞地理學
所(後)第(五)卷(一)
指(下)和(也)也(也)

論 貨

中史家アリソン氏ノ如キハ最モ其極端ニ走リタルモノト謂フヘシ氏
曰ク歴史ニ憑テ之ヲ徴スルニ開闢以後ノ大事件ハ悉ク皆貨幣供給ノ
多少ニ原因スルモノ、如シ彼ノ羅馬帝國ノ滅亡ノ如キ或ハ之ヲ人民
ノ無學ニ歸スルアリ或ハ之ヲ奴隸ノ制度ニ歸スルアリ或ハ之ヲ邪宗
ノ流行道徳ノ壞頹等ニ歸スルモノアリ然レトモ其最大原因ヲ索ムレ
ハ則之ヲ西班牙及希臘ノ金銀坑採掘ノ停止ニ歸セサルヲ得ス其後歐
洲各國ノ黯黒時代ヲ脱却シテ開明時代ニ進ミシモ亦タ皆ナ金銀供給
ノ増加之レヲシテ然ラシメタルモノニシテ別ニ原因アツテ之ヲ致シ
タルニアラサルナリ又格龍氏始メテ大西洋ヲ渡航シ南北米洲ヲ發見
セシヨリ以來金銀ノ供給ハ忽チ既往ニ三倍シ物品ノ價銀ハ須臾ニ以
前ニ四倍セリコトヲ以テ負債租稅ノ負擔ハ大ニ輕減シテ民間百般ノ
工業ハ速ニ發達シ封建ノ勢力ハ漸ク振ハスシテ人民ノ權利ハ益々固

論 貨 硬

キニ至レリ故ニ余ハ以爲ラク現時歐洲ノ文明ハ墨是哥及ヒ白露銀山
發見ノ賜ナリト
又曰ク一千八百十五年ノ平和以來英國及ヒ其他貿易ニ從事セル國民
ニシテ非常ノ困難ニ遭遇シタル事實ハ苟モ經濟ノ學ニ志スモノ誰レ
カ之ヲ知ラサランコノ時ニ當テ學者紳士ハ其原因ヲ極メント欲シ種
々ノ觀察ヲ下シタリト雖モ其眞因ヲ看破シタルモノハ未タ一人ダモ
アルコトナシ蓋シ今日ヨリ當時ノ情況ヲ察スレハ其變動ハ夫ノ南亞
米利加ノ革命ト英國紙幣流通ノ結果トニ由テ貨幣供給ノ額ヲ世界ニ
減シタルニ起生シタルヤ明カナリ而シテ此二種ノ原因相結ンテ價銀
ノ低落ヲ來タシ負債ト租稅トノ負擔ヲ重カラシメタルヲ以テ英國等
ノ商業頓ニ衰頹シ世界各國モ亦タコノ例ニ慣ハントセリ物變リ星移
リ隕地利及加利福尼ノ金山發見セララル、ニ及ンテ商運コト、ニ一變シ

論 貨 硬

未タ五十年ナラスシテ價銀從前ニ四倍シ負債租税ノ負擔ヲ減殺シ商業ノ衰ヲ恢復スルニ至レリコレ蓋シ加里福尼鑛山ノ每歲二千五百萬磅ノ金塊ヲ產生シ加フルニ礦地利及ユウラル山脈產出ノ金ヲ以テシ年々三千乃至四千萬磅ノ黃金ヲ供給シタルカ爲ナリト

哲學士ヒユム氏ハ又貨幣供給ノ増加ヲ主張スルノ人ナリ其言ニ曰ク金銀供給ノ増加價銀ノ騰貴ヲ致ストイフノ説ハ金甌無欠ノモノニシテ毫モ間然スヘキノ點ナシ然レモ價銀ノ騰貴ハ金銀ノ供給増加スルノ時直ニ起ルモノニアラスシテ其増加シタル影響ノ一般ニ及フ迄ハ多少ノ日子ヲ要セサルヘカラス故ニ金銀供給ノ増加スル初ハ毫モ影響ヲ相場ニ及ホスコトアラサルモ其影響ハ漸次ニ二三ノ物品ヨリ一般ノ物品ニ及ヒ遂ニ其供給増加ノ額ニ應シ價銀一般ノ騰貴ヲ來タスニ至ルヘキナリ願フニ金銀供給増加ノ貿易工業ヲ利スルハ金銀始テ

説去々

論 貨 硬

増加セラレタルノ時ト其社會全般ニ影響ヲ及ホス時トノ間ニアルナリ夫レ金銀ノ始テ輸入セラル、ニ當テヤ先ツ影響ヲ二三ノ物品ニ及ホシ以テ其價銀ヲ騰貴シ隨テ二三ノ資本家ヲシテ其大利ヲ得セシムルカ爲メ資本忽ニ増加シ賃銀騰貴シテ勞力者ノ氣力ヲ増進スヘシ故ニ貨幣ノ増額ハ生産ヲ増殖スルヲ得因是觀之貨幣増額ノ利ハ一般ノ價銀ヲ騰貴セシメサル前ニ在テ二三ノ資本家ヲ獎勵スルニアリト

貨幣供給ノ増加ヲ是トスル第三ノ論旨ハマクログ氏等ノ稱道スル所ニシテ實ニ負債ノ負擔ヲ輕減シ地料年金等ヲ減殺スルヲ以テ其主眼トナスモノ、蓋シ現時各政府ノ公債ハ著大ノ増加ヲナシ殆ント三十億圓ノ大額ニ上リ而シテ私債ノ如キモ又優カニコレニ超過セリ斯非常ナル金額ノ元金及利息ハ悉ク貨幣ヲ以テ返辨セサルヘカラスルモノタリ今若シ貨幣ノ供給増額スルコトアラン乎コノ大額ノ負擔ハ

大ニ減少スヘシ若シ又貨幣ノ供給減少スルコトアラン乎コノ負擔ハ爲メニ増加スヘキナリ要スルニ貨幣供給ノ問題ハ負債主ヲ利セン乎債主ヲ利セン乎其得失ハ果シテ何レニアル乎勢ヒ其一ニ居ラサルヲ得ス是ヲ以テ吾人今之ヲ輕忽ニ付スヘカラサルナリ

何カ故ニ貨幣ヲ増セハ公債私債ノ負擔ヲ減シ之ヲ減スレハ其負擔ヲ増スト云フ乎蓋夫ノ貸借ナルモノハ表面ヨリ之ヲ見レハ金銀ノ取引ニ過キスト雖モ裏面ヨリ之ヲ窺ヘハ勞力ノ借貸タルヲ以テナリ爰ニ某人アリテ東京府廳へ年六分ノ利ヲ以テ金一萬圓ヲ三十年貸付ケ而シテ東京府ハ之ヲ道路橋梁ノ營繕水道普請等ノ入費ニ充テタリト假定セヨ此場合ニ在リテ勞力ノ價平均一日金壹圓貳拾五錢ナリトスル時ハ東京府ハ某人ヨリ八千日ノ勞力ヲ借受シタルモノニシテ三十年ノ後ニ八年六分ノ勞力ヲ利子トシテ返辨スヘシト謂フ約束ヲ爲シタ

ルナリ今夫レ貨幣増加スレハ價銀騰貴シ價銀騰貴スレハ勞力モ亦タ從テ騰貴ス之レカ爲メ夫ノ東京府ノ如キハ其間ニ利ヲ得ルコトナシトセサルナリコ、ニ於テカマクロツク氏及ヒ其他ノ學士ハ相共ニ稱道シテ曰ク素封家ハ多ク生産ニ從事セス生産スルモノハ大概子資本ヲ借用ス故ニ今貨幣ノ供給ヲ増シ負債ノ負擔ヲ輕カラシメハ工業ノ發達ヲ促スコト勦ナシトセス加フルニ公債ヲ拂フカ爲メニ政府ノ徵收シタル租稅ノ如キモ亦其額ヲ減少スルニ至ルヘシ故ニ貨幣ノ増額ハ其益多クシテ毫モ害アルモノニアラサルナリトマクラレン氏ハコレヲ難シテ曰ク奚爲レゾ己得ノ財産ヲ抑損シテ將得ノ財産ヲ養成スルヲ用キンヤ斯ノ如ク一方ヲ害シ他ノ一方ヲ利シ以テ策ノ得タルモノト爲スハ大ニ誤マレリト云フヘキナリト蓋シマクラレン氏ハマクロツク氏ノ說ヲ誤解シタルモノナリマクロツク氏ハ特ニ負債

硬 貨 論

者ノ負擔ヲ減シテ其義務ヲ輕減スヘシトイフニアラス自然ノ勢力ニ從テ之ヲ爲ント欲スルノミ要スルニ此問題ノ歸着スル所ハ過去ノ勞力ヲ保庇ノ現在ヲ抑制センカ將タ現在ノ勞力ヲ發達セシメテ過去ヲ抑制センカト云フニ在リ故ニシペリヤ氏之ヲ判ノ曰貨幣供給ノ額ヲ增セハ自己ノ勞力ヲ以テ生計ヲ營ムモノヲ益ノ祖先ノ勞力ノ餘澤ニヨツテ生活スルモノヲ抑ユ是レ所謂開明進歩ノ規則ニ違反セサルモノニソ社會ノ文明ハ之ニヨリテ大ニ裨益サル、所アルヘキナリト以上開陳セル貨幣増額ノ說ハ分ツテ三種トナスヲ得ヘシ第一貨幣増額ハ産業ノ發達ヲ獎勵スヘシトイフノ議又分レテ二種トナスヲ得ヘシ即アリソン氏ノ謂フカ如ク貨幣増額ハ社會ノ運命ヲ改革スヘシトイフノ議及ビヒユムノ所謂其影響ヲ全般ニ及ボサヾルノ前産業ヲ振起セシムベシトノ議コレナリ第二貨幣増額ハ負債ノ負擔ヲ經

硬 貨 論

減スヘシトイフノ議第三租稅ノ負擔ヲ輕クスルト云フノ議即チ是ナリ今夫レアリソン氏ノ說ハコノ三種ノ議ヲ包蓄スルモノ、如シト雖モ殊ニ社會ノ運命ヲ改革シ租稅ノ負擔ヲ輕減スルノ二點ヲ以テ議論ノ骨子トセルモノ、如シ蓋シ租稅ノ負擔ヲ輕減シ隨テ産業ノ發達ヲ致スヘシトトフノ說ハ合理ノモノ、如シト雖モ抑モ亦之ヲ租稅ノ性質ヲ極メサルモノ、唱フル所ト謂ハザルヲ得ス何トナレハ若シ租稅ヲシテ負債辨償ノ爲メニ徵集スルモノタラシメハ貨幣増額ノ爲メニ其負擔ヲ減少シ亦タ從テ其額ヲ減シ以テ人民ノ負擔ヲ輕カラシムルコトナキニ非ラスト雖モ租稅ノ大部ハ政府ノ費用ニ充テラル、モノナルヲ以テ貨幣増加スレハ物價騰貴シ亦隨テ政府ノ入費ヲシテ多カラシムヘシ故ニ人民ノ負擔ハ決シテ之レカ爲メニ輕減セラルヘキ理由ナキナリ且ツ社會ノ運命ヲ改革スヘシト云フ說ノ如キハ畢竟スル

論 貨 硬

ニ尙金貿易説ヨリ遺傳セルモノニシテ前條ニ引用セルケヤ子ス氏ノ説ハ能クコレヲ破フルヲ得ヘキナリ是ニ因テ之ヲ觀ルニアリソン氏ノ説ハ荒唐無稽取ルヘキ所歟ナキナリ

タビツトヒユム氏ノ説ハ大ニ前者ニ優レルモノアリ氏ノ説ノ大要ハ既ニ前段ニ開陳セル如ク價銀ノ騰貴一般ニ波及セサル前ニ當テ二三物品ノ價銀ヲ騰貴セシメ隨テ二三生産者ノ利潤ヲ増加シ資本ヲ増殖シ賃銀ヲ騰貴シ勞力者ヲ獎勵スルヲ以テ大ニ生産ヲ増殖スルニ至ルヘシト云フニアアルナリ抑モヒユム氏ハリカアドオ派經濟學士ノ未ダ認メサル所ノ二點ヲ看破シタリ第一普通人民ハ容易ニ經濟上ノ變動ヲ認メサルコト第二價銀ハ一時ニ高低スルモノニアラスシテ其影響ヲ全般ニ及ホスマテハ多少ノ時間ヲ要スルコトコレナリ夫レヒユム氏ノ説是ノ如ク妥當周密ナリト雖モ亦夕間然スルトコロ無キニアラ

論 貨 硬

サルナリ何トナレハヒユム氏ノ云フ如ク價銀ハ一時ニ高低スヘキモノニアラスナルヲ以テ假令ハ甲品ヲ販クモノハ他ニ先タチテ其價銀ヲ引上ケ隨テコレニ從事スル職工等ハ賃銀ノ増給ヲ得テ業務ニ勉勵スヘシト雖モ乙丙丁ノ如キ他ノ物品ヲ販賣スル者及其職工等ハ其損害ヲ蒙ラサルヲ得サレハナリ且夫ノ貨幣増額ノ爲メニ利益ヲ得タル輩ハ其物品ヲ販賣セサルヲ得ス而シテコノ物品ヲ購求スルノ徒ハ亦タ彼乙丙丁ノ物品ヲ販賣スルノ輩ナリ若シ夫レ然ラハ甲商カ物品ヲ販賣シテ得ル所ノ利ハ則乙丙丁等ノ物品ヲ販賣スルモノ、損失タルニ外ナラス故ニ貨幣増額ノ爲メニ一方ニ超ル所ノ利ハ則他ノ一方ニ起ル所ノ害ニシテ一方ノ好景氣ハ他ノ一方ノ不景氣ナリ是レヒユム氏ノ説ノ未ダ以テ完全ノ者ト爲スニ足ラサル所以ナリ或ハ説ヲ爲シテ曰ク甲種ノ物品ヲ販賣スル者ノ利ハ乙種丙種等ノ物品ヲ販賣スルモ

論 貨 硬

ノ損ヨリモ大ナリト夫レ或ハ然ラン然レトモ其少ナル差異ヲ以テヒユム氏ノ説ヲ容ルニ能ハサルナリ

マクロツク氏及ヒ其他經濟學士ノ唱フル所ノ貨幣増額説及ヒ負債ノ負擔ヲ輕減スヘシト云フノ説ハ稍々其ノ理アルニ似タリ然レトモマクロツク氏ノ稱道スルカ如ク生産者即負債者ノ責任ヲ輕クシテ之レヲ利スルコトアラハ夫ノ資本者即債主ハ其損害ヲ蒙ラサルヘカラス若夫レ然ラハ彼ノ輩ノ儲蓄心ハ頓ニ衰耗シ其財産ヲ資本トシテ使用スルノ念モ亦タ漸ク衰フルヲ以テ生産者ノ借受スヘキ資本ノ額ハ大ニ減少スヘキナリ然リ而シテ夫ノ生産者ナルモノハ多クハ資本ヲ有セサルモノナルヲ以テ之ヲ經濟上ヨリ論スルニ其負債負擔ノ輕減ハ決シテ社會ニ利アリト云フヘカラサルナリ

余ハ己ニ貨幣増額ノ得失ニ關シタル諸論ヲ掲ケ一々コレヲ批評シ殆

論 貨 硬

ント餘蘊ナキヲ覺フ願フニ上來開陳セル所チ一々通覽シタル讀者ハ必ラス之レヲ識ルナラン抑モ貨幣ノ増額ヲ利アリトスルノ諸論ハ概子經濟上ノ主義ニ違フモノニシテ之レニ賛成スル能ハス夫ノヒユム氏ノ説ノ如キ稍々取ルヘキ所アリト雖モコレモ亦タ偏頗ノ見タルヲ免レス唯適當ニシテ取ルヘキ者ハリカアドオ氏及ヒケヤ子ス氏等ノ説ナリ夫レ貨幣ノ増額夥多ニ過クレハ信用ノ制度ハ之レト共ニ成立スルヲ得サルヲ以テ余ハ益々其増額ヲ企望セサルナリ然リト雖モ余豈徒ニ貨幣ノ節減ヲ欲スルモノナラヤ商況ノ盛衰ニ應シテ適當ノ供給アラシムコトハ固ヨリ其欲スル所ナリ願フニ唯其過多ナルヲ欲セサルノミ

或人又稱道シテ曰ク貨幣ヲ増發スレハ金利ヲ低落スヘク亦隨テ工業ノ發達ヲ誘導スヘキナリト余ハコノ説ヲ賛成スル能ハサルナリ夫レ

硬 貨 論

金利ナルモノハ資本ノ使用ヨリ生スルノ報酬ナルヲ以テ必ラスシモ
 貨幣ニ限レルモノニアラス又タ夫ノ借貸ナルモノハ貨幣ヲ借貸スル
 ニアラスシテ其實資本ヲ借貸スルニ外ナラス今金千圓ヲ借受スルコ
 トアランニ千圓ノ貨幣ヲ保持スルノ目的ヲ以テ之ヲ借ルニアラスコ
 レヲ物品ニ交換シテ之ヲ資本トナシ以テ其増殖ヲ謀ルニアリ故ニ夫
 ノ貨幣ナルモノハ財産増殖ノ目的ヲ達センカ爲メノ手段ニシテ吾人
 カ夫ノ金利ヲ拂フハコノ手段ノ爲メニ拂フニアラスシテ其目的ヲ達
 センカ爲メニ拂フモノナリ希臘ノ碩學アリストオトル曾テ論シテ曰
 グ貨幣ヲ人ニ貸與シテコレカ金利ヲ貪ホルモノハ社會ノ罪人ナリ夫
 レ貨幣ハ貨幣ヲ生スルモノニアラス焉ソ金利ヲ貪ホルノ理アラン
 ヤト是アリストオトル氏ノ言理アルニ似テ非ナリ貨幣ハ貨幣ヲ生セ
 スト雖モ貨幣ヲ以テ牛羊ニ換ヘコレヲ蓄ハ、牛羊蕃殖スヘキナリ且

硬 貨 論

夫ノ利足ノ高低ハ貨幣ノ多寡ニ關スルモノニアラスシテ資本供給ノ
 多少ト其使用ノ繁劇ナルト繁劇ナラザルトニ因テ變更スル者ナリ故
 ニ資本過少ノ國ニ於テモ政令紊レテ整ハサレハ利息低オカラス資本
 夥多ノ國ニ於テモ工業盛ンナレハ利息高騰スルコトアルヘシ夫レ此
 ノ如ク全体局面上ヨリ之ヲ謂ヘハ貨幣ノ増額ハ金利ヲ騰貴セシムル
 ノ原因トナスニ足ラスト雖モ數月或ハ數週ノ間ニ在テハ其影響ヲ金
 利ニ及ホスコトアルヘシ是レ貨幣ナルモノハ債主ヨリ負債者ニ資本
 ヲ移スノ器械トナリ亦タ負債者ヨリ債主ニ金子ヲ返辨スルノ器械ト
 ナリ而シテ借貸ノ事ハ其多寡ニ隨テ或ハ澁滯シ或ハ圓滑ナルヘキヲ
 以テ也夫レ貨幣ノ額ト金利トノ關係ハ大畧斯ノ如シ余輩ハ今コノ章
 ヲ終ルニ當テ彼ノ重要ナル金銀輸出ノ問題ニ就テ陳述スル所アラン
 ト欲ス抑モ金銀輸出ノ事タル其原因二種アルナリ第一貨幣増額價銀